

---

# 名護市アーバンスポーツパーク基本計画策定業務 報告書

---

...

令和5年(2023年) 3月  
名護市



---

# 目次

---

<b>序章 業務概要</b> .....	<b>1</b>
序一1 業務の背景・目的.....	1
序一2 業務フロー.....	2
<b>第1章 計画条件の整理</b> .....	<b>3</b>
1-1 アーバンスポーツの概要.....	3
1-2 関係法令、上位・関連計画.....	6
1-3 国・県におけるアーバンスポーツ活動の現状調査.....	14
1-4 マーケティング調査.....	21
1-5 名護市におけるアーバンスポーツの現状及び課題整理.....	24
<b>第2章 計画内容の検討</b> .....	<b>28</b>
2-1 計画条件を踏まえた方向性.....	28
2-2 整備する競技種目の選定（整備方針）.....	29
2-3 導入機能及び規模の設定.....	37
2-4 建設候補地の抽出.....	41
2-5 関係者ヒヤリング.....	44
2-6 整備計画図の作成.....	46
<b>第3章 施設計画</b> .....	<b>48</b>
3-1 施設整備と利活用の基本方針.....	48
3-2 競技種目ごとの基本方針.....	49
3-3 動線計画.....	53
3-4 構造計画.....	54
3-5 施設計画.....	57
3-6 設備計画.....	58
<b>第4章 事業化計画</b> .....	<b>60</b>
4-1 概算事業費.....	60
4-2 事業手法の検討.....	62
4-3 事業化スケジュール.....	64
<b>第5章 管理運営及び事業効果等の検討</b> .....	<b>65</b>
5-1 管理運営計画.....	65
5-2 管理・運営者の収支に関する事項の検討.....	66
5-3 管理運営者の事業収支に関する試算結果.....	73
5-4 損益分岐点の見通し.....	75
<b>第6章 事業効果の検討</b> .....	<b>78</b>

6-1	観光客の増加に伴う経済波及効果	78
6-2	建設工事に伴う経済波及効果	80
<b>第7章</b>	<b>会議の運営支援</b>	<b>82</b>
7-1	庁内関係部署連絡会	82
7-2	関係者・関連団体との意見交換会	83
<b>第8章</b>	<b>事例調査</b>	<b>86</b>
8-1	県内施設の事例調査	86
8-2	県外施設の事例調査	86
<b>参考資料</b>		<b>87</b>
1.	各種目の概要・動向	87
2.	アーバンスポーツに関する主な大会・合宿	96
3.	国の関係法令及び主要政策	102
4.	アーバンスポーツパークの整備に関連する法律等	108
5.	県・市の上位関連計画及び主要プロジェクトの整理	113
6.	県内施設調査結果	125
7.	県外視察先概要	133
8.	県外視察ヒアリング事項	140
9.	県外施設調査結果	142
10.	市民アンケート結果報告資料	161

---

## 序章 業務概要

### 序-1 業務の背景・目的

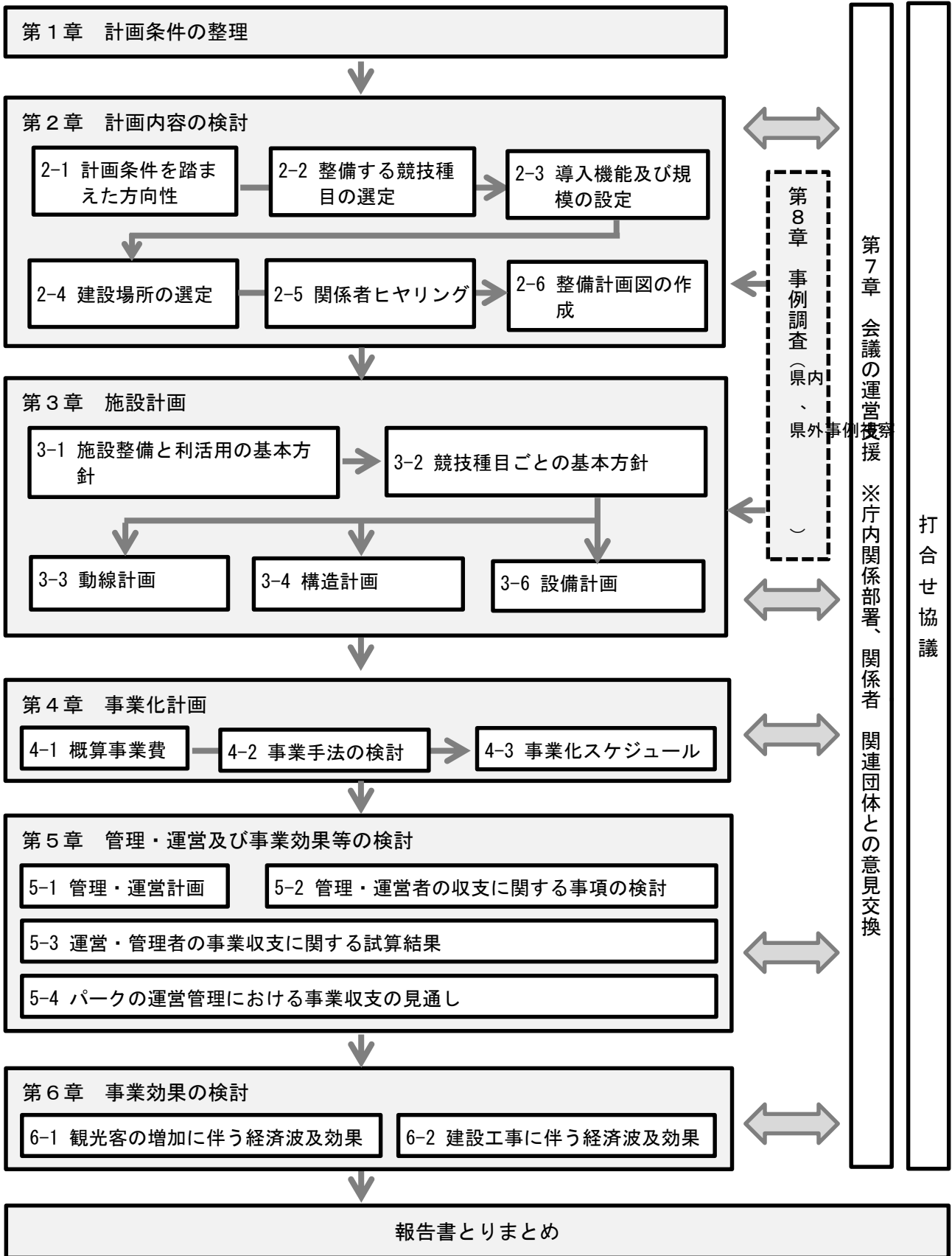
東京オリンピック以降、全国でスケートボードをはじめとしたアーバンスポーツパークの建設および今後の整備計画が増加している。本市では、21世紀の森公園内の多目的広場に仮設のセクションを設置し暫定的に利用しており、近年その利用者が増加している。

そのようななか、名護湾沿岸基本計画（令和3年3月）において、21世紀の森公園内の多目的広場を含むエリアはレクリエーションゾーンとして再整備を実施する計画がされている。

このような背景を踏まえ、名護市アーバンスポーツパーク基本計画策定業務（以下、「本業務」という。）は、本市のさらなるスポーツツーリズムの発展に資するアーバンスポーツ活動拠点としての整備に向け、アーバンスポーツの現況課題や施設の必要性について検討を行い、施設の建設候補地及び機能・規模・方針等の基本的な考え方を定めたうえで、施設整備計画及び管理・運営計画等を包含した基本計画となる「名護市アーバンスポーツパーク基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定することを目的とする。



序-2 業務フロー



# 第1章 計画条件の整理

## 1-1 アーバンスポーツの概要

- ✓ 東京五輪での「スケートボード」等の種目採用を契機に世界的に盛り上がりつつある。
- ✓ 2024年パリ五輪では、新たに「ブレイキン」が種目として採用されるほか、「パルクール」のお披露目が予定される。
- ✓ 世界大会（XGAMES等）が国内で開催される等、更なる盛り上がりを見せつつある。

### (1) アーバンスポーツとは

アーバンスポーツとは、広い競技場などを必要とせず都市のなかでできる、若者の遊びから生まれたスポーツである。その定義について、現状明確に定められたものはないが、スポーツ庁・アーバンスポーツ研究会では、一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会の針谷専務理事の著書にある「エクストリームスポーツの中で、都市での開催が可能なものがアーバンスポーツである」がベースになるとしている。

アーバンスポーツの代表的な種目として、スケートボード、BMX、スポーツクライミング、バスケットボール（3x3）が挙げられ、これらは東京五輪で新たに種目として実施された。続くパリ五輪においても、これらの競技が引き続き実施されるとともに、ブレイキンが追加されることが決定している。また、パルクールについて、パリ五輪での採用は見送られたものの、「お披露目式」が行われることが決定している。そのほか、パデル、フライングディスク、スラックラインといったスポーツも将来的なオリンピック種目への採用を目指しており、今後の普及に期待ができる。

また、国内においても、X-GAMESやストリートリーグ等のアーバンスポーツの世界大会の開催がされる等、さらなる盛り上がりを見せている。

上記を踏まえ、本業務では、以下のアーバンスポーツを対象に検討を行う。

表 本業務における検討対象とする種目

	種目	備考
1	スケートボード	・2020東京五輪から正式種目
2	3×3（3人制バスケットボール）	・2020東京五輪から正式種目
3	BMX	・スケートボードと親和性が高い競技 ・2020東京五輪から正式種目
4	スポーツクライミング （ボルダリング）	・2020東京五輪から正式種目
5	パルクール	・2024パリ五輪でお披露目式
6	ブレイキン	・2024パリ五輪から正式種目
7	パデル	・五輪正式種目化が期待
8	フライングディスク	・2028ロス五輪正式種目化を目指す
9	スラックライン	・五輪正式種目化を目指す

---

## (2) 主な大会・合宿

各種目の競技大会が主催、共催、協賛、後援する大会や合宿等について、整理する。

### 1) スケートボード

- ◆ 国内大会として、ワールドスケートジャパン、AJSA、JSF がそれぞれ国内大会を開催している現状である。
- ◆ AJSA 全日本アマチュア選手権については、各地区で行われる「AJSA アマチュア地区サーキット」の上位者が進出する。
  - 東北、関東、中部、関西、九州の地区は各2戦開催（越境参加可能）
  - 北海道、北陸、中国四国、沖縄の地域は各1戦開催（越境参加不可）
- ◆ ワールドスケートジャパンが開催する選手権大会は、アジア競技大会派遣選手の選考や、強化指定選手の選考を兼ねて開催される。
  - ワールドスケートジャパン主催による強化合宿が実施される。
- ◆ JSF の主管によるサマーキャンプが実施されており、参加対象は JSA ライセンス検定スタンダードクラス1級を取得している選手に限っている。

### 2) 3x3

- ◆ JBA（日本バスケットボール協会）主催により、日本選手権が実施されている。これらは、東・中・西日本エリア大会勝利16チームによる決勝トーナメントを行うものとしている。
- ◆ 3x3.EXE PREMIER は世界初の3人制バスケットボールリーグであり、2022シーズンは日本から48チーム（男子42チーム・女子6チーム）、そしてタイ、ニュージーランド、チャイニーズ・タイペイが加盟し、100を超えるチームを要する世界最大規模のリーグとなっている。
  - 4か月にわたりレギュラーシーズンが開催され、2019年ぶりに海外チームを含むプレーオフが開催された。
- ◆ JBA 主催により、3x3 JAPAN TOUR が実施されている。これは、複数ラウンド（2022は13ラウンド）実施され、ツアーポイントを加算、そのポイント上位者でファイナルが実施されるものである。
  - 上位者には、FIBA 3×3 Challenger 2022 の出場権が与えられる。
- ◆ JBA の主催で強化合宿が主に味の素ナショナルトレーニングセンターで実施されている。

### 3) BMX

- ◆ 全日本 BMX フリースタイル選手権、JapanCup が国内大会として開催されており、それぞれ JCF（日本自転車競技連盟）、JFBF（全日本フリースタイル BMX 連盟）が主催している。
- ◆ 全日本 BMX フリースタイル選手権については、JCF 主催、JFBF 主管の体制で実施されている。
- ◆ JFBF の補助により、岡山県 Dagoo Park にて合宿が実施されている。



---

#### 4) スポーツクライミング

- ◆ JMSCA（日本山岳・スポーツクライミング協会）が国内大会を主催している。
  - 「第5回コンバインドジャパンカップ西条」「第1回ボルダー&リード ジャパンオープン」は海外選手を招く形で行われた。
- ◆ 同じく JMSCA が主催する「SPORT CLIMBING JAPAN TOUR」はボルダリング・リード・スピードの各ジャパンカップへの出場選考を目的としたシリーズ戦として実施される。
- ◆ JMSCA による代表合宿が実施されている。合宿地として、倉吉体育文化会館、石鎚クライミングパーク SAIJO が多く利用される。

#### 5) パルクール

- ◆ 国内選手権である日本選手権は JGA（日本体操協会）によって主催されている。
- ◆ FIG（国際体操連盟）主催による第1回の世界選手権が日本にて開催された。

#### 6) ブレイキン

- ◆ ダンススポーツ競技ブレイキン種目における国内最高峰の大会である全日本ブレイキン選手権は JDSF BREAKING（日本ダンススポーツ連盟ブレイクダンス本部）により主催されている。
  - ポイントランキングにて出場者が決定し、ポイントランキング対象大会は連盟主催の「ブロック選手権」、「ジャパンオープン」に加え、パートナー大会である「マイナビ DANCE ALIVE HERO'S 2022」、「Red Bull BC One Japan Cypher 2022」、「SETTSU BREAKIN' JAM」である。
- ◆ 世界大会である「BATTLE OF THE YEAR」のワールドファイナルがアジアで初めて沖縄県にて実施された。
- ◆ JDSF BREAKING による強化合宿が実施されている。

#### 7) バデル

- ◆ JPA（日本パデル協会）により、日本選手権が実施されている。
- ◆ ジャパンパデルツアーとして、年間を通して全国の各施設にて大会が実施されている。

#### 8) フライングディスク

- ◆ JFDA（日本フライングディスク協会）主催により様々な種目の大会が開催されている。
  - 特にアルティメットは各地域にて予選大会が開催される規模で行われている。
- ◆ 世界選手権が開催される際、JFDA主催による日本代表強化合宿が実施されている。

#### 9) スラックライン

- ◆ JSFed（日本スラックライン連盟）主催による複数の大会が開催されている。
- ◆ 全日本選手権大会がオンラインにて開催されている。
- ◆ スラックラインブランドであるギボンが共催やイベント主催を行う場合が多いことがわかる。

## 1-2 関係法令、上位・関連計画

### (1) 国の関係法令及び主要政策等

- ✓ 「スポーツ基本法」では、スポーツは競技としてのみでなく、国民の心身の健全な発達や明るく豊かな国民生活の形成に寄与すること等を目的とし推進されるとしている。(地方公共団体は理念にのっとり、施策の展開・実施する責務がうたわれている)
- ✓ 「第3期スポーツ基本計画」では、東京オリンピックのスポーツ・レガシーの継承・発展に向けたアーバンスポーツに係る具体的な施策が定められている。
- ✓ 観光の視点で、アーバンスポーツへの取組は、若者や子供などを引き込む地域の魅力やアーバンスポーツの体験・観戦のツーリズムを生み出すものとして期待されている。

#### 1) スポーツ基本法

- ◆ 国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的に、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにしている。
- ◆ 国(文部科学省)がスポーツに関する施策の基本となる事項を定めたスポーツ基本計画を定め、地方公共団体についてもこれを参考とした、地方スポーツ基本計画の策定に努める。
- ◆ 基本的施策では、指導者の養成、環境整備、競技水準の向上並びにオリンピック等国际大会等の招致に係る事項が定められている。
- ◆ スポーツ推進委員の委嘱、国及び地方公共団体による補助・支援について明らかにしている。

#### 2) 第3期スポーツ基本計画(令和4年3月)

- ◆ 第2期スポーツ基本計画で設定した基本方針を踏襲し、本計画では新たな3つの視点を加えて、東京オリンピックのスポーツ・レガシーの継承・発展に向けて、特に重点的に取り組むべき施策、「新たな3つの視点」を支える具体的な施策、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策を定めている。
- ◆ スポーツを「つくる／はぐくむ」視点では、アーバンスポーツ等の新しいスポーツへの参画・国民が実施する機会を創出することが必要としている。
- ◆ アーバンスポーツに係る具体的な施策として以下が挙げられている。
  - 性別、年齢、障害の有無等に関係なく、多様な主体がスポーツを楽しむために、アーバンスポーツ等の新しいスポーツへの参画等「つくる／はぐくむ」ことができるように、必要な啓発活動や支援を行う
  - アーバンスポーツ、ワーケーション等の地域資源をいかした新たなコンテンツの開発や、DXの活用等新たな分野の開拓・チャレンジを積極的に推進する。

#### 3) 観光立国推進基本法

- ◆ 国民経済の発展、国民生活の安定向上及び国際相互理解の増進に寄与することを目的に、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにしている。
- ◆ 国が観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、観光立国推進基本計画を策定することが定められている。
- ◆ 基本的施策においては、観光旅行の促進のための環境の整備として、新たな観光旅行分野の開拓で心身の健康の保持増進のための観光旅行その他の多様な観光旅行の形態の普及等に必要施策を講ずることが定められている。

---

#### 4) 新たな(第4次)観光立国推進基本計画(令和4年3月策定予定)

- ◆ 現行計画である「第3次観光立国推進基本計画」は計画期間 H29~32 年度が終了し、本年度(令和4年度)内に新たな計画(第4次観光立国推進基本計画)を策定予定である。
- ◆ 策定に向けての動向は、『「観光立国推進基本計画」の改定について』の議題を掲げ、観光立国推進基本法に基づき、「交通政策審議会観光分科会(第43回)」が令和4年11月7日に設置された。審議会においては、参考資料内で、「今後の観光政策の方向性」において、「国内交流拡大戦略」「インバウンド回復戦略」「高付加で持続可能な観光地域づくり戦略」の戦略を示している。

#### 5) アーバンスポーツツーリズム推進に向けた論点整理(令和3年3月)

- ◆ スポーツ庁、アーバンスポーツツーリズム研究会にて、アーバンスポーツツーリズムに向けた論点整理が実施されている。
- ◆ アーバンスポーツツーリズムを推進する前提として、まず、アーバンスポーツの普及推進が重要と考えられる。具体的に推進を図るためには、低い認知度・露出の不足、「する」ための障害、「みる」ための障害、都市内での活動を妨げる法規制(公園・公道等の利用規制)などの克服が喫緊の課題と考えられる。

## (2) アーバンスポーツパークの整備に関連する法律等

- ✓ 道路交通法や都市公園法に基づく都市公園条例により、スケートボードの使用が禁止または制限されている等、都市内での活動を妨げる法規制が普及の課題である。

### 1) 道路交通法

- ◆ 道路交通法第 76 条 4 項 3 号において、「交通のひんぱんな道路において、ローラー・スケートをする事」を禁止行為として定めており、違反に対して 5 万円以下の罰金を科すと定められている。
- ◆ スケートボードの使用によって、施設や建物等を破損させた場合は刑法第 261 条に定める器物損壊等に該当する。さらに、立ち入り禁止場所でスケートボードを行った場合は、軽犯罪法第 1 条 32 号に問われる。

### 2) 都市公園法

- ◆ 都市公園法において、「都市公園の設置基準」として、「都市公園法施行令」及び地方自治体が設置する「条例」（名護市都市公園の設置及び管理に関する条例）に定める基準に適合させること、緑の基本計画に即して行うよう努めることとされている。
- ◆ 公園施設として建築物を設置する場合の建築面積は、条例で定める割合（2%）を超えてはならないとされている。

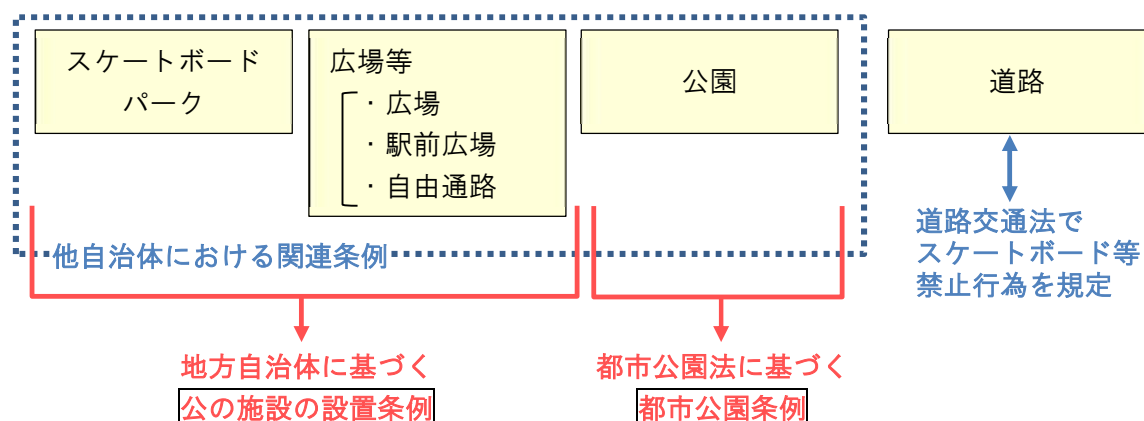
### 3) 地方自治法 第244条 公の施設

- ◆ 地方自治法において、地方公共団体は「住民の福祉を増進する」ことを目的に「公の施設」を設置することができ、その設置及び管理に関する事項は「条例」で定めることとしている。

### 4) スケートボードに関する条例

スケートボードについては、一部の若者達が、一般の人々が通行し利用する道路、公園、駅前広場等でスケートボードを行い、周囲に危害を及ぼす、騒音を発生させる、施設・設備を損傷させる等の問題が発生している。一般社団法人地方自治研究機構による「スケートボードに関する条例（令和4年9月19日）」を参考に、他自治体におけるスケートボードに関する条例を整理した。

スケートボードを行う場所として、スケートボードパーク施設、広場等（駅前広場、自由通路を含む）、公園、道路が考えられ、このうち道路については道路交通法で禁止行為として明記されている。



---

### ① スケートボード施設の設置・管理等条例

スケートボード施設の設置・管理条例については、スケートボード施設単独を対象とした、地方自治法に基づく公の施設と設置条例と、スケートボード施設を含む施設を対象とした公の施設の設置・管理条例及び都市公園条例がある。

### ② 広場等設置・管理条例

駅前広場、自由通路、広場等における設置・管理条例においては、ほとんどは「歩行者の往来又は通路の管理上支障を及ぼすおそれのある行為をすること」、「自由通路の管理に支障のある行為をすること」等を禁止する規定を置いており、これらの規定を根拠にスケートボードの使用が禁止されていることが多い。ただし、一部の利用者による問題から、禁止行為として明記しているものもある。

### ③ 都市公園条例

都市公園条例や公園条例における、ほとんどは「他人に危害を及ぼすおそれのある行為をすること」、「他人に危害を及ぼすおそれのある行為又は他人の迷惑となる行為をすること」、「公園の管理に支障のある行為をすること」等を禁止する規定を置いており、これらの規定を根拠にスケートボードの使用が禁止されていることが多い。

公園条例においてスケートボードの使用の禁止を明記しているのは、芝山町条例が例にある。

### (3) 県・市の上位関連計画及び主要プロジェクトの整理

- ✓ 県の「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」では、「スポーツアイランド沖縄」の形成を掲げスポーツに関連した基本施策が設定されている。観光・スポーツ推進の双方の観点からも「スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成」を位置付けている。
- ✓ 本市の「第5次名護市総合計画」では、『関係各課が一体となって「スポーツのまち・なご」を推進する』としている。
- ✓ 本市の「スポーツ推進計画」では、基本方針として、トップアスリートを育成・輩出することで市民に夢・希望・勇気・感動を与えること。生涯スポーツの推進により市民の健康増進や体力の維持向上を図るとともに地域コミュニティの活性化に繋げることとしている。
- ✓ 本市の観光振興基本計画においては、スポーツツーリズム（サイクリング・スポーツ合宿等）等の様々なツーリストの受け入れ環境を充実させるとしている。
- ✓ 21世紀の森公園は、スポーツコンベンションの場の充実に向けた整備を進めるとともに、スポーツ交流拠点施設の整備による機能強化を進めるとされている。

#### 1) 県の上位計画・関連事業のアーバンスポーツパークの整備に係る要点整理

##### ① 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（令和4年5月）

「スポーツアイランド沖縄」を掲げ、スポーツに関連した基本施策が設定されている。また、北部圏域の拠点都市である名護市は、21世紀の森公園等の魅力創造を図りながら、鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入や、スポーツコンベンションの推進など、若者が定着する魅力に満ち、活力に富んだ個性豊かなまちづくりを促進することとされている。

##### ② 第6次沖縄県観光振興基本計画（令和4年7月）

沖縄県のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進として、スポーツツーリズムの推進が掲げられ、施策展開として「スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成」が位置付けられている。名護市を含む北部圏域においては、各種スポーツイベント等を活用したスポーツツーリズムを推進するとともに、スポーツ指導者等の人材育成も含めた環境整備を促進している。

##### ③ 第2期沖縄県スポーツ推進計画（素案）（令和4年2月）

本計画では、「スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成」を施策として位置付けている。また、スポーツコンベンションの誘致をはじめとした、具体的な取り組みが示されている。

##### ④ 第5次沖縄県国土利用計画（平成30年2月）

リゾート施設や国際コンベンション施設が立地する西海岸において、名護湾沿いに良好な沿道景観の創出など観光軸の強化を推進することが示されている。

##### ⑤ 沖縄県スポーツコンベンション誘致戦略（平成27年3月）

「スポーツコンベンションの拡大発展による地域活性化」を県全体のミッションと捉え、「スポーツコンベンション受入環境の整備」として、スポーツコンベンション誘致のための各種支援メニューの検討・整備が今後の取組案とされている。

---

## 2) 市の上位計画・関連事業のアーバンスポーツパークの整備に係る要点整理

### ① 第5次名護市総合計画（令和2年3月）

施策「スポーツ・レクリエーション活動の充実」として、気軽に生涯スポーツに親しむことができる社会の実現を目指すとともに、スポーツを通じて市民に夢・希望・勇気・感動を与え、各競技レベルの向上につながるスポーツ環境の整備に取り組むことが挙げられている。

また、『「スポーツのまち・なご」の推進』も掲げられており、スポーツを取巻く環境の変化への対応や、スポーツ大会や合宿等の誘致をはじめとしたスポーツコンベンションによる経済活動の促進など、関係各課が一体となって取り組むことが示されている。

### ② 名護市スポーツ推進計画（平成27年3月）

基本方針として、トップアスリートを育成・輩出することで市民に夢・希望・勇気・感動を与え、スポーツイベント等の開催・誘致（スポーツコンベンション）による経済活動を促進し、「スポーツのまち・なご」を目指し取り組んでいくとしている。

また、施策のなかで「競技スポーツの推進」として、各種大会の誘致・開催に取り組み、スポーツコンベンション活動の推進が示されている。

さらに、「子どもたちのスポーツ活動の支援」を挙げており、地域イベント等を活用し、スポーツ体験教室などを開催することで子どもたちが気軽にスポーツに親しむ環境づくりに取り組んでいくことが示されている。

### ③ 第2次名護市観光振興基本計画（令和2年3月）

基本方針として、様々なツーリストの受け入れ体制の充実が挙げられており、スポーツツーリズム（サイクリング・スポーツ合宿等）やMICE、ビジネス客等様々なツーリストの受け入れ環境の充実を図るとしている。

### ④ 名護市みどりの基本計画（平成25年3月）

スポーツの拠点となる公園の整備として、21世紀の森は、市民のスポーツの拠点となる公園としての整備を推進することが示されている。

### ⑤ 第2期名護市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン総合戦略（令和4年3月）

スポーツコンベンションの推進として、21世紀の森公園内における、スポーツコンベンションの核施設となるサッカー・ラグビー場を整備や、スポーツ合宿等の誘致促進により観光振興することが示されている。

また、市民のスポーツ・レクリエーション活動の充実として、特に子ども達が夢を持ってスポーツに取り組めるよう、スポーツの楽しさや達成感を実感できる環境づくりや、新たなスポーツ拠点施設の整備が示されている。

さらに横断的施策の一環として、行政が担うべき役割の重点化と民間活力の活用が示されている。

### ⑥ 名護市地域公共交通計画（令和4年3月）

地域交通のみならず、まちづくり等の地域戦略と一体となった名護市において望ましい地域公共交通の将来像を明らかにするため、「名護市地域公共交通計画」を策定し、名護市及び北部地域全体の更なる発展に寄与することを目指すとしている。

目標の一つとして、「商業施設等への公共交通によるアクセスを向上」や、「北部地域観光に寄

---

与する公共交通ネットワークの実現」が掲げられている。

そのうち、施策として、「観光型MaaSの導入・推進」や、「周辺観光施設及び北部テーマパークを周遊する輸送手段の導入」、「北部地域全体の観光を支援する輸送手段の導入」が示されている。

#### ⑦ 名護湾沿岸基本計画（令和3年3月）

各エリアコンセプト及び実現に向けた戦略として、21世紀の森公園周辺エリアにおいて、「名護湾沿岸でのスポーツ・健康づくりの場の充実」、「名護湾周辺のロケーション等資源に楽しむ場の提供による、来訪・定住の魅力向上」を掲げている。

また、土地利用整備計画では、同エリアは、「スポーツコンベンションの場の充実に向けた整備を進めるとともに、スポーツ交流拠点施設の整備による機能強化を進める」ことが示されている。

なお、現在スケートボードの仮設セクション等を設置している21世紀の森公園内の多目的広場は、レクリエーションゾーンとして再整備する計画が示されている。

#### ⑧ 北部テーマパーク事業

名護市と今帰仁村にまたがるオリオン嵐山ゴルフクラブが建設予定地となっており、既存のゴルフ場を改修し、自然を活用したテーマパークを再整備する計画で、2020年代半ばが開業時期として予定されている。

#### ⑨ 21世紀の森公園における関連事業

名護21世紀の森公園において、サッカー・ラグビー場の機能強化が図られておりスポーツキャンプ等に対応可能な北部地域の核施設を目指している。

レクリエーションゾーン・海のアクティビティゾーンにおいては、P-PFI（公募設置管理制度）を見据えた官民連携による公園整備を目指しており、本年度にマーケットサウンディングを実施している。



### 3) 上位関連計画のまとめ

前項における整理について、スポーツ・観光等の方向性を体系的に把握するため、ポイントとなる4つの観点毎に整理する。

<p>スポーツコンベンションの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 21世紀ビジョンにおいて、「<u>スポーツアイランド沖縄</u>」が掲げられ、「スポーツ・健康×観光」といった沖縄のソフトパワーを活用した高付加価値コンテンツの開発を促進するとしている。</li> <li>▪ 誘致戦略においては、「<u>スポーツコンベンションの拡大発展による地域活性化</u>」は<u>県全体のミッション</u>として掲げられている。</li> <li>▪ 21世紀ビジョンにおいて、名護市は、21世紀の森公園等の魅力創造を図りながら、スポーツコンベンションの推進など、若者が定着する魅力に満ち、活力に富んだ個性豊かなまちづくりを促進することとされている。</li> <li>▪ 名護市スポーツ推進計画において、スポーツイベント等の開催・誘致（スポーツコンベンション）による経済活動を促進し、「<u>スポーツのまち・なご</u>」を目指し取り組むこととしている。</li> </ul>
<p>観光・スポーツツーリズムの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 県の観光振興計画において、名護市を含む北部圏域においては、各種スポーツイベント等を活用したスポーツツーリズムを推進、スポーツ指導者等の人材育成も含めた環境整備を促進するとされている。</li> <li>▪ 名護市観光振興計画において、<u>様々なツアーリストの受け入れ体制の充実</u>が挙げられており、スポーツツーリズム（サイクリング・スポーツ合宿等）やMICE、ビジネス客等様々なツアーリストの受け入れ環境の充実を図るとしている。</li> <li>▪ 名護市地域公共交通計画において、「北部地域観光に寄与する公共交通ネットワークの実現」が掲げられ、「観光型MaaSの導入・推進」や、「周辺観光施設及び北部テーマパークを周遊する輸送手段の導入」、「北部地域全体の観光を支援する輸送手段の導入」が施策として示されている。</li> </ul>
<p>こどもの文化・スポーツ活動への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 名護市スポーツ推進計画において、「<u>子どもたちのスポーツ活動の支援</u>」を挙げており、地域イベント等を活用し、スポーツ体験教室などを開催することで子どもたちが気軽にスポーツに親しむ環境づくりに取り組んでいくとしている。</li> <li>▪ 名護市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、特に子ども達が夢を持ってスポーツに取り組めるよう、<u>スポーツの楽しさや達成感を実感できる環境づくり</u>や、新たなスポーツ拠点施設の整備に向けて取り組むこととしている。</li> </ul>
<p>土地利用の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 県の国土利用計画において、<u>名護湾沿いに良好な沿道景観の創出など観光軸の強化</u>を推進するとしている。 【スポーツの拠点である21世紀の森の位置付け等】</li> <li>▪ 市民のスポーツの拠点となる公園としての整備を推進</li> <li>▪ 周辺エリアにおいて、スポーツコンベンションの場の充実に向けた整備を進めるとともに、スポーツ交流拠点施設の整備による機能強化を進める</li> <li>▪ 名護湾沿岸基本計画において、周辺エリアは、「名護湾沿岸でのスポーツ・健康づくりの場の充実」、「<u>名護湾周辺のロケーション等資源に楽しむ場の提供による、来訪・定住の魅力向上</u>」の戦略が掲げられている。 【観光振興等を目的に進められている北部テーマパーク事業の動向】</li> <li>▪ 名護市と今帰仁村にまたがるオリオン嵐山ゴルフ倶楽部が建設予定地となっており、既存のゴルフ場を改修し、自然を活用したテーマパークを再整備する計画で、2020年代半ばが開業時期として予定されている。</li> </ul>

### 1-3 国・県におけるアーバンスポーツ活動の現状調査

- ✓ スケートボード等の利用が制限されるような状況であったが、近年スケートボードパーク施設は増加傾向にある。また、有明アーバンスポーツパーク等、官民連携による整備事例がみられる。
- ✓ 各種目の地方組織の発足や、競技種目の垣根を超えたアーバンスポーツの連携組織の発足等の主だった動向がある。また、スケートボード、パルクールにおいてオリンピックの正式種目化に向けた組織再編の動きがみられる。

#### (1) アーバンスポーツパーク整備に関する動向

##### 1) 全国におけるアーバンスポーツパークの整備状況（日本スケートパーク協会による調査結果）

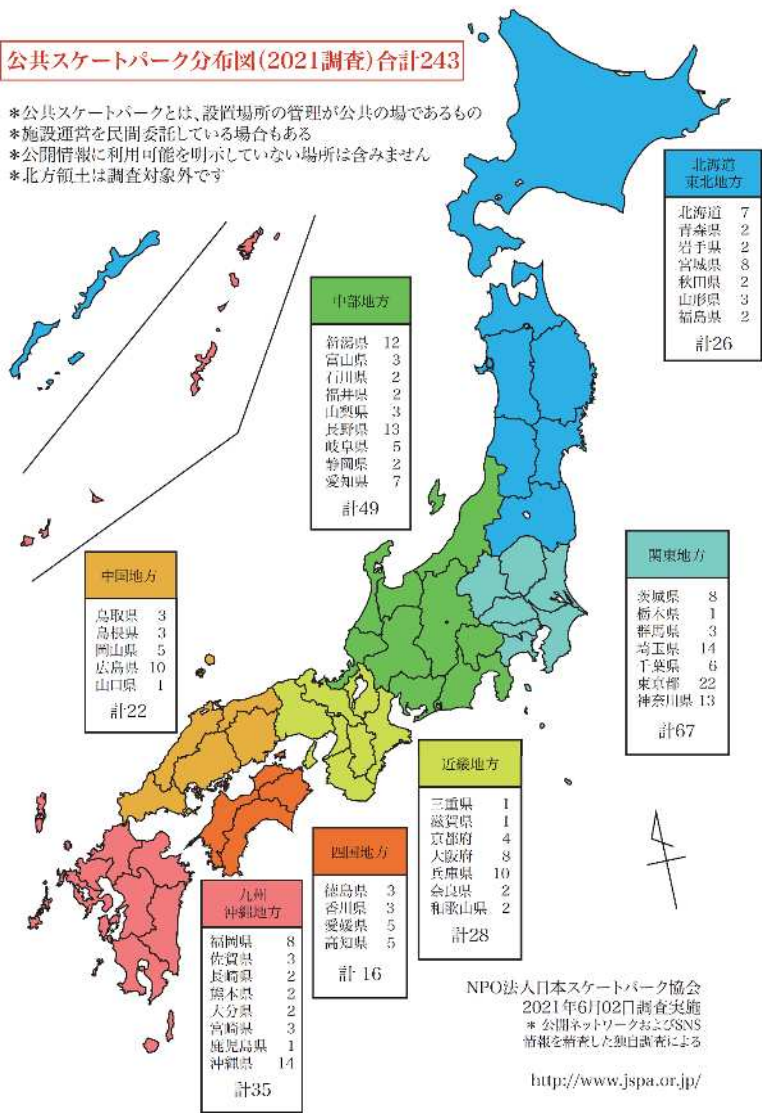
全国でのアーバンスポーツパークの整備状況については、公共・民間含め、418施設で、スケートボード施設が399施設と最も多い。県内施設数は、公共14施設が確認できる。

整備状況	<p>2021年5月末現在、日本全国に設置されている公共および民間スケートパークの全数調査を行いました。</p> <p>[調査結果]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本全国の公共スケートパーク総数 243施設（沖縄県内14施設）</li><li>・日本全国の民間スケートパーク総数 175施設</li><li>・日本全国のスケートパーク総数 418施設</li></ul> <p>内訳</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. スケートボード利用可能施設数 399施設</li><li>2. インラインスケート利用可能施設数 178施設</li><li>3. BMX利用可能施設数 110施設</li></ol> <p>*重複利用可能施設を含む。</p> <p>注1)日本全国の地方公共団体の母数および地域は、2018年10月1日時点で1,718市町村+23特別区の合計1,741としました。</p> <p>注2)個人宅のバックヤードなど、第三者に解放されていないドメスティックな民間パークはカウントから除外してあります。</p>
------	---

地域分布  
および各  
地域のス  
ケートパ  
ーク分布  
状況

公共スケートパーク分布図(2021調査)合計243

- \*公共スケートパークとは、設置場所の管理が公共の場であるもの
- \*施設運営を民間委託している場合もある
- \*公開情報に利用可能を明示していない場所を含みません
- \*北方領土は調査対象外です



©JSPA 資料書式(VER2.0)

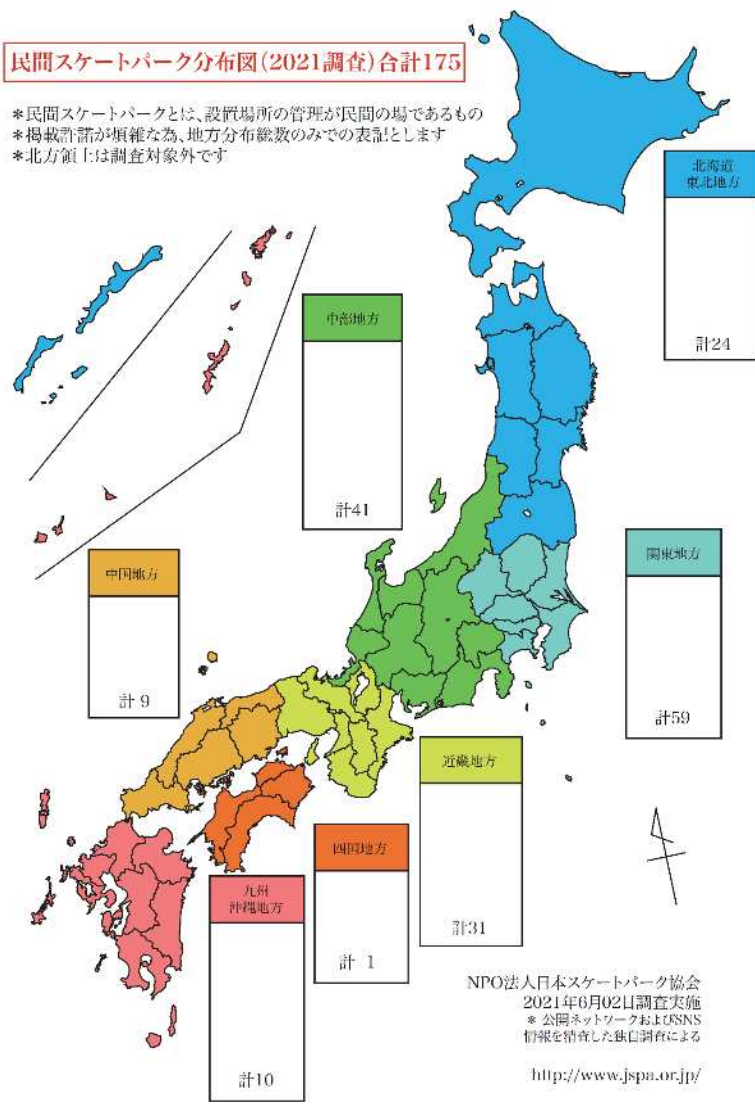
NPO法人日本スケートパーク協会  
2021年6月02日調査実施  
\* 公開ネットワークおよびSNS  
情報を精査した独自調査による

<http://www.jspa.or.jp/>

NPO法人 日本スケートパーク協会

**民間スケートパーク分布図(2021調査)合計175**

- \*民間スケートパークとは、設置場所の管理が民間の場であるもの
- \*掲載許諾が煩雑な為、地方分布総数のみでの表記とします
- \*北方領土は調査対象外です



出典：NPO 法人 日本スケートパーク協会 HP

## 2) 官民連携による整備事例

アーバンスポーツパーク整備においては、民間の資金や創意工夫及び技術的・経営的能力等を活用し、効率的・効果的な事業推進を図るため、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律に基づいた、官民連携手法による整備案件が増加している。

### 【官民連携による整備事例1】

施設名	有明アーバンスポーツパーク
整備年度	令和7年度(2025年度)
官民連携手法	①アーバンスポーツ施設及び管理施設：RO (Rehabilitate- Operate) 方式 ②基盤施設：BTO (Build-Transfer-Operate) 方式 ③多目的施設：BOO (Build-Own-Operate) 方式
施設概要	◆主な施設：アーバンスポーツ施設，管理施設 他 ◆取扱種目：スケートボード，屋内ボルタリング，3x3 バスケットボール
整備内容	有明レガシーエリアにおいて、東京2020大会のレガシーとなるアーバンスポーツを体感できる場として、大会レガシーゾーン、広場及び多目的ゾーンからなる施設を整備。 ・アーバンスポーツ施設及び管理施設の改修 ・基盤施設及び多目的施設の整備



図 配置図

出典：スポーツ東京インフォメーションHP

### 【官民連携による整備事例2】

施設名	鶴沼海浜公園スケートパーク
整備年度	令和4年度(2022年度)
官民連携手法	公募設置管理制度 (Park-PFI)
施設概要	◆主な施設：スケートパーク (運動施設)，本館，別館，トイレ，駐車場 他 ◆取扱種目：スケートボード，インラインスケート，バイシクルモトクロス (BMX)
整備内容	本公園の施設は、管理事務所がある本館、休憩所などがあつた別館、トイレなど、設置から30年以上が経過しているため、老朽化した施設を更新し、公園のさらなる魅力の向上や利用者の利便の向上を図るため、施設の改修を実施。 ・老朽化した施設の更新 (コンビプールを除く全既存施設の撤去・更新) ・スケートパークの機能や魅力向上のための再整備 ・地域や周辺施設利用者が利用できる憩いの場の整備 ・公園利用者の利便性と快適性を高めるための飲食施設等の設置





出典：藤沢市 HP

## （２） アーバンスポーツ推進組織に関する動向

東京オリンピックを契機に、近年、各種目の地方組織の発足や、競技種目の垣根を超えたアーバンスポーツの連携組織の発足等の主だった動向があります。また、東京オリンピックでスケートボード、パルクールの正式競技化に向けた動きの中で、異例があり、これに伴い組織再編等の動きがあった。

### １） 各種目の地方組織の発足

近年、スケートボードの地方組織の発足の動向があることが確認できる。

表 地方組織の発足について

所在地	組織名	発足年度
石川県金沢市	石川県スケートボード協会	-
広島県広島市	広島スケートボード協会	令和4年3月
福井県坂井市	坂井市スケートボード協会	令和3年11月
福岡県大牟田市	大牟田地区スケートボード協会	令和4年5月
宮崎県延岡市	延岡スケートボード連携	令和3年8月
北海道苫小牧市	苫小牧スケートボード連盟	-
福井県南越前町	南越前町スケートボード協会	令和3年4月
新潟県村上市	むらかみスケートボードコミッション	令和4年3月

## 2) アーバンスポーツ連携組織の発足（競技種目の垣根を超えた連携）

近年、競技種目の垣根を超えた連携組織の発足動向がある。

表 競技種目の垣根を超えた連携組織

所在地	組織名	発足年度	備考（連携内容）
茨城県笠間市	笠間スポーツコミッション	令和3年3月	新たな公民連携組織として、笠間市と笠間市スポーツ協会等の関係機関により、スポーツを活かしたまちづくりを推進。笠間芸術の森公園に整備した「ムラサキパークかさま」をはじめとする市内スポーツ資源を活用した大会誘致、合宿誘致などを展開する予定。
岡山県岡山市	岡山県アーバンスポーツ協会	令和4年9月	競技の垣根を超えた連携により、「アーバンスポーツの聖地＝岡山」を目指し、設立。街全体を舞台とし、歩いて各競技を見て回って楽しんでもらうイベントや競技の普及イベントなどを開催。
広島県広島市	広島県アーバンスポーツ協会	令和4年5月	バルクール、トリッキング、BMX、スケートボード、けん玉、ダブルダッチなどのイベント、体験型ワークショップなどを開催。
愛媛県	愛媛アーバンスポーツ協会	-	アーバンスポーツを沢山の方に体験してもらい、若年層に関心を持ってもらうために、定期的にイベントを開催。
愛媛県松山市	松山市アクティブスポーツ協会	-	BMX・スケートボード・けん玉などあらゆるライフスポーツを始める子供たちをバックアップする団体として、BMXパークの運営を行っている。
北海道函館市	函館アーバンスポーツ協会	令和4年12月	スケートボードやボルダリングなど都市型スポーツの普及や選手育成につなげるため設立。競技の普及や、アスリートの育成、健全にアーバンスポーツを楽しむ環境づくりと行政への提言などを活動指針とし、今後イベント開催などを行う予定。
福井県	福井県ストリートカルチャー協会	令和2年12月	ダンスやBMX、アートペイントといった若者に人気の「ストリートカルチャー」の普及と醸成のために設立。体験イベント等を実施。

出典：各協会HP

### 3) オリンピック正式競技化に関連する組織再編

オリンピックの正式競技化に向けては、通常「国際オリンピック委員会（IOC）」の公認団体のみが、オリンピックの追加種目に立候補可能であるが、東京オリンピックにおいては、スケートボード、パルクールの正式競技化に向けた動きの中で異例があった。



#### 【スケートボード】

スケートボードのオリンピック正式競技化に向けて、IOCの公認団体である「国際ローラースポーツ連盟（FIRS）」が働きかけたものの、FIRSはローラースケートを中心に活動し、スケートボードは経験不足であるため批判を受けた。一方で、IOCは、IOCの公認団体でない「国際スケートボード連盟（ISF）」もFIRSと同様に東京オリンピックでスケートボードが正式競技に選出された場合の協力を要請した。協議・会談の結果、FIRSはオリンピック以外の国際大会の運営をしないことを条件に東京オリンピックで運営を担い、ISFがオリンピック競技での構成やジャッジ、コースデザインを担当することになった。また、オリンピック以外の国際大会の運営はISFが担うこととなった。

これらの調整結果を踏まえて、最終的に両連盟はオリンピックに向けて「World Skate（国際ローラースケート連盟）」として統合した。国内組織については、「ワールドスケートジャパン（旧日本ローラースポーツ連盟）」が、オリンピック競技にスケートボードが追加されたのを踏まえて、連盟の対象競技に追加し、「World Skate（国際ローラースケート連盟）」に加盟した。

#### 【パルクール】

パルクールのオリンピック正式競技化に向けて、IOCの公認団体である「国際体操連盟（FIG）」が、パルクールを体操の管轄種目にする事、並びにオリンピックで体操競技の1種別として提案することを宣言し、パルクールの国際連盟となりワールドカップを開催した。これに対して、「英国パルクール統括団体（Parkour UK）」を筆頭に、各国のパルクール協会や団体、「国際パルクール組織（Parkour Earth）」等は、「パルクールは独立した運動方法で体操の1種でない」と考えているため、FIGについて、異議を唱えている。

国内組織は「日本体操協会・パルクール委員会（JGA・PKC）」がFIGに加盟しており、「日本パルクール普及連盟（JPPF）」「全日本パルクール連盟（JPF）」「日本パルクール協会（JPA）」等は、筆頭「英国パルクール統括団体（Parkour UK）」側の主張を支持している。



## 1-4 マーケティング調査

- ✓ 全国のニーズとして、「スケートボード」が最も多く関心を集める競技であり、「パデル」「スラックライン」「フライングディスク」は投稿数が少なく、関心人口が少ない種目であると考えられる。
- ✓ 市民アンケートより、「スケートボード」「3x3」は本市におけるプレイ人口が比較的多いと推測される。
- ✓ 市民アンケートより、「スケートボード」、「3x3」、「スポーツクライミング」について、市民ニーズが高く、「プレイキン」「パデル」「フライングディスク」「スラックライン」は比較的ニーズが低いと推測される。

### (1) SNS分析による全国のニーズ

現状アーバンスポーツに関する統計情報はないため、Twitterの投稿データを活用し、全国における各種目のニーズを推定する。手法として、各種目に関する投稿数の多さを関心の高さと捉え、これをニーズと仮定した。

調査の対象時期は2022年とし、ランダムに抽出した10%のデータより整理を行った。

- ◆ スケートボードの投稿数が最も多く、関心人口が特に多い種目と考えられる。
- ◆ 次いで投稿が多い種目として「スポーツクライミング」「パルクール」があり、これらは関心人口が多い種目と考えられる。
- ◆ 「パデル」「スラックライン」「フライングディスク」は投稿数が少なく、関心人口が少ない種目と考えられる。

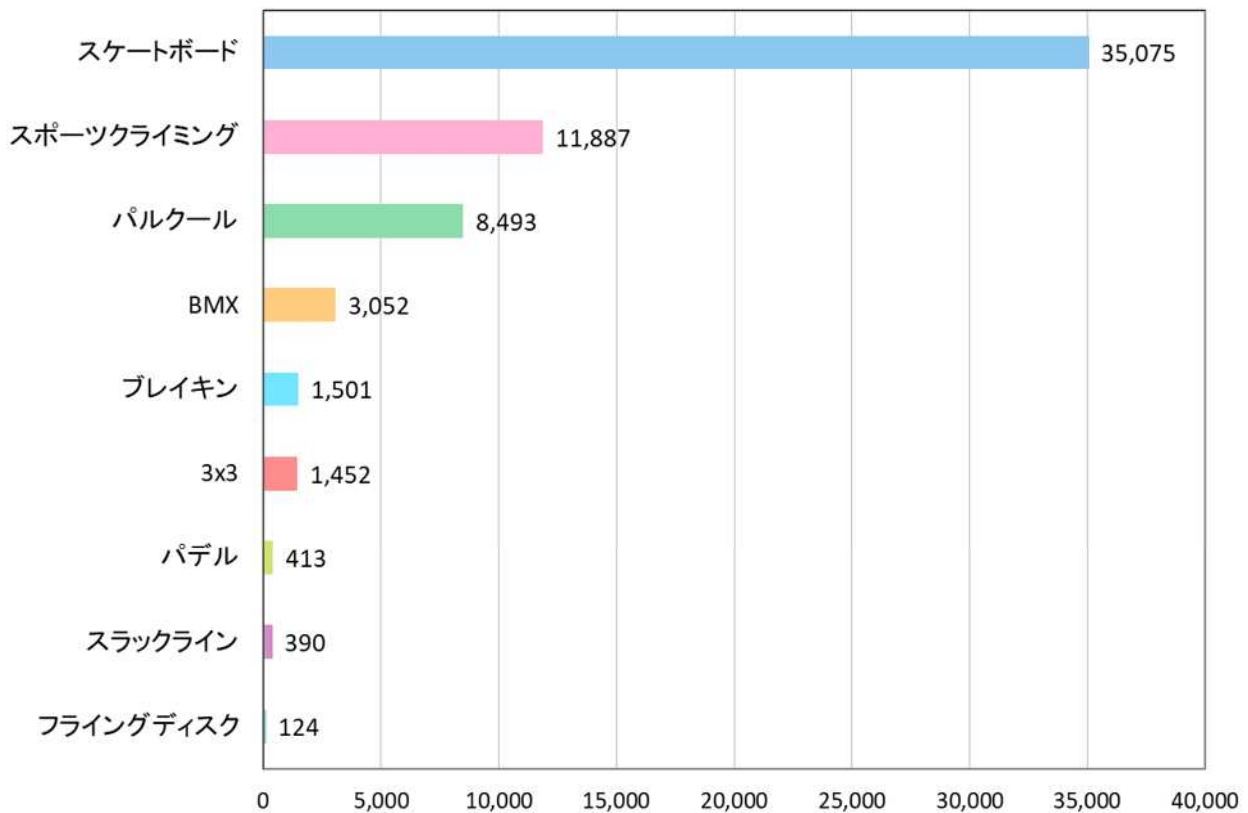


図 アーバンスポーツについての投稿数

## (2) 市民のニーズ

アーバンスポーツに関する市民アンケートを実施し、475名からの回答をいただいた。

アンケート実施期間は令和4年12月22日から令和5年1月16日までとし、手法はWEBアンケートとした。アンケートの周知にあたっては、市ホームページへの掲載に加え、今後アーバンスポーツパークの主な利用者層になると考えられる市内小中高生へチラシを配布し重点的に調査を行った。

名護市の人口は63,554人（令和2年度国勢調査結果）であり、許容誤差5%とした場合の必要サンプルは382であることから、475名の回答数は統計学上有意なサンプル数であると判断できる。

### 1) やったことがある種目

「あなたは以下のアーバンスポーツをやったことがありますか」という設問を設定した。やったことがある種目について調査し、名護市におけるアーバンスポーツの現状を推測する。

- ◆ 「現在もやっている」と多く答えられた「スケートボード」「3x3」は種目の中ではニーズが高いと考えられる。
- ◆ 「パデル」はやっている人が少なく、現状市民のニーズが低いと考えられる。

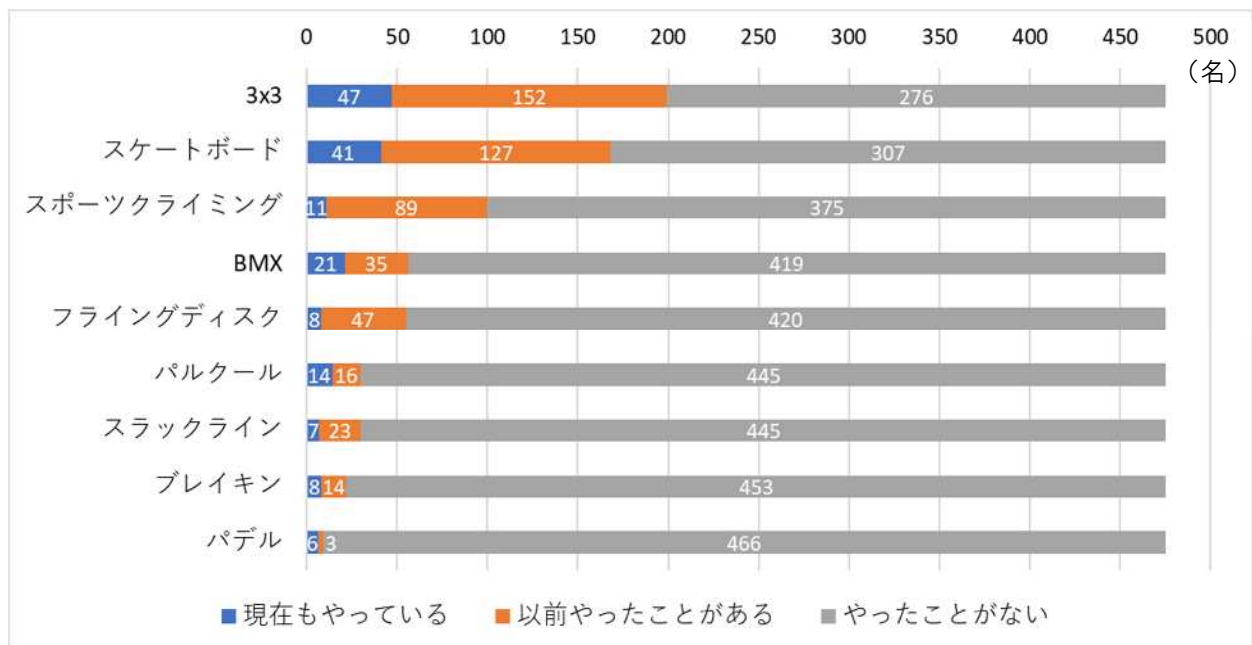


図 やったことがある種目（市民アンケート）

## 2) やってみたい、観戦をしてみたいと思う種目

「今後、名護市でアーバンスポーツパークの整備が行われた場合、以下のアーバンスポーツについて、やってみたいもしくは観戦をしてみたいと思いますか。」という設問を設定した。この設問の「やってみたいと思う」「観戦をしてみたいと思う」という回答を種目に関するニーズと仮定した。

- ◆ ニーズが高い種目は「スケートボード」、「3x3」、「スポーツクライミング」であり、「スポーツクライミング」は「やってみたい」と回答した人が最も多く、特に高い種目であると考えられる。
- ◆ 「BMX」「パルクール」が上記に次いでニーズが多い。
- ◆ 「ブレイキン」「パデル」「フライングディスク」「スラックライン」については「やってみたい」「観戦をしてみたい」の回答が少なくニーズが高くないと考えられる。

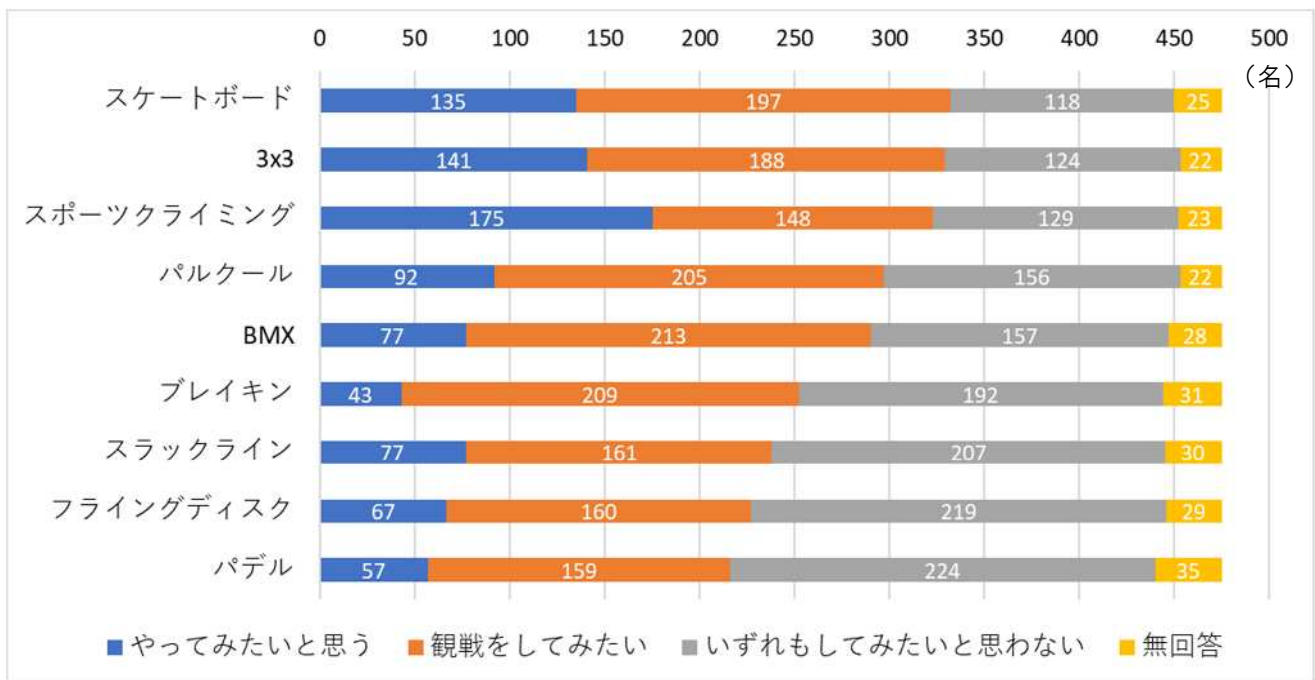


図 やってみたい、観戦をしてみたいと思う種目（市民アンケート結果）

---

## 1-5 名護市におけるアーバンスポーツの現状及び課題整理

### (1) アーバンスポーツ関連施設

- ✓ 県中南部と比較し、本市にはアーバンスポーツを楽しめる施設が少ない状況がわかる。
- ✓ そのような中で、市内にはスケートボード・BMXは21世紀の森公園の多目的広場でプレイが可能、スポーツライミングは、民間のボルダリングジムが存在する。
- ✓ 市内にショップがある種目は、3x3、BMX、スポーツライミングである。

#### 1) スケートボード

沖縄県内のスケートボード施設の分布を確認すると、中部から南部にかけて分布していることがわかり、本市にはスケートボード施設は整備されていない。そのなかで、21世紀の森公園内の多目的広場ではスケートボードの利用がされ、いくつかのセクションが設置されている。県内にいくつかショップが存在するものの、市内にはショップが存在しない。

#### 2) 3x3

名護市内には 3x3 公式規格をうたうコートは存在しない。一方、練習等では通常のバスケットボールコートでもプレイが可能である。バスケットボールコートは 21 世紀の森体育館等、本市内にて多数整備されている。

ショップに関しては、沖縄北部唯一のバスケットボール専門ショップが存在する。また、バスケットボールは、スポーツショップでの取扱いが広く行われており、ショップのリソースは多い。

#### 3) BMX

沖縄県内のBMX施設の分布を確認すると、中部から南部にかけて分布していることがわかり、本市にはBMX施設が整備されていないことがわかる。そのなかで、21世紀の森公園内の多目的広場ではBMXの利用が可能であり、いくつかのセクションが設置されている。

市内の自転車専門店にてBMXの取り扱いがある。

#### 4) スポーツライミング

沖縄県内に比較的まんべんなく分布しており、民間のボルダリングジムの比率が高い。名護市内には一件の民間ボルダリングジムが存在し、ショップの併設もされている。

#### 5) パルクール

パークールについて、現在専用施設は「CONNECT GYM OKINAWA (北谷町 2 月移転)」のみであり、本市には整備されていない。

#### 6) ブレイキン

ブレイキンについて、本市ではダンススクールがいくつか運営されている。専用施設については、見当たらないものの、体育館や広場等の活用が可能である。

#### 7) パデル

パデルについて、県内施設は「パデル沖縄 (うるま市)」のみであり、本市には整備されていない。

#### 8) フライングディスク

本市内には、フライングディスク専用施設は存在しない。ただし、グラウンドや体育館等の活用が可能である。

## 9) スラックライン

スラックライン専用施設は存在しない。ただし、グラウンドや体育館等の活用が可能である。

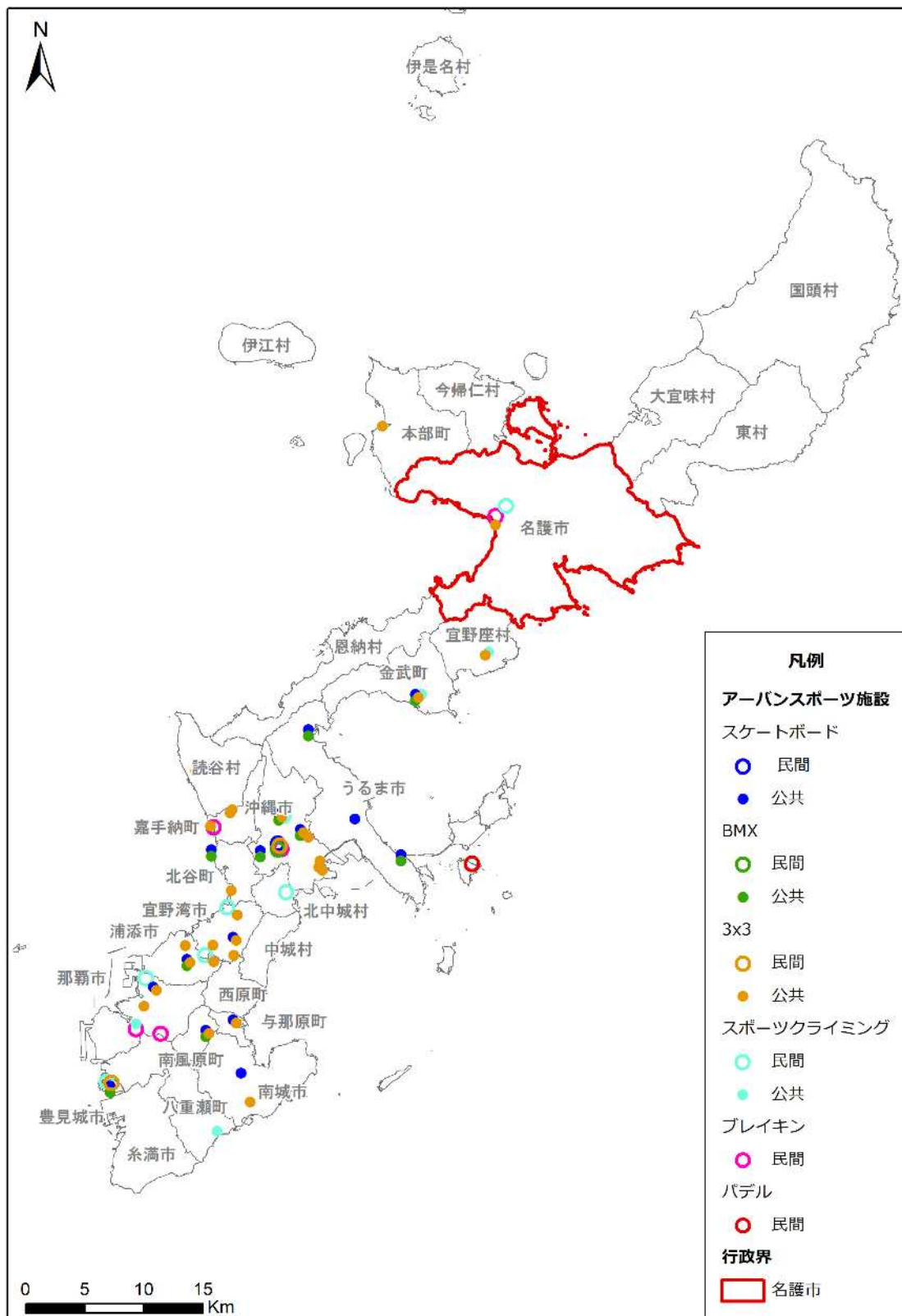


図 沖縄県内のアーバンスポーツ関連施設

表 名護市内のアーバンスポーツ関連ショップ

種目	施設	概要
スケートボード	-	
3x3	ランクアップ	沖縄北部唯一のバスケットボール専門店
	その他多数のスポーツショップで取扱い有	
BMX	HUBCYCLE OKINAWA	名護市内の自転車専門店 BMX の取扱いあり
スポーツ クライミング	BANJAT	名護市 ボルダリングジム併設ショップ
パルクール	-	
ブレイキン	-	
パデル	-	
フライングディスク	-	
スラックライン	-	

## (2) 競技推進に係る組織及び活動

- ✓ スケートボードは、市内に拠点を置くNESAが主に21世紀の森公園にて活動を行っている。
- ✓ 3x3は、主に21世紀の森体育館にてバスケスクールが開催されている。
- ✓ スポーツクライミングは、市内にてボルダリングジムが経営されスクール等を開催している。
- ✓ ブレイキンは市内ダンススタジオにてダンススクールが開催されている。

本市の競技推進に係る組織及び活動について、以下のように整理した。

- ◆ スケートボードについて市内に拠点を置くNESA（名護エクストリームスポーツ協会）が主に21世紀の森公園多目的広場を拠点に活動しておりスクール等の開催をしている。
- ◆ 3x3についてバスケットボールスクールは定期的いくつか開催されている。
- ◆ スポーツクライミングについて、市内のボルダリングジムにて小学生向けのスクールが開催されている。
- ◆ 市内のいくつかのダンススクールにて、ブレイキンの教室が開催されている。

表 名護市内の競技推進に係る組織及び活動

種目	組織	場所
スケートボード	NESA（名護エクストリームスポーツ協会）	主に21世紀の森公園にて活動スクール等の開催を行う
3x3	琉球ゴールデンキングス	バスケスクール開催等の活動 21世紀の森体育館にて開催
	SPICE バスケットボールスクール	21世紀の森体育館にて開催
BMX	-	-
スポーツクライミング	BANJAT	名護市内のボルダリングジム。 子供向けスクールの実施。
パルクール	-	-
ブレイキン	BRIGHTNESS DANCE STUDIO	名護市内のダンススクール
	ダンススクール flow	名護市内のダンススクール
パデル	-	-
フライングディスク	-	-
スラックライン	-	-

## (3) 名護市におけるアーバンスポーツの課題

ここまでの調査・整理を踏まえ名護市におけるアーバンスポーツの課題を以下に整理する。

- ◆ 国内において、アーバンスポーツは国際大会の開催や競技を横断する新たな組織誕生する等、盛り上がりを見せており、施策のうえでも東京オリンピックのスポーツ・レガシーの継承・発展に向けて重点的に取り組むとしている。
- ◆ そのような中でアーバンスポーツは、若者や子供を引き寄せるとともに、アーバンスポーツの観戦者等のツーリズムを生み出すものとして、地域活性化への寄与・貢献が期待されている。
- ◆ 本市としても「スポーツのまち・なご」の推進のもと、気軽にスポーツに親しむことができる環境整備やスポーツコンベンションによる経済活動の促進に取り組んでいる。
- ◆ アーバンスポーツに関する市民アンケートでは、やったことがある人は少ないが、やってみたい・観戦してみたい人は一定数おり、市施策の方向性と合致する。
- ◆ 一方で、スケートボード、3x3が楽しめ、近年利用者も増加している21世紀の森公園内の多目的広場は、名護湾沿岸基本計画においてレクリエーションゾーンとして再整備する方向性が示されており、代替となる場所の整備が急務である。



## 第2章 計画内容の検討

### 2-1 計画条件を踏まえた方向性

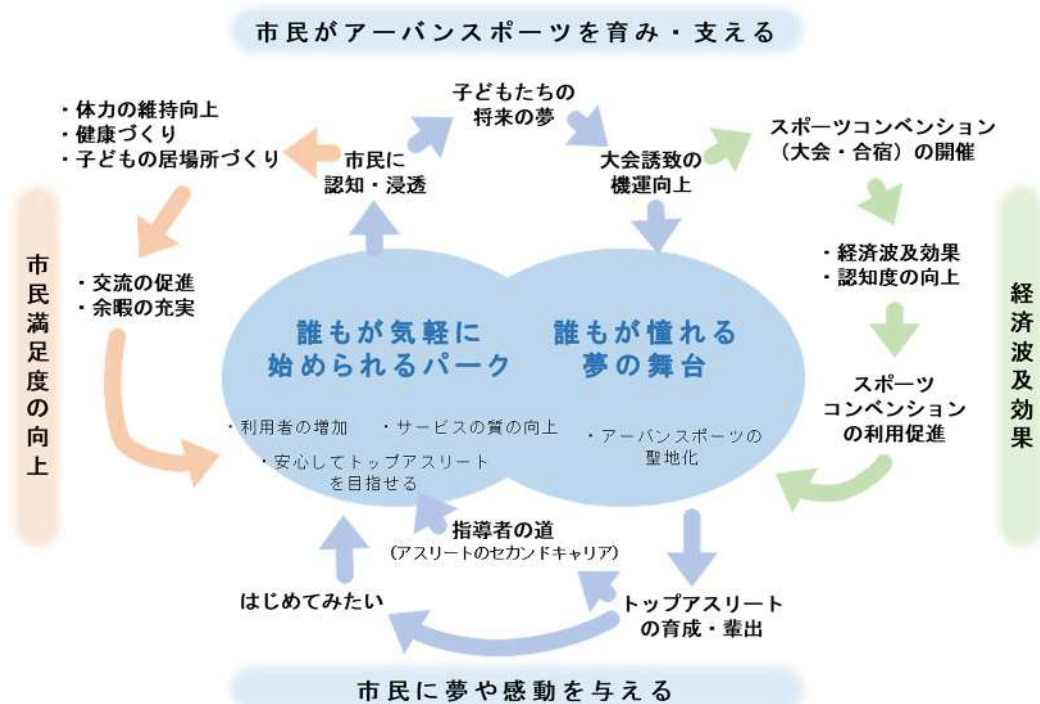
- ✓ 名護市の現状を踏まえ、「スポーツツーリズムの発展に資するアーバンスポーツ活動拠点」の達成のために、「外から来たいと思わせる、誘客のための役割」「市民へアーバンスポーツを普及する役割」の2つの役割を持つアーバンスポーツパークが必要であるとした。

先述した計画条件及び本市におけるアーバンスポーツの課題を踏まえ、アーバンスポーツパークに必要な役割を示す。

- ◆ 外から来たいと思わせる、誘客のための役割 ⇒ 『誰もが憧れる夢の舞台』  
⇒ ツーリズムとして、このパークで「したい」「みたい」と地域外からの誘客を促進する役割を持つパークが必要であると考えます。
- ◆ 市民へアーバンスポーツを普及する役割 ⇒ 『誰もが気軽に始められるパーク』  
⇒ 名護市内でのアーバンスポーツに関する現状を踏まえ、地域外からの誘客を狙うのみでなく、地域内でのアーバンスポーツを普及促進し、アーバンスポーツを「支える」土壌を育む役割が必要である。

アーバンスポーツパークの役割として「外から来たいと思わせる、誘客のための役割」「市民へアーバンスポーツを普及する役割」の2つが必要であると考えられる。

これら2つの役割を備えることで、下図のような好循環を巻き起こすことが期待できる。



### 「スポーツのまち・なご」の推進

図 アーバンスポーツパークに期待される整備効果のイメージ



## 2-2 整備する競技種目の選定（整備方針）

- ✓ 種目の選定にあたって、「市場」「競合」「本市（受入れ環境）」「公共関与の必要性」の大きく4つの観点から評価を行い、種目を選定した。
- ✓ 採用する種目は、「スケートボード」「3x3」「BMX」「スポーツクライミング」「パルクール」の5種目とし、可能なものは多目的広場で実施できるよう検討をすることとした。

### （1） 分析手法について

競技種目について、3c分析の考え方を援用し、評価を行う。

3c分析とは、マーケティング環境を分析するためのフレームワークのひとつであり、3Cはそれぞれ以下の頭文字である。

- Customer : 市場・顧客  
⇒どのような人が顧客なのか、顧客のニーズはどのようなものか
- Competitor : 競合  
⇒競合他社の現在の状況/市場シェア、競合他社はどのような評価を受けているか
- Company : 自社  
⇒自社の強み/弱み、どのような評価を受けているのか

これらを踏まえ、「市場」「競合」「本市（受入れ環境）」として、それぞれ評価を行う。また、これらに加え、公共視点での評価として「公共関与の必要性」を設定する。各項目について4段階で評価を行い、それを点数化する。この点数をもって競技種目の選定を行うこととする。



図 種目の選定イメージ

## (2) 分析評価結果

### 1) 市場についての評価

ここでは、「市場」を「規模」「成長性」「ニーズ」に分けて評価を行う。それぞれ以下のような視点で検討を行う。

規模：関心人口の多さより評価する。Twitter分析の結果をその根拠とする。(マクロな視点)

(特A：規模が特に大きい、A：規模が大きい、B：どちらともいえない、C：規模が小さい)

成長性：オリンピックにて各種目が今後実施されていくかどうかで評価する。

(特A：成長性が特に期待できる、A：成長性が期待できる、B：どちらともいえない、C：成長性が期待できない)

ニーズ：市民アンケート結果より、各種目について、「やってみたい」「観てみたい」と考えている人の多さをニーズと考える。(ミクロな視点)

(特A：ニーズが特に高い、A：ニーズが高い、B：どちらともいえない、C：ニーズが低い)

表 市場環境に関する評価結果

種目	規模	成長性	ニーズ
スケートボード	特に投稿数が多く、関心人口が特に大きいとした。	パリ五輪にて引き続き実施されるため、成長性が期待できるとした。	市民アンケートにて、「やってみたい」「観戦をしてみたい」と回答する人が多く、ニーズが高いとした。
	特 A	A	A
3x3	投稿数は多くなく、どちらともいえないとした。	パリ五輪にて引き続き実施されるため、成長性が期待できるとした。	市民アンケートにて、「やってみたい」「観戦をしてみたい」と回答する人が多く、ニーズが高いとした。
	B	A	A
BMX	投稿数は多くなく、どちらともいえないとした。	パリ五輪にて引き続き実施されるため、成長性が期待できるとした。	市民アンケートにて、「やってみたい」と答える人は多くないが、「観戦をしてみたい」という回答が多く、どちらともいえないとした。
	B	A	B
スポーツクライミング	投稿数は多く、関心人口が大きいとした。	パリ五輪にて引き続き実施されるため、成長性が期待できるとした。	市民アンケートにて、「やってみたい」と答える人が最も多く、ニーズが特に高いとした。
	A	A	特 A

パルクール	投稿数は多く、関心人口が大きいとした。	パリ五輪での正式採用は見送られたものの、今後の採用が期待できるため、成長性が特に期待できるとした。	市民アンケートにて、「やってみたい」と答える人は多くないが、「観戦をしてみたい」という回答が多く、どちらともいえないとした。
	A	特 A	B
ブレイキン	投稿数は多くなく、どちらともいえないとした。	パリ五輪にて新たに実施されるため、成長性が特に期待できるとした。	市民アンケートにて、「やってみたい」と答える人が最も少なく、ニーズが低いとした。
	B	特 A	C
パデル	投稿数は少なく、関心人口は少ないとした。	五輪正式種目化が期待されるものの、2028 ロス五輪よりさらに先となるため、どちらともいえないとした。	市民アンケートにて、「やってみたい」「観戦をしてみたい」という回答は少なく、ニーズが低いとした。
	C	B	C
フライングディスク	投稿数は少なく、関心人口は少ないとした。	2028 ロス五輪採用を目指しており、今後の採用に期待できるため、成長性が期待できるとした。	市民アンケートにて、「やってみたい」「観戦をしてみたい」という回答は少なく、ニーズが低いとした。
	C	A	C
スラックライン	投稿数は少なく、関心人口は少ないとした。	五輪正式種目化が期待されるものの、2028 ロス五輪よりさらに先となるため、どちらともいえないとした。	市民アンケートにて、「やってみたい」「観戦をしてみたい」という回答は少なく、ニーズが低いとした。
	C	B	C

## 2) 競合についての評価

ここでは、「競合」について、「不足度」の視点から検討を行う。

不足度：対象地周辺における関連施設が量的・質的に不足しているか。

(特A：特に不足している、A：不足している、B：どちらともいえない、C：充足している)

表 競合に関する評価結果

種目	不足度
スケートボード	名護市内には、スケートボード施設は整備されておらず、プレイ可能な場所は 21 世紀の森公園内の多目的広場のみであることから、「A」とした。 A
3x3	名護市内には、3x3 専用コートは存在しないものの、練習等で使用できるバスケットリングが常設されているスポットは多数存在しているため、「B」とした。 B
BMX	名護市内には、BMX 施設は整備されておらず、プレイ可能な場所は 21 世紀の森公園内の多目的広場のみであることから、「A」とした。 A
スポーツクライミング	名護市内には、民間のスポーツクライミング施設は「BANJAT」が存在する。公共の施設が整備されていないことを踏まえて、「B」とした。 B
パルクール	名護市内には、パルクール施設が存在せず、「特 A」とした。 特 A
プレイキン	名護市内には、専門施設については見当たらないものの、民間によるスクールが運営されているほか、多目的室や、広場等での実践も可能であるため、「B」とした。 B
パデル	名護市内には、パデル施設が存在せず、「特 A」とした。 特 A
フライングディスク	名護市内には、専門施設について見当たらないものの、グラウンドや、体育館等での実践が可能であるため、「B」とした。 B
スラックライン	名護市内には、専門施設について見当たらないものの、広場や、体育館等での実践が可能であるため、「B」とした。 B

### 3) 本市（受入れ環境）についての評価

ここでは、「本市（受入れ環境）」について「リソース」の視点から評価を行う。

リソース：名護市内において、各種目について、人材・組織等について充実しているか。

（特A：特に充実している、A：充実している、B：どちらともいえない、C：不足している）

表 本市（受入れ環境）に関する評価結果

種目	リソース
スケートボード	名護市内では、NESA が活動しており、21 世紀の森公園にてスクール等の開催をしていることから、市内リソースは比較的充実しているとした。 A
3x3	名護市内では、主に 21 世紀の森体育館にて、複数のバスケットボールスクールが開催されている。また、バスケットボールは、スポーツショップでの取扱いが広く行われている等から、市内リソースは充実しているとした。 A
BMX	名護市内には BMX を取り扱うショップが存在するものの、競技者の活動はあまり見られないことから、市内リソースはどちらともいえないとした。 B
スポーツクライミング	名護市内には、民間のボルダリングジムが存在し、スクール実施や併設するショップにてシューズの販売等実施されている等から、市内リソースは比較的充実しているとした。 A
パルクール	名護市内における活動があまりみられないことから、不足しているとした。 C
ブレイキン	名護市内には、民間のダンススクールが存在することから、市内リソースは比較的充実しているとした。 A
パデル	名護市内における活動があまりみられないことから、不足しているとした。 C
フライングディスク	名護市内における活動があまりみられないことから、不足しているとした。 C
スラックライン	名護市内における活動があまりみられないことから、不足しているとした。 C

#### 4) 公共が関与する必要性についての評価

公共関与の必要性について、分析を行う。ここでは、「施策との親和性」「民間による代替性」にわけて評価を行う。それぞれ以下のような視点から検討を行う。

施策との親和性：県・市が打ち出す施策と種目の親和性が高いかどうか。

(スポーツツーリズムの推進、こどもの体力向上、自転車のまちづくり等)

(特A：特に親和性が高い、A：親和性が高い、B：どちらともいえない、C：親和性が低い)

民間による代替性：種目の施設について、民間による整備で代替ができるかどうか。

(特A：代替性が特に低い、A：代替性が低い、B：どちらともいえない、C：代替性は高い)

表 公共が関与する必要性に関する評価結果

種目	施策との親和性	民間による代替性
スケートボード	スポーツツーリズムを推進するなかで、派手なパフォーマンスで観戦の魅力が高く、集客を期待できる点等から、親和性が高いとした。	全国的に公共のパークが多数であることから、民間による代替性は低いとした。
	A	A
3x3	子どもたちが気軽にスポーツを親しむ環境づくりとして、競技人口の多いバスケットボールは親和性が高いと考えられる。	全国的に、公園等にリングが多数設置されており、民間による代替性は特に低いとした。
	A	特A
BMX	スポーツツーリズムを推進するなかで、派手なパフォーマンスで観戦の魅力が高く、集客を期待できる。また、本市は自転車のまちづくりを掲げており、その一環として BMX は親和性が特に高いとした。	全国的に公共のパークが多数であることから、民間による代替性は低いとした。
	特A	A
スポーツクライミング	クライミングは全身運動であり、こどもの体力向上が特に期待できる点等から、親和性が高いとした。	民間によるボルダリング施設が多数存在しているが、裾野人口を増やすという観点では公共の施設整備も必要と考えられ、どちらともいえないとした。
	A	B
パルクール	スポーツツーリズムを推進するなかで、派手なパフォーマンスで観戦の魅力が高く、集客を期待できる。また、パルクールは本来トレーニングを目的としたものであり、こどもの体力向上が特に期待できる点等から、特に親和性が高いとした。	民間によるパルクール施設がいくつか存在しているが、今後裾野人口を増やすという観点で公共の施設整備も必要と考えられ、どちらともいえないとした。
	特A	B

ブレイキン	スポーツツーリズムを推進するなかで、派手なパフォーマンスで観戦の魅力が高く、集客を期待できる点等から、親和性が高いとした。	民間によるダンス教室が運営されていること、広場等の専用施設以外での実践も可能であることから、民間による代替性が高いとした。
	A	C
パデル	日本パデル協会によると、「パデル×食」が文化としてあり、ツーリズムの親和性が高いと考えられる。	民間によるパデル施設がいくつか存在しているが、今後裾野人口を増やすという観点で公共の施設整備も必要と考えられ、どちらともいえないとした。
	A	B
フライングディスク	様々な種目が存在し、運動量の多いものから少ないものまでであるため、生涯スポーツとして幅広い年代が楽しむことができる点で、親和性が高いと考えられる。	広場等の専用施設以外での実践も可能であることから、民間による代替性は低いものの、公共関与の必要性は高くないと考えられ、どちらともいえないとした。
	A	B
スラックライン	スポーツツーリズムを推進するなかで、派手なパフォーマンスで観戦の魅力が高く、集客を期待でき、親和性が高いと考えられる。	広場等の専用施設以外での実践も可能であるが、専用の器具が必要であり、裾野人口を増やす観点で公共の施設整備も必要と考えられ、どちらともいえないとした。
	A	B

### (3) 整備種目

市場環境、公共が関与する必要性の整理を踏まえ、種目を選定する。特Aを3点、Cを0点として総合得点を算出する。

表 各種目の得点

	市場	競合	本市（受入れ環境）	公共関与の必要性	得点	採用
スケートボード	7	2	2	4	15	◎
3x3	5	1	2	5	13	○
BMX	4	2	1	5	12	○
スポーツライミング	7	1	2	3	13	○
パルクール	6	3	0	4	13	○
ブレイキン	4	1	2	2	9	△
パデル	1	3	0	3	7	×
フライングディスク	2	1	0	3	6	△
スラックライン	1	1	0	3	5	△

表 結果の考察

	考察
スケートボード	スケートボードは最も市場の観点からの点数が高い種目のひとつであり、利用が見込める種目と考えられる。他の項目も高水準であり総合点が最も高く、整備種目として採用することとした。
3x3	3x3は競合の観点で点数が高くないものの、本市（受入れ環境）、公共関与の必要性に関する得点が高い。また、バスケットボールの競技人口は多く利用が見込まれるため、採用することとした。
BMX	BMXは市場の観点からの点数は高くないものの、最も点数の高いスケートボードとの親和性が高いこと、本市が自転車まちづくりを推進していること等から親和性が高く、採用することとした。
スポーツライミング	スポーツライミングは最も市場の観点からの点数が高い種目のひとつであり、利用が見込める種目と考えられる。特に「やってみたい」というニーズが高く、整備を行う価値は十分にある種目であると考えられ、採用することとした。採用するにあたって、市内民間事業者と調整の必要がある。
パルクール	パルクールは、本市のみならず本県の施設が少ない状況である。一方で、今後の成長性が特に期待できることから、公共で整備を行う価値が十分にある種目であると考えられ、採用することとした。
ブレイキン	ブレイキンは、市場の評価は低くないものの、広場等での実践が可能であること、民間によるスクールが開催されていること等から公共関与の必要性が低いという結果になり、今回整備種目として採用をしないこととするが、多目的広場等で対応ができるものとする。
パデル	パデルは本県に施設が1件のみであり、競合が少ない点で優れている。しかし、専用のコートの整備が必要である一方、市場の評価等が高くないことから採用しないこととした。
フライングディスク	フライングディスクについて、得点は低く今回種目として採用しないこととした。ただし、多目的広場での実施も検討できる。
スラックライン	スラックラインについて、総合得点は低く今回種目として採用しないこととした。ただし、多目的広場での実施も検討できる。



## 2-3 導入機能及び規模の設定

- ✓ 各種目について、前提条件を踏まえその機能と規模を設定した。
- ✓ 約6,000㎡が規模として必要であるとした。

### (1) 必要な機能の設定

選定した種目を踏まえ、必要な機能を整理する。

表 必要な機能

機能	概要
競技機能	・ 競技を行うのに必要な機能。 ・ 競技別に適切な機能を設定する。
管理機能	・ パーク全体の管理を行う機能。 ・ トイレやクラブハウス等の機能を設定する。
多目的機能	・ 選定した種目以外のアーバンスポーツやイベント等を実施できる機能 ・ 今後著しく変化すると考えられるアーバンスポーツのニーズに対応可能とする。
観戦機能	・ イベント等を実施した際に観戦ができる機能。
全天候機能	・ 屋根の設置により、雨天時の対応を可能とする機能。
照明機能	・ 日没後の利用を可能とする機能。

### (2) 各種目の必要な規模の設定

アーバンスポーツは競技エリアの規格が明確に定まっていない種目が多いため、規模の設定においては事例を参考に設定する。

#### 1) スケートボード・BMX

##### 【前提条件】

- ・ 面積の規定はないが、広ければ多くのセクションを設置でき、フラットなゾーンの確保も可能である。
- ・ セクションを設置する空間とスクールを行う空間（フラットな空間）を設置することが望ましい。利用対象者（子ども、初心者、大会を目指す選手等）によって、設置するセクションの難易度等が異なる。

##### 【基本方針】

- ・ スポーツツーリズムの発展に資するアーバンスポーツ活動の拠点をめざすことから、大会や強化合宿等を実施しているムラサキパークかさま、松阪市総合運動公園スケートパーク、鶴沼海浜公園スケートパークの規模を参考とする。
- ・ 参考とするパークの面積を踏まえ、スケートボード・BMXエリアについては4,000㎡程度とする。

表 参考とするスケートボードパーク

スケートボードパーク	面積
ムラサキパークかさま	4,600㎡
松阪市総合運動公園スケートパーク	4,890㎡
鶴沼海浜公園スケートパーク（閉場） ⇒令和5年度秋頃オープン	約8,600㎡ ⇒約6,700㎡

## 2) 3x3

### 【前提条件】

- ・コートサイズは、「一般（中学生以上）」が利用する正規コートサイズ（横15m×縦11m）、ゴールの高さ3.05mとする。

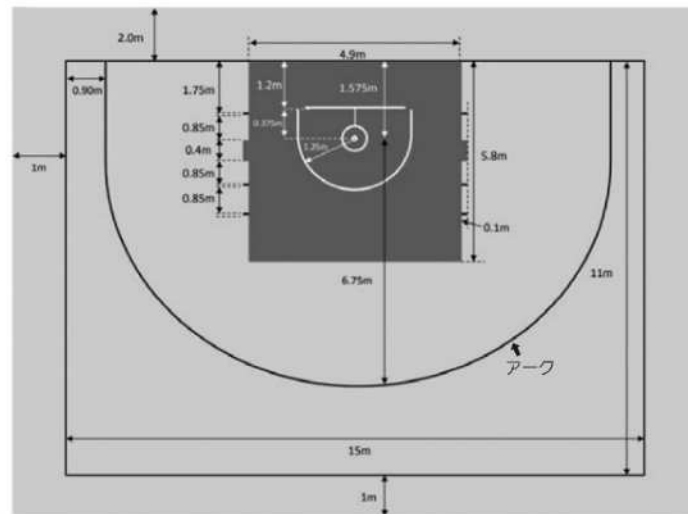


図 バスケットコート（3×3）サイズ

出典：「3×3 OFFICIAL RULES OF THE GAME」（2018年4月1日）

### 【基本方針】

- ・3x3について、イベント・大会開催時の円滑な進行のため、2面の整備を検討する。
- ・通常のバスケットボールコート（28×15）としても活用できるマルチなコートとし、利用機会の増加を狙う。
- ・サイドライン及びエンドラインの周囲2mの範囲内には、競技の妨げとなるような障害物等があるてはならないことを踏まえ、600㎡程度とする。

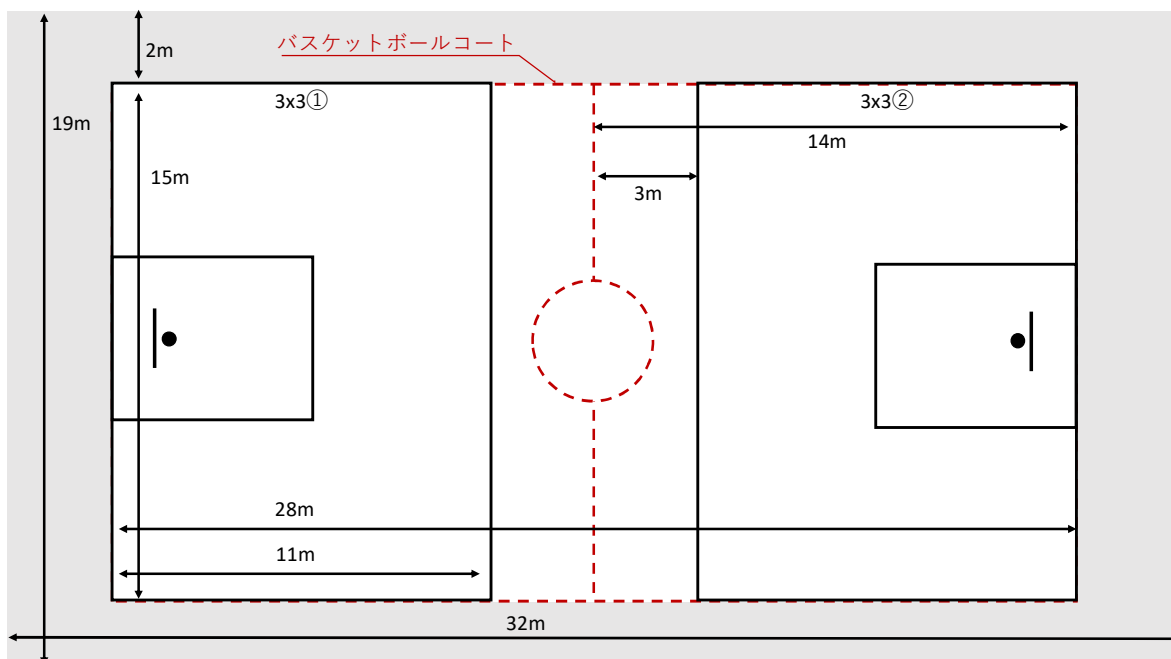


図 コート配置イメージ

### 3) スポーツライミング

#### 【前提条件】

- ・国際大会では高さ4.5m、延長30m級のウォールを、国民体育大会（国民スポーツ大会）では高さ5.0m、延長12m、面積60㎡のウォールを2基必要とする。（資料：国民体育大会施設基準2022年6月）
- ・宮下公園は高さ4m、幅5メートル（裏表）
- ・奥武山公園は高さ4m、幅5m+6m、傾斜90度、100度、110度、120度

#### 【基本方針】

- ・多目的広場内に、屋外型ボルダリングウォールを整備する。
- ・難易度設定と壁の角度にバリエーションを与えるため、5種類程度の壁の整備を検討する。
- ・1つの壁の幅は事例を踏まえ、5メートルとし、ウォールの厚みを1メートルとする。マットの敷設範囲に関して、奥行きはウォールの上端から下ろした推薦より、2.5m大きいこと、側面はウォールの側面から1.5m大きいことが必要である。これらを踏まえると、ウォールとマットで約100㎡が必要と考えられる。
- ・マット・ウォールの周囲に1m程度の安全幅（マット外で待機できる空間）を確保することを検討し、スポーツライミングゾーンは約150㎡程度とする。

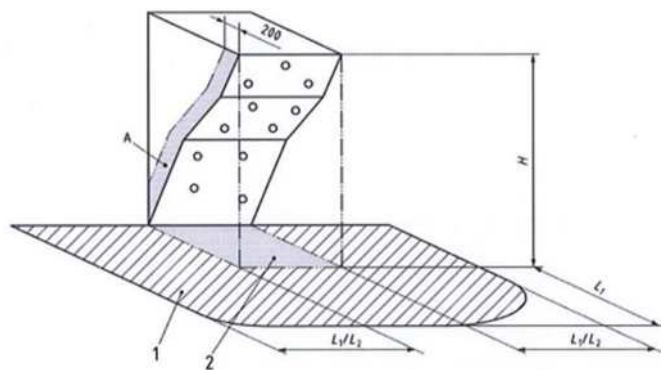


図 マットの敷設範囲の考え方

### 4) バルクール

#### 【前提条件】

- ・面積の規定はなく、参考とできる屋外施設の事例も少ない。
- ・視察を実施したMISSION PARKOUR PARK TOKYOは135坪（約450㎡）。
- ・障害物を設置することができる面積は必要となる。
- ・バルクールが盛んなデンマークの屋外バルクールスポットについて、いくつか調査を行った。（面積は図上測定）

表 デンマークのバルクールスポット

スポット	面積
Furesø Parkour Park	約160㎡
Bagsværd Skole Parkour Park	約400㎡
Randers Industri Parkour	約850㎡
Odense Havne Parkour Park	約450㎡

【基本方針】

- ・スポーツライミングと親和性が高いと考え、隣接する配置とする。
- ・面積について、明確な規定はないものの、視察を行った国内事例や調査した海外事例を踏まえ、約500㎡をパークールゾーンとして確保する。

### (3) 多目的広場（屋根付き）の規模の設定

【基本方針】

- ・アーバンスポーツは雨天時に実践できないものが多いことから、多目的広場は屋根付きのものとする。
- ・様々な種目に対応できるように、地面はコンクリートの土間打ちにて整備を想定する。
- ・3x3コート、仮設セクションの設置を可能とすることを踏まえ、約700㎡程度の規模を設定する。これは本市の21世紀の森公園野外ステージの広さと同等である。

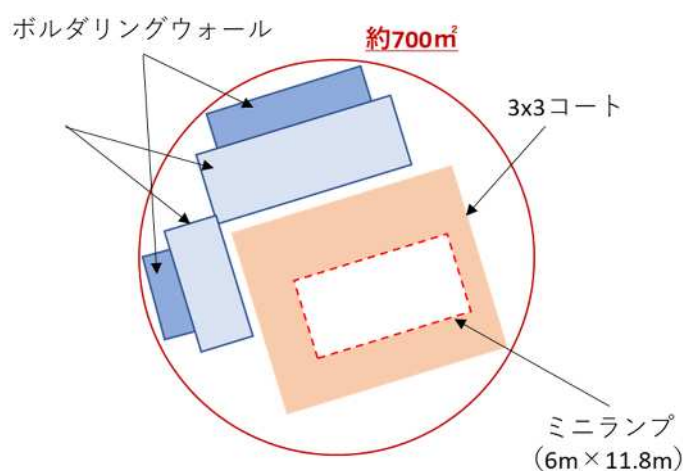


図 多目的広場の配置イメージ

### (4) 施設全体規模の設定

各施設の設定を踏まえ、施設全体の規模を以下の通り設定する。この面積に加え、管理スペースや通路等の確保が必要となるため、少なくとも6,000㎡を確保できる土地にて検討する。

	必要面積
スケートボード・BMX	4,000㎡
3x3	600㎡
スポーツライミング	150㎡
パークール	500㎡
多目的広場	700㎡
合計	5,950㎡ ⇒ 約6,000㎡

## 2-4 建設候補地の抽出

- ✓ 候補地の抽出条件より抽出された土地のうち、想定導入規模（6,000㎡以上）の利用可能な用地を保有している「イオン名護ショッピングセンター」を候補地とした。
- ✓ 「イオン名護ショッピングセンター」では、職員駐車場を対象として検討を行うこととした。

名護市アーバンスポーツの建設候補地について、本市におけるアーバンスポーツ推進の方向性を踏まえ、以下の条件をもとに抽出を行う。

### (1) 候補地の抽出の考え方

#### 条件① 用途地域内かつ日住居系エリア内

アーバンスポーツは「エクストリームスポーツの中で都市での開催が可能なもの」とされている。また、音楽、ファッション性など若者文化とともに進化するカルチャーの延長線上にあるスポーツとも捉えることができ、こうした特性を踏まえて、若者をはじめ、人々が集りやすい用途地域内とする。

加えて、アーバンスポーツの特性から屋外施設整備を念頭に置いた場合、スケートボードやBMXの滑走音、3×3のドリブル音等が発生することを考慮し、非住居系の用途地域内とする。

#### 条件② 想定導入規模（6,000㎡以上）の空間が確保できる用地

前述の導入機能及び規模の設定に基づき、想定導入規模である6,000㎡以上の用地が確保できる土地とする。

## (2) 候補地の抽出

候補地抽出条件をもとに抽出を行った結果、以下の4か所を候補地とする。

このうち、港緑地は、名護湾沿岸実施計画にて既に交通結節点機能が位置付けられていることから候補対象から除外する。

宮里公園は、現状都市公園として活用されており、改修や機能見直しの計画もないことから、候補対象から除外する。

21世紀の森公園は、名護湾沿岸基本計画においてレクリエーションゾーンとして再整備する計画があるとともに、パークの想定導入規模である6,000㎡以上の利用可能な用地確保は困難であることから、候補対象から除外する。

イオン名護ショッピングセンターは、本市とイオン琉球株式会社にて、地域のさらなる活性化と市民サービスの向上を目的とした包括連携協定を締結しているとともに、駐車場を利活用すれば想定導入規模の確保は可能となる。

以上の結果から、イオン名護ショッピングセンターを候補地として抽出する。

表 候補地対象の抽出結果

	名称	所在地	面積 (ha)	土地利用または 都市施設種別	利用可能な空 間の有無
①	イオン名護ショッピングセンター	名護 4472	4.7	商業用地	有
②	港緑地	城 23 付近	1.1	都市公園・緑地	無
③	宮里公園	宮里 4-7-867-6	3.3	都市公園・緑地	無
④	21世紀の森公園	宮里 2-2	15.0	都市公園・緑地	無

※土地利用または都市施設種別は、平成28年基礎調査をもとに、土地利用のうち、「公共空地」、「その他空地」、「商業用地」、「駐車場用地」、または都市施設のうち「都市計画公園、緑地等、その他の公園」に該当する箇所

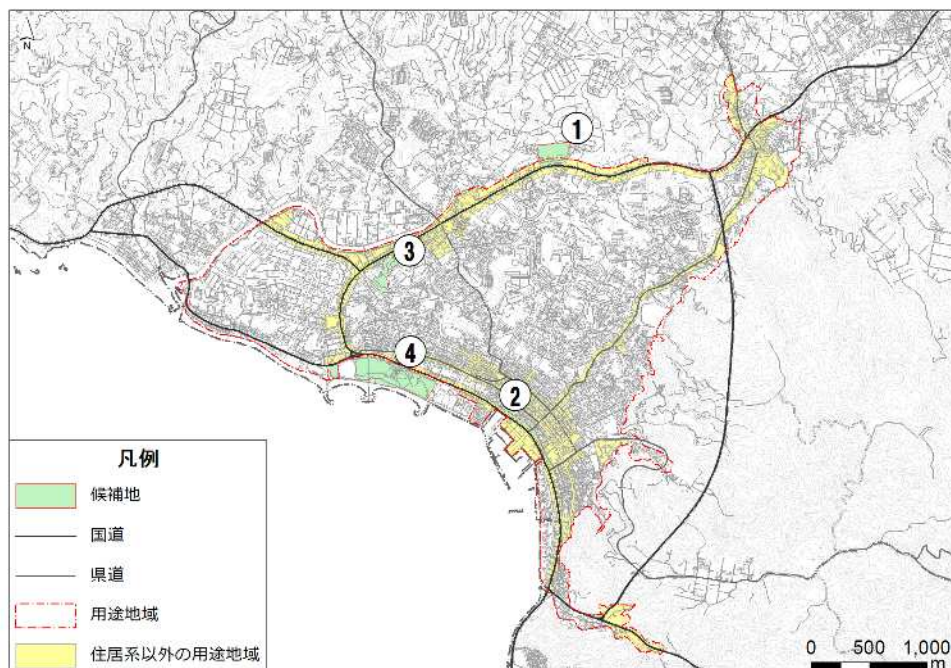


図 候補地抽出結果



### (3) 建設場所の設定

「イオン名護ショッピングセンター」の敷地内にて整備を行う場合、屋上駐車場、従業員駐車場の2つの可能性がある。これらについて、以下のように特徴を整理した。

屋上駐車場のほうが広く面積をとることができるが、屋上であるため、ボルダリングウォールの設置等を検討する場合に構造的な制限が生じる可能性がある。一方、従業員駐車場は利用可能な面積は比較的少ないが、先述のような制限は少ないと考えられる。また、一般道からのアクセスを検討可能な立地である。

広く市民への普及をめざす役割とともに、スポーツコンベンションにより経済活動を促進する役割が求められている。よって、イベントや大会等を計画的に開催できる屋根の設置や、県内にはみられない希少性の高いパーク整備に柔軟に対応できる従業員駐車場が建設場所に望ましいと考える。

これらを踏まえ、従業員駐車場を建設場所として設定し、以降の検討を進める。

表 イオン名護ショッピングセンターの敷地概要

	屋上駐車場	従業員駐車場
面積	約10,800㎡	約6,700㎡
留意事項	・屋上であるため、アーバンスポーツ設備の設置に制限が生じる可能性 ⇒ボルダリングウォール等	・一般道からのアクセスも検討可能

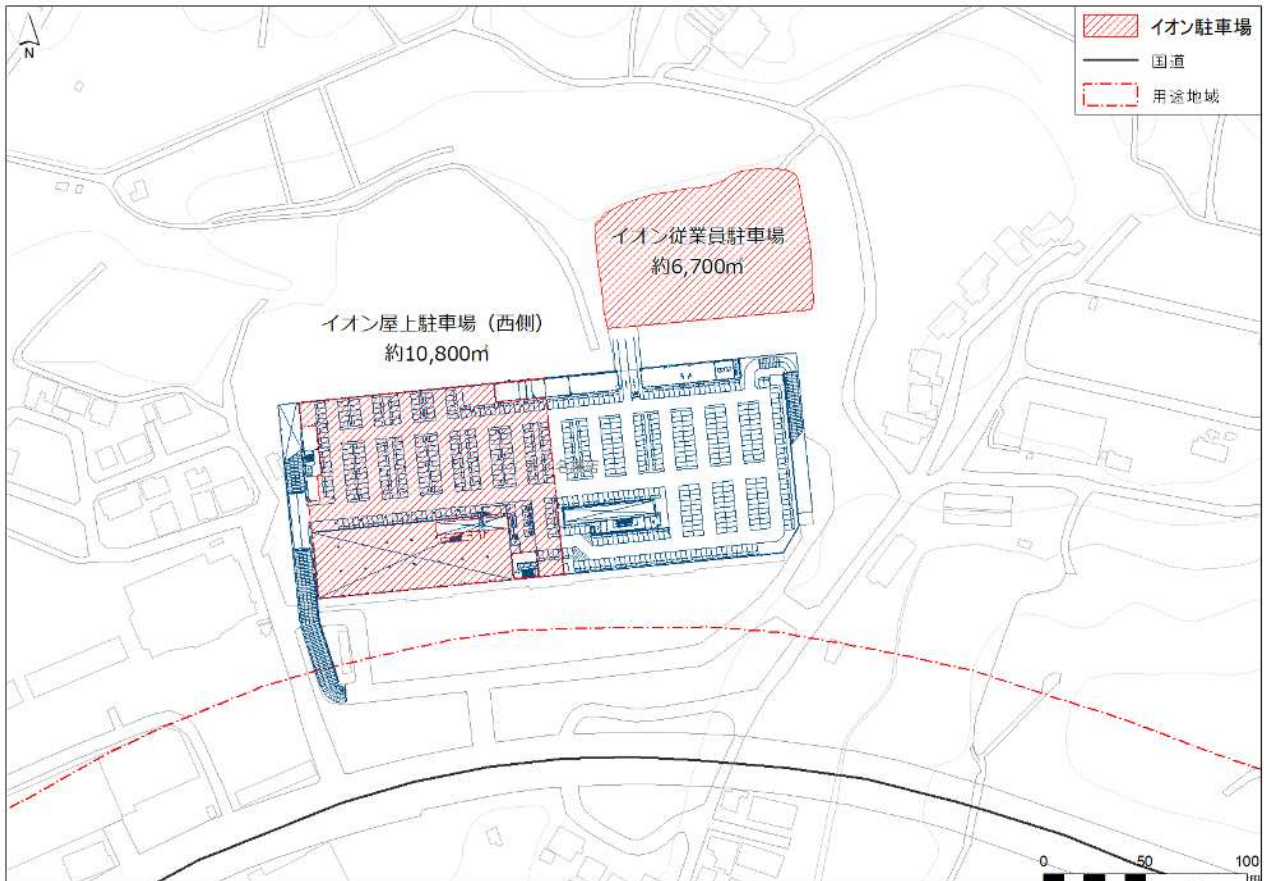


図 イオン名護ショッピングセンターの敷地

## 2-5 関係者ヒヤリング

- ✓ 全般的に店舗と連携した誘客（親子連れ・初心者等）への期待が高い。
- ✓ 一方で、店舗に直結しておらず視認しづらい立地にあることへの対策が必要である。
- ✓ 種目ごとに様々な意見・提案をいただいた。

施設計画や事業化計画、管理運営計画検討の参考とする目的で、各種目の関係者に建設候補地であるイオン名護ショッピングセンターにおける整備運営に向けた意見や提案についてヒヤリングを実施する。

設問	スケートボード	3x3	BMX	スポーツライミング	パルクール	
当種目に関するご自身の名護市内での活動(内容・場所・対象者等)を教えてください。	・ボランティアスクールの開催 ・名護サクラ祭り内スケート・BMXショーへの協力	・3x3の活動としては、名護市ではまだできていない。 ・バスケットボールスクールを21世紀の森体育館で開催している。	・名護サクラ祭り2023 BMXスケートボードショー	・ボルダリングジムの経営 ・初めての方へのルール説明、安全指導 ・宜野座高校「スポーツライミング部」外部コーチ	・過去の活動経験はない。	
名護市内における当種目の現状や動向等について教えてください。	名護市は盛んなエリアか (県内他都市との比較)	【やや思う】 ・カルチャーとして常にローカルが動いている。ただ場所が少ない。	【思う】 ・名護市は昔からバスケットボール競技が盛んな場所である。各カテゴリー上位によく入っている。	【あまり思わない】 ・競技者がまだ少ない	【あまり思わない】 ・ある程度の危険を伴う為、保護者同伴が基本となるので、保護者がいないと来場できない。	【あまり思わない】 ・施設がないこと、指導者がいないこと
	名護市に適した種目か (県内他都市との比較)	【思う】 ・ツーリズムの可能性、教育の可能性	【思う】 ・バスケットボール競技人口が多いので適していると思う。	【思う】 ・スケーターが多く他地域で会うとBMXをやりたいといわれることが多い。 ・自転車のまちであること。	【思う】 ・認知度がまだ低いスポーツなので、今後人口が多くなれば、有力選手をはじめ、メジャー化していくと思われる。	【思う】 ・名護市等からジムへ通う生徒も多い。県内の立地的に大会の誘致も期待できる。
	名護市で活動している団体・競技者等	NESA ナゴエクストリーム協会	-	-	・当店で登録している延べ人数は3000人弱(2023年2月現在)	・パルクール専門の団体はナン ・名護アクターズクラブ等の演劇団体がトレーニングとして興味あり
	その他の現状や動向等	・NESAやローカルスケーター達が協力イベントの企画や、他市町村でのイベントに積極的に参加している。 ・スケートボードファンデーション沖縄、県ローラースポーツ連盟、スケートクラブオリオンと連携し活動している。	-	・名護ビール祭りでのショーの予定	-	・名護市内ではストリートスポーツが全体的に盛り上がり始めている印象がある。
パーク整備の候補地(イオン名護ショッピングセンター駐車場)について印象を教えてください	・話題として良い ・モール内店舗と官民連携しやすい ・マーケットと結びつけやすい ・発信力が優れている	・市民が気軽に利用しやすい場所だと思う。	・親子で来ても競技をしない人が暇をしない。 ・買い物ついでに来る。	・駐車場からのアクセスが良い。不特定多数の人がイオンを利用する点。	・駐車場が広いこと。 ・市民の生活の中心の1つの場であること。	
その他 (期待や課題等)	・商業施設ならではの特徴を活かしているいろいろなアプローチが生まれてくる。 ・実例として、注目される。 ・駐車場からの動線は工夫が必要。	・初心者の方々にアーバンスポーツに触れていただくためのパークにはすごく最適。 ・家族や市民の方々に利用していただくにも最適。	・商業施設とパークまでの導線の安全性の確保が必要。 ・周囲が木々で囲われており夏場に熱がたまりやすくないか気になる。	・手洗い場は必須。足洗い場、シャワー室、更衣室があれば尚よし。	・生活の一部にクラスや習い事として入り込める期待がある。 ・買い物ついででの認知が期待できる。	



イオン名護ショッピングセンター駐車場を想定し、「普及促進」と「スポーツツーリズムの実現」に寄与するパーク整備・運営に向けたご意見・ご提案をお聞かせください	整備の方向性 (重視すべきこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラの整備</li> <li>・ソフト面、ハード面で連携しすすめるのが大事</li> <li>・競技ニーズに合うもの</li> <li>・デザイン性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作るからには、競技者目線・利用者目線の両方をしっかり時間をかけて考えて欲しい。</li> <li>・一番は安全性。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れの作れるパークの整備</li> <li>・買い物客等一般客のパーク認知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マット間のすきま、壁通しのクリアランス、施設利用時の説明・案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傾斜が気になる。</li> <li>・屋上の奥に想定されているので、認知度を高めるのも課題かと。</li> </ul>
	利用者ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技者はもちろん、レジャーとしてファミリー層へのアプローチ、育成につながるアプローチ、地域、観光、教育、福祉などあらゆるアプローチをしていくべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イオンと21世紀でターゲット層を分けたほうがいい。両極端に分けることで利用者も増えし、活用性も高まると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未経験者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルダリング未経験者、小学生、50代以上のシニア</li> </ul>	-
	当種目エリアの整備内容(セクション・コース等)と競技レベル(初級・中級・上級)に関するご提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レベル分けの考え方ではなく、コースデザインなどの中で、各レベルニーズを要素として組み込み、すべての人が楽しめる場にしていく。</li> <li>・普及や活用などソフト面でも同じ考え方。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3x3に関しては、競技の正式コートでお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地が広いので他にはない上級者向けセクションと初級中級セクションのすみわけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・80°、90°～85°、90°、100°、100°～130°の3D壁の5つのウォールがあればバランスがいい。</li> <li>・初級～中級レベルなら1つの壁に難易度の異なる5～6コースが望ましい。</li> <li>・100°、100°～130°の3D壁に中・上級者コース3～4コース。</li> <li>・大会・コンペにも対応可能となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全レベルに対応しつつ、イベントも誘致できるよう提案する。</li> <li>・海外に実際にある公園をベースにデザインできればと思う。</li> </ul>
その他、パークの整備・管理・運営に関する事項(提案・留意事項等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、行政が常にフィールドとして連携している場所</li> <li>・競技団体が協力し、競技会内、外での効果を高めていく</li> <li>・アーバンスポーツにおける専門知識を育て、発信し、活用していく</li> <li>・スケートボード、BMXのパークでもいろいろなジャンル、スタイルのニーズをとりこみ、幅広い方が使えるパークにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技に関わっている方々が管理・運営することで活用性は高まり、いろんな方々の目にとまると思う。</li> <li>・安全性を考えると競技者や関わっている知識のある人がいることは重要だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セクション老朽化や破損したときの補修のスピード感</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールド、マットは紫外線により、色落ち、耐久性、劣化を早める。季節、時間問わず常に日陰になるようお願いしたい。</li> <li>・マットも水分、湿度に弱いので、マット下は風通しが良いように金網にするなどし、同時に水抜きとしても活用する。</li> <li>・クライミング利用者は必ずシューズを履いてもらう。草履、サンダル、ヒールのあるものは絶対禁止。クライミングシューズ、体育館シューズ、上履きで利用させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道は必要かと思う。</li> <li>・管理運営に関しては適切な団体を。</li> </ul>	

## 2-6 整備計画図の作成

✓ 関係者へのヒヤリング結果を踏まえ、全体配置を検討し、全体配置図を作成した。

### ○敷地条件

- ・敷地の入り口は、イオン名護ショッピングセンターの3F駐車場に接続する南西部デッキのみである。
- ・敷地北東部には公道への接続が可能な通路がある。
- ・供給処理系統について、電気は敷地内まで引き込まれており、上水、下水は敷地内への引き込みがない。

### ○考え方

敷地条件を踏まえ、以下の考え方をもとにした配置計画とした。

表 区画配置の考え方

	考え方
出入口	・来場者はイオン名護ショッピングセンターの駐車場を利用し、接続している南西部デッキを使用して入場することを想定し、1箇所設置。なお、管理用の出入口は別途設ける。
多目的広場	・出入口付近に、エントランスの役割も兼ねて設置する。 ・雨天時でもイベント等の利用に影響が少ないよう、屋根付きのものとして検討する。
通路	・出入口から東西・南北にメインとなる通路を設置し、競技エリアの区分としても活用する。 ・外周通路は階段の形状とし、観覧席としても活用ができるものとして検討する。
管理棟	・入場管理、及び安全面での監視の必要性から、エリア全体を見渡せる位置に設置する。
スケートボード・BMX	・占める面積が最も大きく、ボウルを設置する場合はある程度エリアに奥行きがある方が望ましいため、敷地北東に配置する。
3×3	・公式基準のコートエリアに安全エリアを確保できる位置として、敷地南東に配置する。
パルクール	・セクション設置に柔軟性があるため、敷地北西側に配置する。
スポーツクライミング	・雨天時の管理、競技のしにくさを鑑み、多目的広場の屋根の下に配置する。



図 全体配置図（全施設を集約した場合）



---

## 第3章 施設計画

### 3-1 施設整備と利活用の基本方針

- ✓ 施設整備と利活用の基本方針について3つの柱を設定した。

計画内容の検討を踏まえ、施設整備と利活用の基本方針について3つの柱を設定する。

- ◆ 「スポーツコンベンション」と「市民が気軽にアーバンスポーツに親しむ場」が共存するパークづくり  
⇒「スポーツコンベンション」として大会やイベントを実施可能な施設とすると同時に、初級者が利用しやすくする工夫を凝らし、両者が共存する施設とする。
- ◆ 各種目が相互連携し、多様で柔軟な利活用が可能なパークづくり  
⇒アーバンスポーツの各種目が相互に連携をすることで単体種目のみの場合と比較し、より魅力的な施設整備を図る。柔軟な利用を可能とする広場や連携しやすい動線を計画する。
- ◆ 民間事業者や競技関係者との連携による持続可能なパークづくり  
⇒民間事業者や競技関係者との連携を図り、民間事業者の運営ノウハウや各競技関係者の専門知識を最大限生かし、持続可能な施設整備・利活用を行う。

### 3-2 競技種目ごとの基本方針

- ✓ 第2章 2-3 (3) 整備種目で採用した競技種目の基本方針として、導入施設と施設内容、規模について検討した。

#### (1) スケートボード・BMX

【エリア面積】約2,300㎡

【コンセプト】

スケボー&BMXを中心に種目・競技が融合したスネークタイプのパーク

【基本方針】

- ・パークの広さを生かし、ストリートスタイルとパークスタイルが融合した、県内にはみられないスネークタイプのコース（トラック）を配置する。
- ・全体はスケートボードの普及促進を目的とし、上級者やBMX・サーフスケート等のニーズに応えるセクションを配置することで、幅広いレベルと種目に対応する。
- ・BMXの普及促進に欠かせないストライダーや、子供に人気のリップスティックも楽しめるデザインとする。

【利用レベル】初級・中級が中心（上級者も楽しめる）

【整備方針】

- ・耐久性や降雨後の復旧等の観点からコンクリートパークとする。
- ・初心者も利用しやすいよう、コース内に入る動線をなだらかなスロープ状のバンクにする。
- ・全体的に低く見渡せるセクション構成とする。

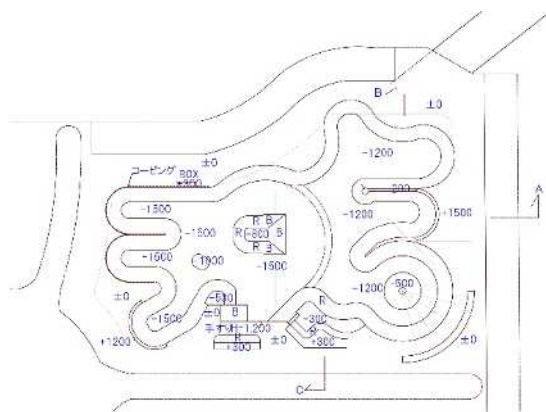


図 スケートボード・BMXパーク 平面図

【主な施設】

- ・トラック
- ・カービングセクション
- ・カービングスパインランプ
- ・カーブボックス
- ・複合セクション（バンク・アール状）
- ・スパイン
- ・コブ状セクション



## (2) 3×3

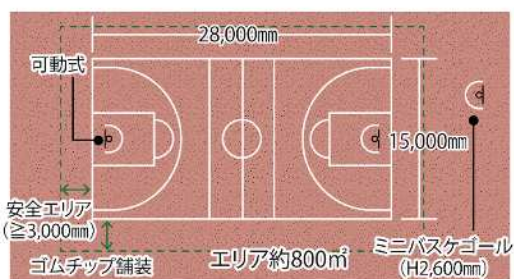
【エリア面積】 約800㎡

【コンセプト】

### イベント・練習・遊びの多様なシーンに対応した3×3コート

【基本方針】

- ・本施設は、スポーツイベントの実施から気軽な日常利用までの利用を想定し、幅広い世代が多様なシーンで柔軟に利用できるコートと設備を配置する。
- ・3×3コートを2面確保しつつ、フルコートの規格にも対応した配置とする。
- ・コート周辺には安全スペースを3m以上確保する。



【利用レベル】 初級・中級・上級

【整備方針】

- ・バスケットボール公式競技用サイズコート1面、3×3サイズコート2面を含めて整備する。
- ・バスケットゴールのうち、1基は可動式とし、スポーツコートと合わせて多目的広場等での大会開催にも対応する。なお多目的広場で利用する際は、スポーツコートを敷いて対応する。
- ・小学生以下でも楽しめるよう、コートの安全エリア外にサブバスケットゴールを設置する。
- ・フルコート舗装はゴムチップ舗装とする。

【主な施設】

- ・3×3コート2面 (5×5コート1面)
- ・固定式バスケットゴール (H3,050mm) 1基
- ・ミニバスケットゴール (H2,600mm) 1基
- ・スポーツコート (3×3コート1面)
- ・移動式ゴール (H3,050mm) 1基

### (3) スポーツクライミング

【エリア面積】 約600㎡

【コンセプト】

#### 大会にも対応可能な全天候型クライミングウォール

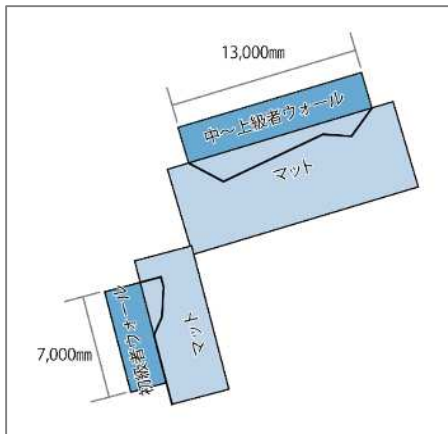
【基本方針】

- ・ シンプルなルールで、子供から中高年まで幅広く楽しめる特徴を活かし、レジャー感覚で子供の体力づくりから、大人の健康づくりにも役立つ施設とする。
- ・ ホールドの設定や3D状に起伏のある壁面に様々な難易度のコースを設定することで、初級者から上級者でも飽きることなく楽しむウォールとする。
- ・ 全天候型の施設とする。

【利用レベル】 初級・中級・上級

【整備方針】

- ・ 初心者用と中・上級者用のウォール2基を整備する。
- ・ 初級者用として幅7mのウォールを設置する。ホールドの位置・高さを初・中級者用に設定することで、初めて訪れた方、親子連れの方々等がレクリエーション的に楽しめる施設とする。
- ・ 中級者・上級者用として、幅13mのウォールを設置する。初級者コースで練習し、クライミングに慣れてきた方々が少し難易度の高いコースに挑戦するコースとする。



【主な施設】

- ・ 屋根を設置
- ・ 初・中級者用FRPボルダリングウォール W7m H4m 1基
- ・ 中・上級者用FRPボルダリングウォール W13m H4m 1基
- ・ 上記ともに傾斜有り、背面・側面有り、鉄骨下地及びFRPフラットパネル
- ・ マット 2枚

## (4) パルクール

【エリア面積】 約600㎡

【コンセプト】

大会・合宿から体験・レッスンまで対応可能な日本初の屋外パークールパーク

【基本方針】

- ・大会やイベント開催も可能な日本初の屋外パークールパークとなるため、同競技の浸透を牽引する役割を担う。
- ・パークールの多様な側面の浸透に向け、未体験、初心者、キッズ、女性からプロアスリートまで満足に利用できるよう、複合的な要素を取り入れる。

【利用レベル】 初級・中級・上級

【整備方針】

○初心者エリア

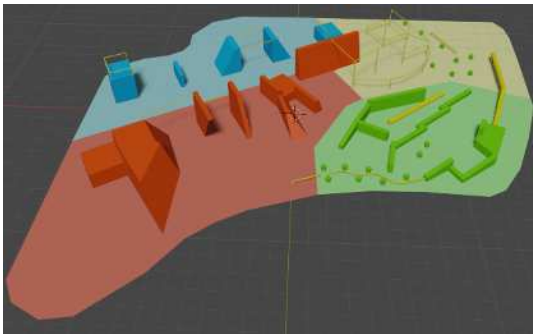
- ・障害物の高さを低く設定する。
- ・基本である受け身やバランスからジャンプまで様々な動きが練習できるエリアとする。

○上級者エリア・レールエリア

- ・プロアスリートのトレーニングに必要な障害物、台や鉄棒、壁を配置する。
- ・フリースタイルの大会に向けたトレーニングも可能なエリアとする。

○スピードエリア

- ・国内初となるスピード種目に特化したオブスタクルス（障害）を配置しているエリアとする。



【主な施設】

・スピードエリア（ブルー）

フレーム（鉄製 溶融亜鉛メッキ塗装仕上げ）表面：樹脂系ノンスリップボード

・中～上級者エリア（レッド）

フレーム（鉄製 溶融亜鉛メッキ塗装仕上げ）表面：樹脂系ノンスリップボード

・パークール施設 レールエリア（イエロー）

スチールパイプ握り部Φ42.7 平均台Φ318 円柱ゴムチップ圧縮材Φ300

・パークール施設 初心者・キッズエリア（グリーン）

平均台Φ318 円柱ゴムチップ圧縮材Φ300

・路盤ゴムチップ圧縮材 施工 材工とも 600㎡程度



### 3-3 動線計画

配置計画に基づき、動線計画を示す。動線計画は、利用者動線、観客用動線、管理者動線を分けて検討した。

#### (1) 利用者動線

利用者動線としては、入口から管理棟での受付を通過し、多目的広場の周囲通路及び南北・東西のメイン通路を使用して、各種目エリアへ通行することを想定する。大会・イベント時の錯綜、車いすの通行も想定し、通路幅は4mとする。

#### (2) 観客用動線

観客用動線としては、入口から管理棟での受付を通過し、多目的広場の周囲通路及び南北・東西のメイン通路を使用して、各種目エリア背面にある観覧席へ通行することを想定する。観覧席には、通路幅1.8mの観覧席通路を設ける。

#### (3) 管理者動線

管理者動線としては、敷地北東の管理用通路を出入口とし、各種目エリアの競技施設の背面を通過し、往来することを想定する。

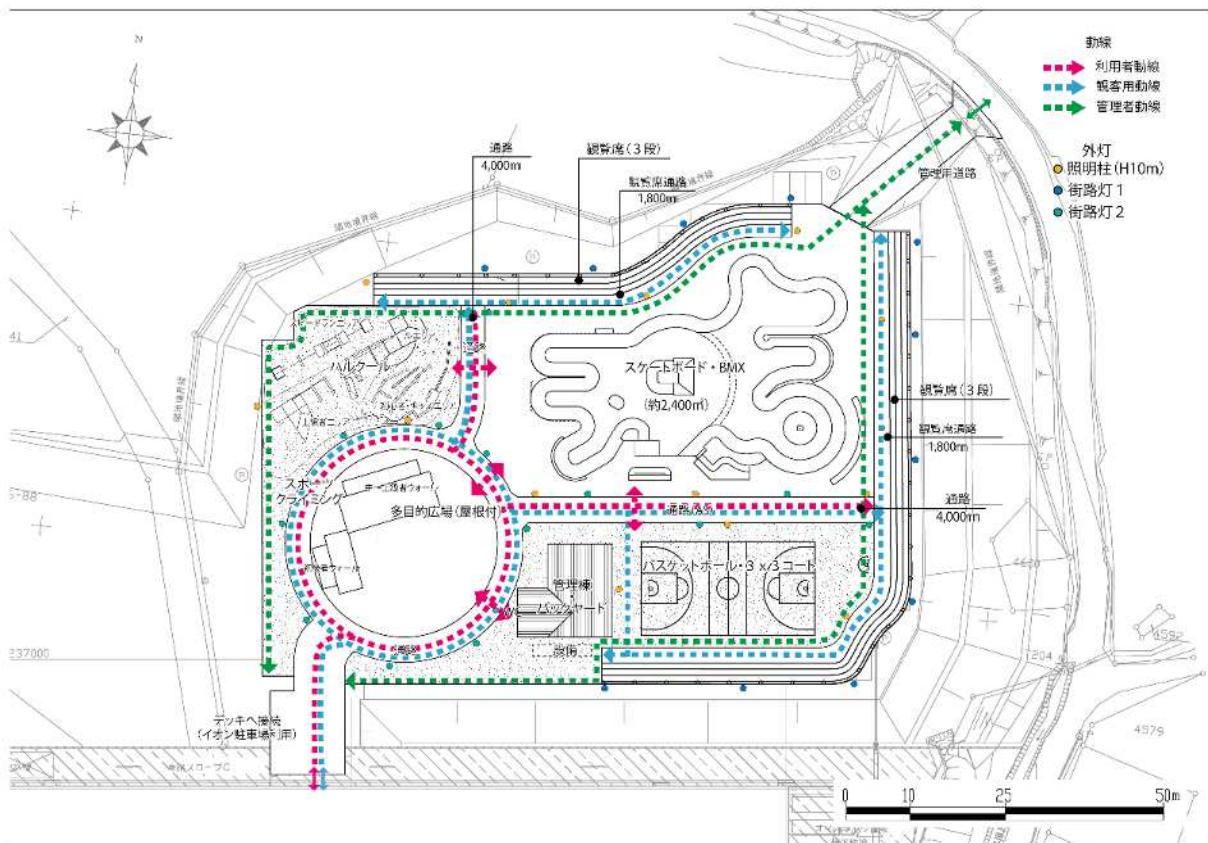


図 動線計画図（全施設を集約した場合）



### 3-4 構造計画

構造計画については、占める面積が最も大きく、構造により整備手法に大きな違いが生じるスケートボードパーク&BMXエリアを中心に検討した。

#### (1) スケートボードパーク&BMXエリア

スケートボードパーク&BMXエリアの主要な構造として考えられるのは、コンクリートと木製（金属製）の置き型セクションとなる。以下にそれぞれの一般的な特徴とメリットデメリットを示す。

表 セクション構造の特徴の違い

	コンクリートセクション	モジュールセクション
主な特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路面およびセクション（障害物）等を全てコンクリートで成型するスケートパーク。ストリートにおいてはスロープや階段など、パークにおいてはボウルの複雑な曲面等も全てコンクリートでの一体成型。</li> <li>・オリンピック予選などの国際大会のような規模の大きな競技会においてはコンクリート製のコースであることが要件となっている。</li> <li>・最近の世界的なトレンドでもあり、新設されるスケートパークで規模の大きなものはコンクリートであることが多くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリートやアスファルトの路面に、複数の木製や金属製のセクション（障害物）をレイアウトしてコースを設置するスケートパーク。</li> <li>・主にストリートのスケートパークに多く、面積や予算に応じたコース施工ができることや、比較的lowコストで抑えられる。</li> <li>・国際大会の要件を満たさないための規模の大きな大会開催は不可となる。</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐久性に優れており、設置後のメンテナンス頻度が少なくなる。</li> <li>・国際大会等の誘致開催が可能。</li> <li>・コース設置の自由度が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリートパークに比べて施工費が低く抑えられる。</li> <li>・リニューアルやリモデルが比較的容易。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施工費が高くなる。</li> <li>・リニューアルやリモデルが容易ではない。</li> <li>・現場施工の期間が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際大会などの大規模大会の開催が不可。</li> <li>・コンクリートパークを比較して滑走音が大きい。</li> </ul>
イメージ写真	 <p>令和3年2月撮影 ムラサキパークかさま</p>	 <p>令和3年2月撮影 境町アーバンスポーツパーク</p>

本計画では、「スポーツツーリズムの発展に資するアーバンスポーツ活動拠点」としての整備をめざしていることから、国際大会規模の大会開催を誘致できる施設要件を備えておく必要性を鑑み、コンクリートパークを採用することとする。

滑走表面及び滑走表面下地素材はコンクリートのみで構成する。以下にコンクリートパークの立面図を示す。

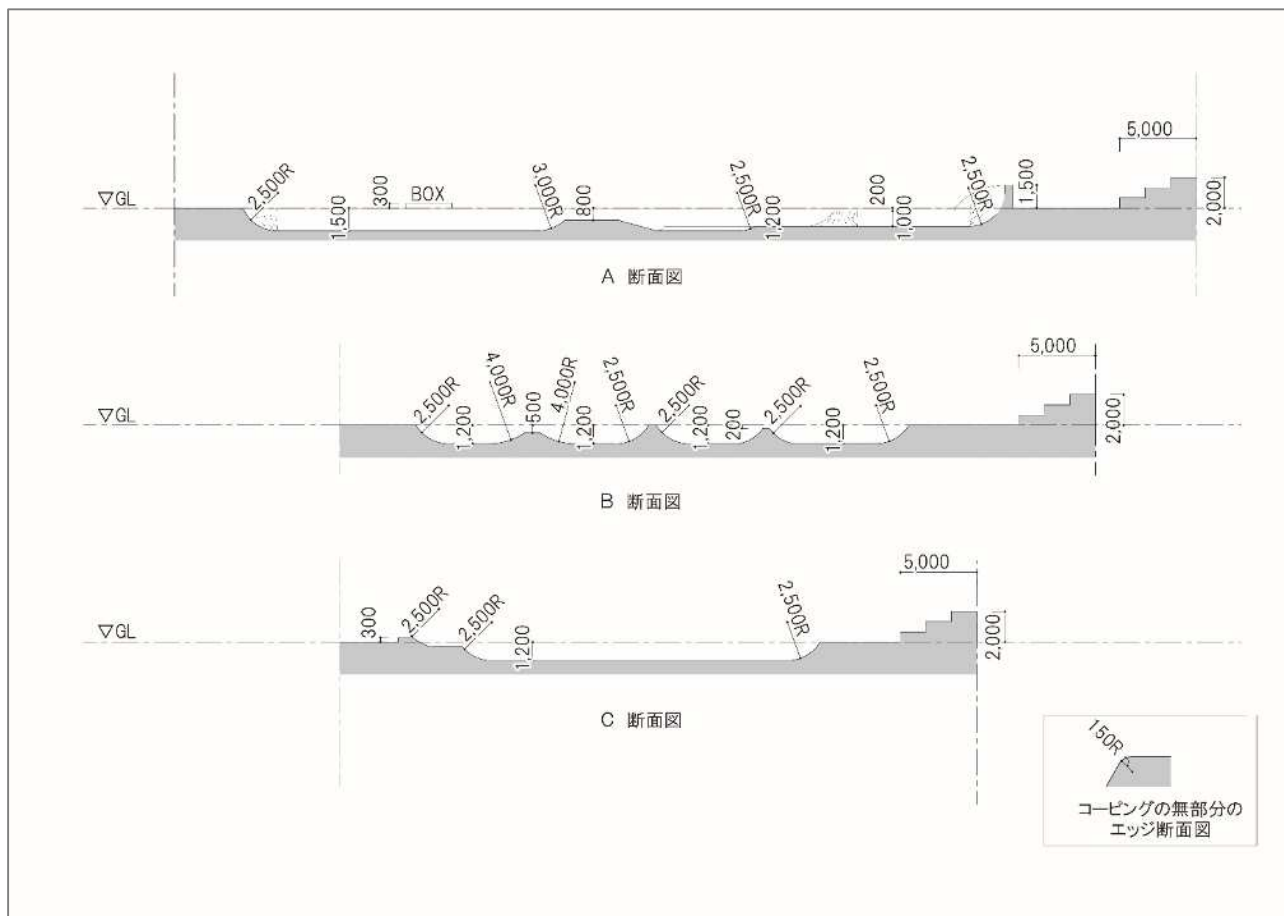


図 スケートパーク計画断面図

## (2) その他エリア

スケートボードパーク&BMXエリア以外のエリアの舗装構成は以下とする。

表 その他エリアの舗装構成

	舗装材	考え方
多目的広場	コンクリート舗装	<ul style="list-style-type: none"><li>・スケートボードの体験イベント等を想定し、滑走しやすい舗装としてコンクリート舗装とする。</li><li>・クライミングウォール付近には事故防止セーフティマット敷を設置。</li></ul>
パルクール	ゴムチップ圧縮舗装 (透水性)	<ul style="list-style-type: none"><li>・衝撃吸収効果が高く、怪我の予防のため採用。</li><li>・アスファルト舗装上にクッション性のあるゴムチップを敷き詰める。</li><li>・事故防止セーフティマット敷を設置。</li></ul>
バスケットボール・ 3×3コート	ゴムチップ圧縮舗装 (透水性)	<ul style="list-style-type: none"><li>・衝撃吸収効果が高く、怪我の予防のため採用。</li><li>・アスファルト舗装上にクッション性のあるゴムチップを敷き詰める。</li></ul>
通路	アスファルト舗装 (透水性)	<ul style="list-style-type: none"><li>・経済性が高く、補修が容易</li><li>・自然風から装飾的まで着色が可能</li></ul>

### 3-5 施設計画

施設として、管理棟を整備することとし、以下に考え方を示す。

- ・パーク全体の管理を行う施設として設置。S造平屋建て、建築面積は約190㎡とする。
- ・パーク用トイレ、クラブハウスを併設。トイレは管理者も使用することを想定する。
- ・スポーツパーク使用のグッズの貸出しを行うため、グッズの保管場所とする。  
(スケートボード20台、BMX 5台、バスケットボール10個、補修用備品)
- ・バスケットゴール（移動式1台）の保管場所とする。
- ・管理棟には開場～閉場までスタッフ2人常駐することを想定する。

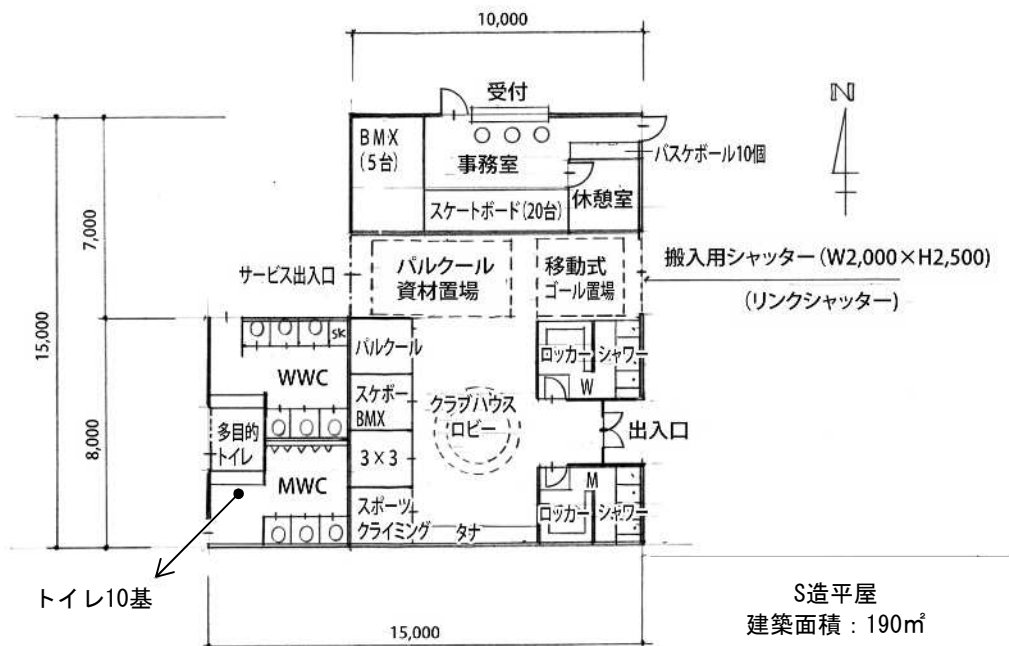


図 管理棟平面図

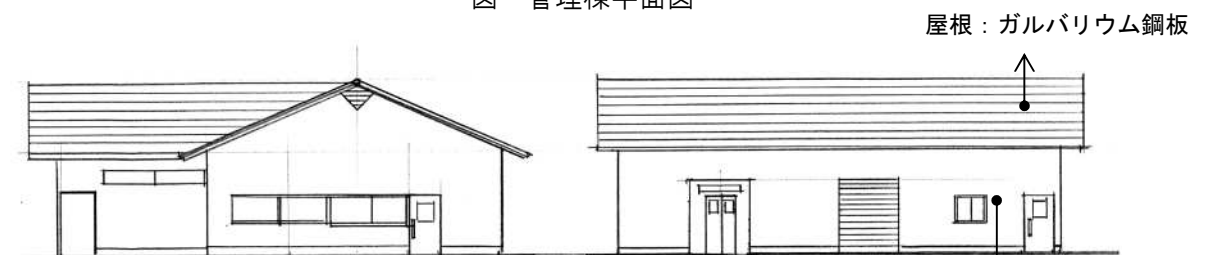


図 北側立面図

図 西側立面図

外装: 金属系サイディング (Exterior: Metal-based siding)



図 断面図



## (2) 多目的広場 イベントドーム

- ・雨、直射日光から防ぐ屋根付ドームを設置する。
- ・遮光性、耐久性、デザイン性に優れた膜材を使用する。
- ・ドームの下部にスポーツライミング、多目的広場を配置する。
- ・膜構造建築は、構造計算を建築基準法適格基準とする。
- ・床面は名護市の市章をデザインすることで、スポーツ公園のランドマークと位置づける。
- ・膜材、柱部に照明を取り付け、演出効果を高める。

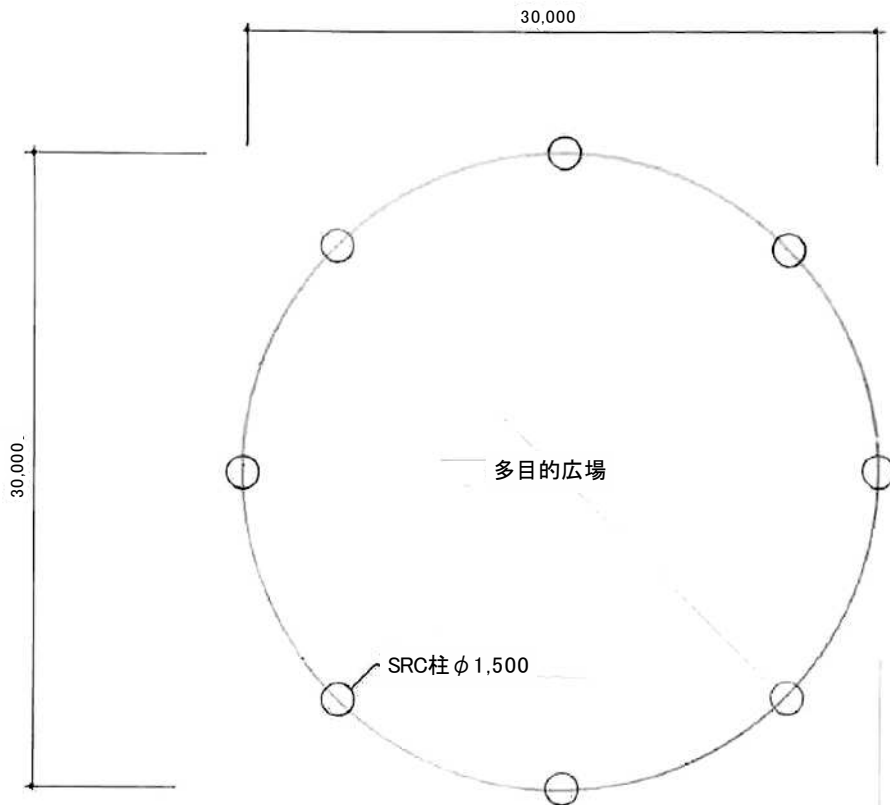
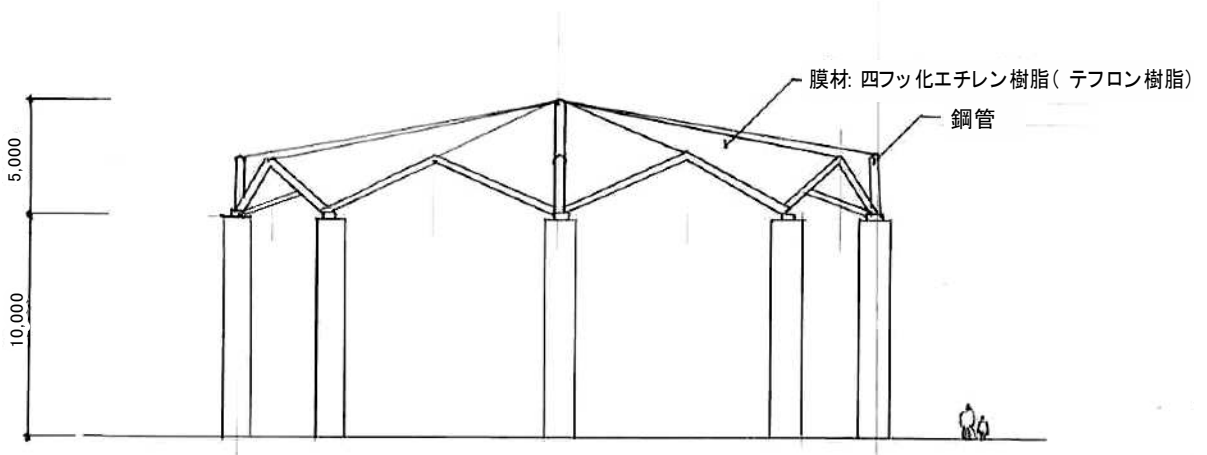


図 多目的広場平面図



イベントドーム立面図 S=1/300

## 第4章 事業化計画

### 4-1 概算事業費

候補地における概算事業費の計画諸元は下表に示とおりである。

表 計画諸元

管理棟 バックヤード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築構造 S造平屋</li> <li>・ 仕上材 外装：金属系サイディング 屋根：ガルバリウム鋼板</li> <li>・ 建築面積 190㎡</li> <li>・ 設備 トイレブース10基 搬入用シャッター2箇所 場内コントロール用分電盤</li> <li>・ 諸 室 事務室、休憩室、トイレ、パルクール資材置場、移動式 ゴール置場、各競技別修理庫、シャワー室、ロッカー室</li> </ul>
多目的広場 イベントドーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 膜構造 柱：SRC造 屋根：鋼管折構造</li> <li>・ 屋根膜材 テフロン樹脂加工（透光性）</li> <li>・ 建築面積 706.5㎡</li> </ul>
観覧席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観覧席構造 鉄筋コンクリート造打ち放し仕上げ</li> <li>・ シェルター 支柱、シェルター（W=3.0）</li> <li>・ 手 摺 通路側（H1,100）、観覧席上部（H1,100）</li> </ul>
多目的広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 舗装材 コンクリート舗装</li> <li>・ 3×3スポーツコート 165㎡ 非常設型</li> <li>・ 移動式バスケットゴール1基</li> </ul>
スポーツ クライミング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 舗装材 事故防止セーフティマット敷</li> <li>・ 鉄骨下地 FRPフラットパネル貼片面仕様 FRPボルダリングウォールw25m×H4m</li> <li>・ 下部マット敷 270㎡</li> </ul>
パルクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 舗装材 事故防止セーフティマット敷</li> <li>・ 鉄製フレーム 樹脂ノンスリップボード貼</li> <li>・ スチールパイプ、平均台、円型ゴムチップを配置する</li> </ul>
スケートボード BMX	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 舗装材 コンクリート舗装金コテ仕上げ 高低差900～1500のアール付コース ボルケーノ・コブ・バンクを配置する</li> </ul>
バスケットボール コート 3×3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 舗装材 ゴムチップ舗装（透水性） バスケットボールコートと3×3コートを兼用する ミニバスケットボール対応可としゴールコートをH2.6m へ可動式タイプとする</li> </ul>



計画諸元をもとに概算工事費を約13億円と算出した。内訳は以下に示すとおりである。

表 概算事業費

工 種	種 別	数量	単 位	単価 (円)	金額(千円)	摘 要
<b>1.舗装工</b>						
アスファルト舗装	透水性	950	m <sup>2</sup>	10,000	9,500	メーカー ヒアリング
コンクリート舗装	スケートボードBMX外周 多目的広場	1,600	m <sup>2</sup>	12,000	19,200	〃
ゴムチップ圧縮舗装	パルクール バスケットボールコート	1,500	m <sup>2</sup>	33,000	49,500	〃
<b>2.施設工</b>						
管理棟・バックヤード	S造・平家建	190	m <sup>2</sup>	550,000	104,500	他事例
多目的広場 (屋根付広場)	SRC造・鋼管	700	m <sup>2</sup>	400,000	280,000	メーカー ヒアリング
観覧席(上部シェルター付)	鉄筋 コンクリート造	890	m <sup>2</sup>	150,000	133,500	
スケートボード場 BMX場	コンクリート 金コテ仕上	1,400	m <sup>2</sup>	71,000	99,400	〃
バスケットボール場 (線引きゴールコート)	常設型 (高さ調節)	2	基	950,000	1,900	〃
バスケットボール場 (3×3用)	移動式	1	基	1,200,000	1,200	〃
バスケットスポーツ コート (3×3イベント用)	非常設型	165	m <sup>2</sup>	20,000	3,300	〃
パルクール	鉄骨構造・ ステンレスポール、 ノンスリップボード	1	式	85,000,000	85,000	〃 (基礎工事別途)
スポーツ クライミング	2基W7mH4m・ W13mH4m 鉄骨下地、FRPボード貼	1	式	87,800,000	87,800	〃 (基礎工事別途)
<b>3.設備工(現場の状況に応じて変更となる)</b>						
<b>4.直接工事費</b>				合計	874,800	
<b>5.経費</b>					349,900	直工×0.4
<b>6.工事価格</b>					1,224,700	
<b>7.消費税(10%)</b>					122,470	
<b>8.本工事</b>				合計	1,347,170	

## 4-2 事業手法の検討

### (1) 事業手法の比較

本施設の整備及び管理運営手法を検討する上で留意すべき点を以下に整理する。

- アーバンスポーツは、公共施設としての設計基準や標準図等が未整備な種目が多く、設計及び施工に関する知見は公共側より民間側が有している（民間側でも限られている）
- アーバンスポーツは、危険と隣り合わせの種目も多く、運営時の利用対象者やレベル（初級・中級・上級）を踏まえ、整備内容を定める必要性が高い
- 本施設に期待される市民への普及とスポーツコンベンションの促進に向け、複数種目を網羅する競技関係者や事業者が運営体制に関わることが望まれる
- 全国の類似施設では、施設の整備・管理運営に際し、民設民営から公設公営まで様々な事例がある中で、施設運営者または競技の専門家の意向が設計段階から反映されている事例がみられる
- 本市では、行財政課題の解決方法や新たな価値の創出に向けた公民連携を推進している

以上を踏まえ、本施設の整備及び管理運営にあたっては、公民連携のもとで、設計段階から将来の施設運営を見据えて取り組む必要がある。

事業手法は、事業主体や予算確保等の調整状況を踏まえ今後詰めていく必要があるが、本施設の整備及び管理運営に関する公民連携の基本的なモデルを以下に整理する。

表 公民連携の基本モデル

	<span style="float: left;">民設民営</span> <span style="float: right;">公設公営</span>			
整備 管理運営	民 民	民+公 民	公 民+公	公 公
モデル イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設運営ノウハウを有するスポーツショップ等が自社の事業として整備・運営をする。</li> <li>・近隣店舗への出店と合わせパーク運営を行うことが考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間が補助金等を活用して施設を整備する。</li> <li>・施設運営ノウハウを有するスポーツショップ等が自社の事業として運営をする。</li> <li>・近隣店舗への出店と合わせパーク運営を行うことが考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が補助金等を活用して施設を整備する。</li> <li>・選定した指定管理者が運営を行う。</li> <li>・大規模修繕は市で実施する。</li> <li>・設計段階から、将来の施設管理予定者の意向を反映。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が補助金等を活用して施設を整備する。</li> <li>・市が管理を行い、運営等を業務委託にて実施する。</li> <li>・設計段階で、競技関係者の監修を受ける</li> </ul>
参考事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H.L.N.Aスケートパーク ⇒お台場ダイバーシティ東京プラザ（屋上）に出店。</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>【指定管理料ナシ】</li> <li>・ムラサキパークかさま</li> <li>・境町アーバンスポーツパーク</li> <li>・スポーツパークまつばら</li> <li>【指定管理料アリ】</li> <li>・宮下公園</li> <li>・新横浜公園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村上スケートパーク ⇒村上市の直営</li> <li>・火打形公園スケートボードパーク ⇒民間団体に運営管理を委託</li> </ul>

## (2) 事業財源の検討

施設整備の財源は、国等からの補助金のほか、企業版ふるさと納税やネーミングライツといった民間資金を財源としている事例もみられるため、今後、検討を深める必要がある。

以下に、財源として想定される主な補助金や制度を挙げる。

表 財源として想定される主な補助金や制度

区分	名称	概要
補助金・交付金・助成金	沖縄北部連携促進特別振興事業費	県土の均衡ある発展を図る観点から、北部地域の自立的発展を図るため、北部地域の連携を促進しつつ、産業の振興や定住条件の整備に資する事業を実施（内閣府：8/10）
	沖縄振興特別推進交付金（ソフト交付金）	沖縄の実情に即してよりの確かつ効果的に施策を展開するため、沖縄振興に資する事業を県が自主的な選択に基づいて実施できる一括交付金（内閣府：8/10）
	沖縄振興特定事業推進費	沖縄の直面する課題に対してソフト交付金を補完し、迅速、柔軟に対応するための市町村等（市町村と密接に連携する民間事業者を含む）が実施する事業に要する経費の一部を補助（内閣府：8/10）
	特定防衛施設周辺整備調整交付金	防衛施設の設置又は運用がその周辺地域の生活環境又は開発に及ぼす影響の程度を考慮し、特定防衛施設関連市町村に対し、政令で定める公共用の施設の整備を行うための交付金
	スポーツ振興くじ助成	スポーツくじの販売により得られる収益をもとに、地方公共団体及びスポーツ団体が行う、スポーツ施設整備や活動等スポーツの振興を目的とする事業に対して行われる助成（（独）日本スポーツ振興センター（JSC））
民間資金	企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）	企業が地域再生法の認定地方公共団体が実施する「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」に対して寄附を行った場合に、税制上の優遇措置を受けられる仕組み（企業は最大で寄附額の約9割が軽減：令和6年度までの特例措置）
	ネーミングライツ（命名権）	命名権購入者（ネーミングライツパートナー）は、市の保有する施設の名称に、企業名、商品名などを冠した愛称を付与し、施設の名称として使用する代わりに、市に対してその対価（命名権料）を支払う。

### 【事例】ムラサキパークかさま

笠間市は「笠間芸術の森公園スケートパーク」のネーミングライツについて、令和3年4月1日から10年間にわたり、当スケートパークの指定管理者として決定している㈱ムラサキスポーツと契約（年額100万円）。



㈱ムラサキスポーツ 金山専務（左） 山口市長（右）  
出典：笠間市HP 2021年3月3日  
(<https://www.city.kasama.lg.jp/page/page012185.html>)

### 【事例】境町ホッケーフィールド クラブハウス

全国初となる㈱一条工務店からの企業版ふるさと納税の寄付を活用し、ホッケーフィールドのクラブハウス※を約1.4億円で整備。

※災害時には当施設を被災地に迅速に移設し、応急仮設住宅等として活用が可能

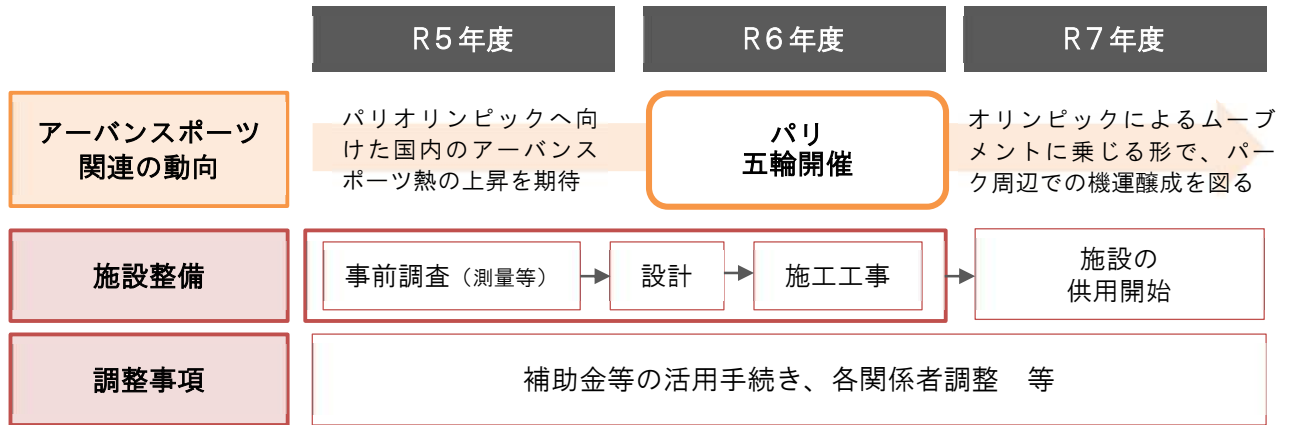


境町ホッケーフィールド クラブハウス外観  
出典：境町HP  
(<https://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp/page/page002848.html>)

### 4-3 事業化スケジュール

アーバンスポーツパークの供用開始を令和7年度に設定し、事前調査、設計、施工工事を行うことを想定した従来の事業スケジュール（案）は以下に示すとおりである。

パリ五輪が開催される令和6年度中に設計、施工着手し、令和7年度に供用開始を目指すことにより、五輪によるアーバンスポーツに関する機運の醸成を促進させることが可能と考えられる。



## 第5章 管理運営及び事業効果等の検討

### 5-1 管理運営計画

本施設の管理運営においては、スポーツ施設として指定管理者制度の導入を想定した検討を行う。

他都市の事例では、利用料金制の導入やスクール経営等の自主事業により収益性を高め、財政負担の軽減に寄与している事例もあることから、本検討においてもこの2つを収入の柱とした試算を行う。

#### (1) 管理運営体制

本施設の管理運営体制では、①複数種目で構成されている（他のパークではスケートボード中心が多い）、②競技のルールやマナーから周知が必要、③危険と隣り合わせの種目が多く安全管理上の配慮が必要、を等踏まえ、各種目に精通した競技者等が常駐する運営に携わることが望まれる。

現在、各種目それぞれで設置した競技団体が中心となり、普及や発展に関する活動が行われているが、「アーバンスポーツ」の旗印のもとで横連携した組織化の動きが全国的にも県内でもみられることから、そのような組織が本施設の運営に携わることが望まれる。

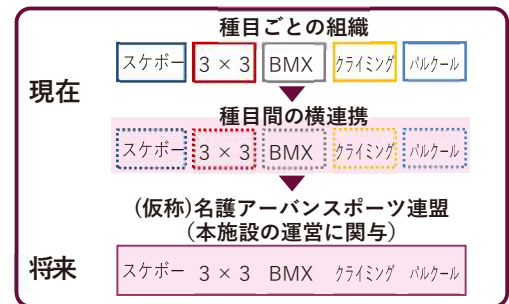


図 各種目が横連携したアーバンスポーツ組織のイメージ

#### (2) 事業収支の考え方

沖縄県内のアーバンスポーツアスリートや各種目先進事例の事業者へのヒアリングを踏まえ、パークの収益性向上に資する自主事業について協議・調整し、以下のフローに則り事業収支モデルを検討する。

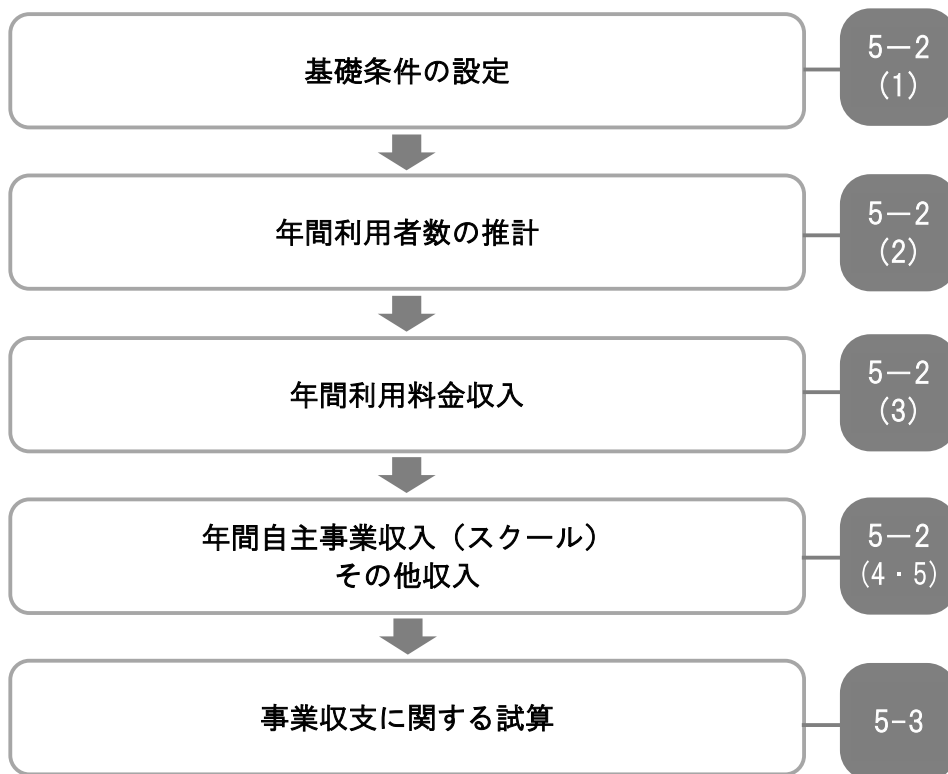


図 事業収支モデルの検討フロー

## 5-2 管理・運営者の収支に関する事項の検討

事業収支は、指定管理者制度の導入を想定とした試算とする。本試算は、指定管理者の事業収入の柱として想定される施設稼働率による施設利用料と自主事業（スクール開催）を変数として次の3ケース「悲観値（小）」「中間値（中）」「楽観値（大）」を設定し、事業収支の見通しを明らかとする。

### (1) 基礎条件の設定

#### 1) 開園時間及び営業日

開園時間及び営業日を以下のとおり設定した。なお、祝日は年単位で変動するため、本検討においては考慮しないものとする。

表 開園時間及び営業時間

項目		備考	
開園時間	9:00-21:00	—	
営業日	定休日	30日	・ 第2火曜日及び第4火曜日 ・ 12/29～1/3
	休日	96日	祝日は年単位で変動するため考慮しない
	平日	239日	365日－（定休日+土日）

#### 2) 利用料金

##### ① 日常利用

市内スポーツ施設（21世紀の森体育館の入場料+競技利用料金）の料金設定を基に、17:00より前は照明設備なしで施設利用することを想定して「150円/2時間」、17:00以降は照明設備ありで施設利用することを想定して「300円/2時間」と設定する（平日・土日祝日及び、大人・子供料金は考慮しない）。

##### ② 大会・イベント

本施設における大会・イベント開催時の会場代は考慮しない（減免を想定）。

#### 3) 各種目エリアの利用定員

各種目に対し、それぞれ安全に利用可能な定員を設定する。

表 各種目エリアの利用定員

種目	定員	定員設定の想定
スケートボード・BMX	50人	パークの規模
3×3	15人	1コート6人（×2コート）+ミニバスケット3人
パルクール	20人	各エリア5人（×4エリア）
スポーツクライミング	5人	各壁面に1人ずつ（×5面）

#### 4) 観客席の利用定員

観覧席の定員は、観覧席の延長（3列分）と1人あたり客席幅から「1,200人」と想定する。

表 観覧席の利用定員

観覧席延長（3列）	約600 m
観覧席延長（1列）	約200 m
1人あたり専有面積	0.5 m/人
最大観覧者数	1,200 人

#### 5) 施設稼働率

施設稼働率は、平日・休日及び開園から2時間毎に「小」「中」「大」で設定する。なお、稼働率のピークについて、平日は学校あるいは会社からの帰宅時間を考慮して「15:00～21:00」、休日は午後の日が高い「13:00～15:00」を中心とした「11:00～17:00」と想定する。

表 施設稼働率の考え方

稼働率	考え方
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日9:00～15:00は、学生や社会人の利用が少ないと想定（不定休の社会人、高齢者等の利用を想定）。</li> <li>平日15:00以降は、学校・仕事を終えた学生・社会人により一定程度の混雑を想定。</li> <li>休日は、13:00～15:00をピークに平日より利用者が多くなると想定</li> </ul>
小	・基本的な利用者数より少ない（悲観的な）設定
中	・本施設において想定される基本的な利用者数
大	・基本的な利用者数より多い（楽観的な）設定

表 施設稼働率

稼働率（大）	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00
平日	10%	15%	15%	30%	30%	30%
休日	15%	40%	60%	50%	30%	15%

稼働率（中）	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00
平日	5%	10%	10%	20%	20%	20%
休日	10%	30%	50%	40%	20%	10%

稼働率（小）	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00
平日	5%	5%	5%	10%	10%	10%
休日	5%	20%	40%	30%	10%	5%

## (2) 年間利用者数の推計

### 1) 日常利用

日常利用時の年間利用者数は、稼働率の設定ごとに「小：約2.2万人」「中：約3.6万人」「大：約5.2万人」と推計される。

表 施設利用稼働率ごとの利用者数（種目ごと）

#### 【稼働率（小）】

平日		9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00	合計/日	合計/年
245 日/年	スケートボー	3人	3人	3人	5人	5人	5人	23人	5,635人
	3×3	1人	1人	1人	2人	2人	2人	7人	1,715人
	パルクール	1人	1人	1人	2人	2人	2人	9人	2,205人
	スポーツクラ	0人	0人	0人	1人	1人	1人	2人	490人
	小計/日	5人	5人	5人	9人	9人	9人	41人	10,045人
休日		9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00	合計/日	合計/年
120 日/年	スケートボー	3人	10人	20人	15人	5人	3人	55人	6,600人
	3×3	1人	3人	6人	5人	2人	1人	17人	1,980人
	パルクール	1人	4人	8人	6人	2人	1人	22人	2,640人
	スポーツクラ	0人	1人	2人	2人	1人	0人	6人	660人
	小計/日	5人	18人	36人	27人	9人	5人	99人	11,880人
合計/年（平日・休日）									21,925人

↓  
約22,000人

#### 【稼働率（中）】

平日		9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00	合計/日	合計/年
245 日/年	スケートボー	3人	5人	5人	10人	10人	10人	43人	10,535人
	3×3	1人	2人	2人	3人	3人	3人	13人	3,185人
	パルクール	1人	2人	2人	4人	4人	4人	17人	4,165人
	スポーツクラ	0人	1人	1人	1人	1人	1人	4人	980人
	合計	5人	9人	9人	18人	18人	18人	77人	18,865人
休日		9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00	合計/日	合計/年
120 日/年	スケートボー	5人	15人	25人	20人	10人	5人	80人	9,600人
	3×3	2人	5人	8人	6人	3人	2人	24人	2,880人
	パルクール	2人	6人	10人	8人	4人	2人	32人	3,840人
	スポーツクラ	1人	2人	3人	2人	1人	1人	8人	960人
	合計	9人	27人	45人	36人	18人	9人	144人	17,280人
合計/年（平日・休日）									36,145人

↓  
約36,000人

#### 【稼働率（大）】

平日		9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00	合計/日	合計/年
245 日/年	スケートボー	5人	8人	8人	15人	15人	15人	65人	15,925人
	3×3	2人	2人	2人	5人	5人	5人	20人	4,900人
	パルクール	2人	3人	3人	6人	6人	6人	26人	6,370人
	スポーツクラ	1人	1人	1人	2人	2人	2人	7人	1,715人
	合計	9人	14人	14人	27人	27人	27人	118人	28,910人
休日		9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00	合計/日	合計/年
120 日/年	スケートボー	8人	20人	30人	25人	15人	8人	105人	12,600人
	3×3	2人	6人	9人	8人	5人	2人	32人	3,840人
	パルクール	3人	8人	12人	10人	6人	3人	42人	5,040人
	スポーツクラ	1人	2人	3人	3人	2人	1人	11人	1,320人
	合計	14人	36人	54人	45人	27人	14人	190人	22,800人
合計/年（平日・休日）									51,710人

↓  
約52,000人



## 2) 大会・イベント

各種目の主な大会を踏まえ、本施設における各種目における大会・イベント数を「5件/年」（日本大会レベルを2件/年、予選及び地区大会を2件/年、その他イベントを1件/年）と設定する。

各大会・イベントの平均出場者を「10人」、平均観覧客（出場者の同伴者や関係者を含む）を「100人」と仮定すると、大会・イベント時の年間利用者数は「2,750人」と推計される。

表 各種目の主な大会

スケボーパーク	開催頻度
X Games	年1回
CHIMERA GAMES（キメラ） ※予選大会もあり	年2回
FISE WORLD SERIES（フィセ）	年1回
A J S A（本選）	年1回
A J S A（各地区予選）	年4～5回
UPRISING TOKYO	年1回
マイナビスケートボード日本 OPEN	年1回
Red Bull Mind the Gap	年2回

BMX	開催頻度
X Games（夏、冬）	年2回
全日本選手権自転車競技大会	年1回
JBMXF	年5回
FISE WORLD SERIES（フィセ）	年1回

パルクール	開催頻度
FINAL MISSHON（2022年に初開催）	年1回
ONE FLOW BATTLE	年1回
国際的なカルチャー大会	—
キッズ・初心者向けのイベント・大会	—
地元プロアスリートによるパフォーマンスイベント	—

ボルダリング	開催頻度
SPORT CLIMBING JAPAN TOUR	年1回
沖縄県国民体育大会（国体）予選会	各地
THE NORTH FACE CUP（本選）	年1回
THE NORTH FACE CUP（予選会）	各地

3×3	開催頻度
日本選手権（本選） ※U18部門もあり	年1回
日本選手権（県予選） ※U18部門もあり	年1回
Japan Tour（CHAKKENG/OPEN/EXTREME） ※2期+決勝	—
3x3.EXE PREMIER（予選・決勝）	—

表 年間利用者数（大会・イベント）

	年間大会・イベント数	1件あたり人数	年間人数
出場者	25件（5件×5種目）	10人	250人
観覧客		100人	2,500人
合計		110人	2,750人

### (3) 年間利用料金収入

#### 1) 日常利用

上で設定した利用料金と年間利用者数（定員×稼働率（小・中・大））より、年間の施設利用料収入は下表のとおり「小：約4,258千円/年」「中：約7,238千円/年」「大：約10,574千円/年」となる。

表 施設利用料金（日常利用）

##### 【稼働率（小）】

平日	照明なし利用（150円）				照明あり利用（300円）		合計/日	合計/年
	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00		
245 日/年	利用人数	5人	5人	5人	9人	9人	41人	10,000人
		23人				18人		
	利用料金	3,450円				5,400円		8,850円
休日	照明なし利用（150円）				照明あり利用（300円）		合計/日	合計/年
	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00		
120 日/年	利用人数	5人	18人	36人	27人	9人	99人	12,000人
		86人				14人		
	利用料金	12,900円				4,200円		17,100円
年間利用料金								4,258千円

##### 【稼働率（中）】

平日	照明なし利用（150円）				照明あり利用（300円）		合計/日	合計/年
	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00		
245 日/年	利用人数	5人	9人	9人	18人	18人	77人	19,000人
		41人				36人		
	利用料金	6,150円				10,800円		16,950円
休日	照明なし利用（150円）				照明あり利用（300円）		合計/日	合計/年
	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00		
120 日/年	利用人数	9人	27人	45人	36人	18人	144人	17,000人
		117人				27人		
	利用料金	17,550円				8,100円		25,650円
年間利用料金								7,238千円

##### 【稼働率（大）】

平日	照明なし利用（150円）				照明あり利用（300円）		合計/日	合計/年
	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00		
245 日/年	利用人数	9人	14人	14人	27人	27人	117人	29,000人
		63人				54人		
	利用料金	9,450円				16,200円		25,650円
休日	照明なし利用（150円）				照明あり利用（300円）		合計/日	合計/年
	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	17:00-19:00	19:00-21:00		
120 日/年	利用人数	14人	36人	54人	45人	27人	189人	23,000人
		149人				41人		
	利用料金	22,350円				12,300円		34,650円
年間利用料金								10,574千円

#### 2) 大会・イベント

大会・イベント開催時の会場代は考慮しない（減免を想定）ため、年間利用料金は発生しない。

#### (4) 年間自主事業収入（スクール）

##### 1) スクール料金・参加者数

スクール料金は、スポーツショップが実施するスクールを参考に、レンタル料金を含めて「2,000円/回」に設定する。また、定員上限は「7名」とする。

##### 2) スクール開催頻度

スクール開催頻度は、既に市内で教室等の活動がされているスケートボードと3×3については開催頻度を高めに考え、下表のように設定する。

表 スクール開催頻度

開催頻度	スクール開催回数（月あたり）					年間開催回数
	スケートボード	3×3	BMX	スポーツクライミング	パルクール	
小	1回/月	1回/月	1回/月	1回/月	1回/月	約60回
中	4回/月 (週1回)	2回/月 (隔週)	1回/月	1回/月	1回/月	約110回
大	8回/月 (週2回)	4回/月 (週1回)	2回/月 (隔週)	2回/月 (隔週)	2回/月 (隔週)	約220回

##### 3) 年間自主事業収入（スクール）

「スクール料金・参加者」、「スクール開催頻度」より、スクール開催回数ごとの年間参加人数及び年間スクール料金を算出した。結果は下表のとおり。

表 スクール開催頻度

		年間参加人数	年間スクール料金
		7人/回	2千円/人
開催回数	(小)	60回/年	420人
	(中)	110回/年	770人
	(大)	220回/年	1,540人
			840千円
			1,540千円
			3,080千円

---

## (5) その他収入

### 1) 飲食・物販・貸ロッカー

事業者の自主事業として飲食（自販機、軽食）事業、物販事業、貸ロッカー事業を実施するものとし、それぞれ単価及び来場者の利用率は下記のように設定する。

なお、利用者数は個人利用（日常利用）者数及びスクール参加者、大会・イベント時の観覧客数を合わせた人数とする。

表 自主事業の単価及び利用率

事業	単価	利用者の利用率 <sup>※</sup>
飲食（自販機、軽食）	1 千円/人	20%
物販	4 千円/人	3%
貸ロッカー	0.3 千円/人	5%

※「アーバンスポーツ施設の事業化計画資料集（総合ユニコム株発行）」参照

### 2) ネーミングライツ

「4-2（2）事業財源の検討」において、提案したネーミングライツについて、国内事例（ムラサキパークかさま）をもとに「1,000千円/年」と設定する。

### 5-3 管理運営者の事業収支に関する試算結果

「5-2 管理運営者の収支に関する事項の検討」により得られた事業収入及び事業支出をもとに、事業収支について整理する。固定値となる支出やその他収入（利用者による経済効果）は、「アーバンスポーツ施設の事業化計画資料集（総合ユニコム株式会社）」におけるモデルケース及び他アーバンスポーツパーク事例における実績値を用いて設定する。なお、本施設従業員がスクール講師を請け負うものとし、スクール講師料は人件費に含めることとする。

検討結果は、利用者数が最大（52,000人/年）の設定かつスクール回数が一定以上の場合のみ、事業収支がプラスに転じる可能性があるが、それ以外のケースでは事業収支はマイナスの見通しとなり、指定管理料等の財政措置が必要になる可能性が高いことが分かった。

利用者数が最大（52,000人/年）の場合の各収支シミュレーションの詳細を以下に示す。

表 事業収支比較結果一覧

		スクール開催頻度		
		小（60回）	中（110回）	大（220回）
利用者数	小（22,000人）	① × -7,358千円	② × -6,676千円	③ × -5,175千円
	中（36,000人）	④ × -4,005千円	⑤ × -3,322千円	⑥ × -1,821千円
	大（52,000人）	⑦ × -238千円	⑧ ○ 444千円	⑨ ○ 1,946千円

【利用者数（52,000人）×スクール開催頻度年間60回】

項目	金額	数量	単価	数量・単価の根拠
<b>営業収入</b>	<b>30,896千円</b>			
施設利用料金	10,574千円			
個人利用（日常利用）	10,574千円	52,000人		照明なし(9:00~17:00)、照明あり(17:00~21:00)で料金区分
スクール料金	840千円	60回/年	14千円/回	
<b>事業者自主事業</b>	<b>18,482千円</b>			
飲食（自販機、軽食）	11,034千円	55,170人	1千円/人	来場者の利用率 20%
物販	6,620千円	55,170人	4千円/人	来場者の利用率 3%
貸ロッカー	828千円	55,170人	0.3千円/人	来場者の利用率 5%
ネーミングライツ	1,000千円		1000千円/年	
<b>営業支出</b>	<b>31,135千円</b>			
仕入原価	15,710千円			事業者自主事業の 85%
販売管理費	15,425千円			
人件費	10,948千円	3人		正社員1人（5,500千円/年）、パート・アルバイト2人
福利厚生費	1,045千円			正社員給与との 19%
<b>維持管理費</b>	<b>3,432千円</b>			
地代	-千円			
水道光熱費	1,743千円	6,700㎡	0.260千円/㎡・年	
wi-fi費	360千円	12月	5千円/台・月	管理棟1台、各種目1台ずつ 6台
保守修繕費	154千円			営業収入の 0.5%
広告宣伝費	309千円			営業収入の 1.0%
保険料	154千円			営業収入の 0.5%
消耗品	93千円			営業収入の 0.3%
その他費用	618千円			営業収入の 2.0%
<b>営業利益</b>	<b>-238千円</b>			

【利用者数（52,000人）× スクール開催頻度年間110回】

項目	金額	数量	単価	数量・単価の根拠	
<b>営業収入</b>	<b>31,714 千円</b>				
施設利用料金	10,574 千円				
個人利用（日常利用）	10,574 千円	52,000 人		照明なし(9:00~17:00)、照明あり(17:00~21:00)で料金区分	
スクール料金	1,540 千円	110 回/年	14 千円/回		
事業者自主事業	18,599 千円				
飲食（自販機、軽食）	11,104 千円	55,520 人	1 千円/人	来場者の利用率	20%
物販	6,662 千円	55,520 人	4 千円/人	来場者の利用率	3%
貸ロッカー	833 千円	55,520 人	0.3 千円/人	来場者の利用率	5%
ネーミングライツ	1,000 千円		1000 千円/年		
<b>営業支出</b>	<b>31,269 千円</b>				
仕入原価	15,809 千円			事業者自主事業の	85%
販売管理費	15,460 千円				
人件費	10,948 千円	3 人		正社員1人（5,500千円/年）、パート・アルバイト2人	
福利厚生費	1,045 千円			正社員給与との	
維持管理費	3,467 千円				
地代	－ 千円				
水道光熱費	1,743 千円	6,700 m <sup>2</sup>	0.260 千円/m <sup>2</sup> ・年		
wi-fi費	360 千円	12 月	5 千円/台・月	管理棟1台、各種目1台ずつ	6台
保守修繕費	159 千円			営業収入の	0.5%
広告宣伝費	317 千円			営業収入の	1.0%
保険料	159 千円			営業収入の	0.5%
消耗品	95 千円			営業収入の	0.3%
その他費用	634 千円			営業収入の	2.0%
<b>営業利益</b>	<b>444 千円</b>				

【利用者数（52,000人）× スクール開催頻度年間220回】

項目	金額	数量	単価	数量・単価の根拠	
<b>営業収入</b>	<b>33,512 千円</b>				
施設利用料金	10,574 千円				
個人利用（日常利用）	10,574 千円	52,000 人		照明なし(9:00~17:00)、照明あり(17:00~21:00)で料金区分	
スクール料金	3,080 千円	220 回/年	14 千円/回		
事業者自主事業	18,857 千円				
飲食（自販機、軽食）	11,258 千円	56,290 人	1 千円/人	来場者の利用率	20%
物販	6,755 千円	56,290 人	4 千円/人	来場者の利用率	3%
貸ロッカー	844 千円	56,290 人	0.3 千円/人	来場者の利用率	5%
ネーミングライツ	1,000 千円		1000 千円/年		
<b>営業支出</b>	<b>31,566 千円</b>				
仕入原価	16,029 千円			事業者自主事業の	85%
販売管理費	15,537 千円				
人件費	10,948 千円	3 人		正社員1人（5,500千円/年）、パート・アルバイト2人	
福利厚生費	1,045 千円			正社員給与との	
維持管理費	3,544 千円				
地代	－ 千円				
水道光熱費	1,743 千円	6,700 m <sup>2</sup>	0.260 千円/m <sup>2</sup> ・年		
wi-fi費	360 千円	12 月	5 千円/台・月	管理棟1台、各種目1台ずつ	6台
保守修繕費	168 千円			営業収入の	0.5%
広告宣伝費	335 千円			営業収入の	1.0%
保険料	168 千円			営業収入の	0.5%
消耗品	101 千円			営業収入の	0.3%
その他費用	670 千円			営業収入の	2.0%
<b>営業利益</b>	<b>1,946 千円</b>				

## 5-4 損益分岐点の見通し

自主事業（スクール）の開催回数ごとに、損益分岐点となる年間利用者数を検討した結果、年間利用者数（日常利用）を4万人～5万人確保できるかどうか、損益分岐点になることが予想される。

自主事業（スクール）の年間回数	損益分岐点となる年間利用者数
小（60回）	約 51,000 人
中（110回）	約 47,000 人
大（220回）	約 40,000 人

### (1) スクール開催頻度（小）：60回/年

表 利用者数事業収支マトリクス（スクール開催頻度（小））

（千円）

		利用者数					
		20,000	30,000	40,000	50,000	60,000	
スクール回数	60回	営業収入	14,236	19,475	24,993	30,372	35,750
		支出（固定）	14,096	14,096	14,096	14,096	14,096
		支出	21,306	24,379	27,464	30,543	33,621
		営業利益	-7,070	-4,904	-2,470	-171	2,129

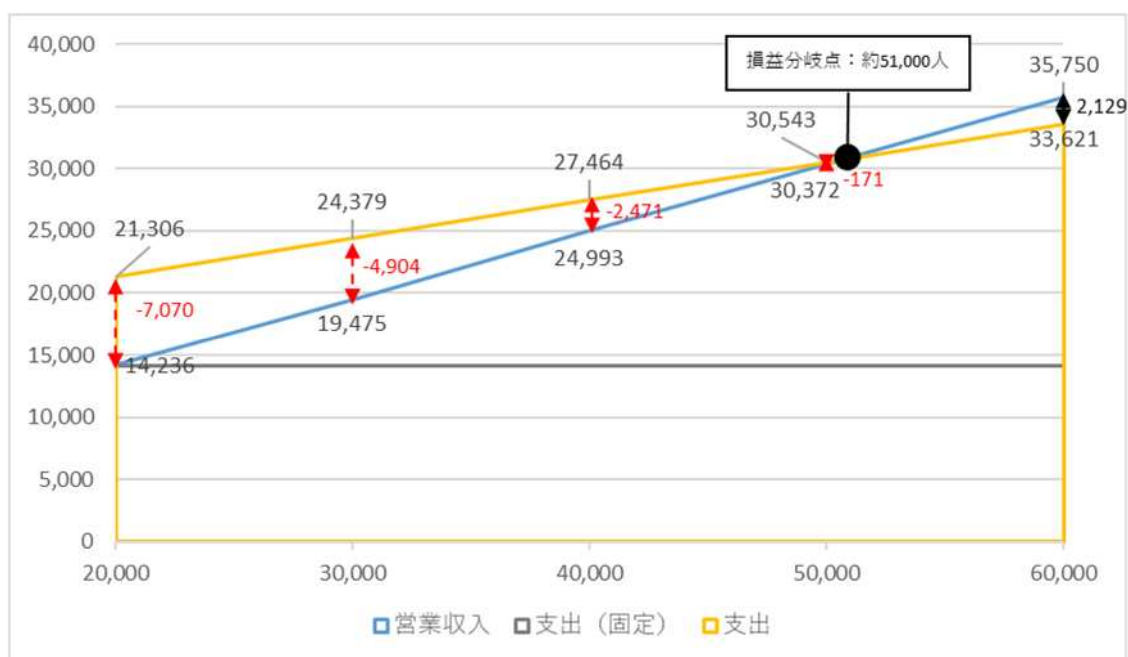


図 収益分岐点グラフ（スクール開催頻度（小））

(2) スクール開催頻度(中): 110回/年

表 利用者数事業収支マトリクス (スクール開催頻度(中))

(千円)

		利用者数				
		20,000	30,000	40,000	50,000	60,000
スクール回数 110回	営業収入	15,054	20,432	25,811	31,189	36,568
	支出(固定)	14,096	14,096	14,096	14,096	14,096
	支出	21,441	24,520	27,599	30,677	33,756
	営業利益	-6,387	-4,088	-1,788	512	2,811

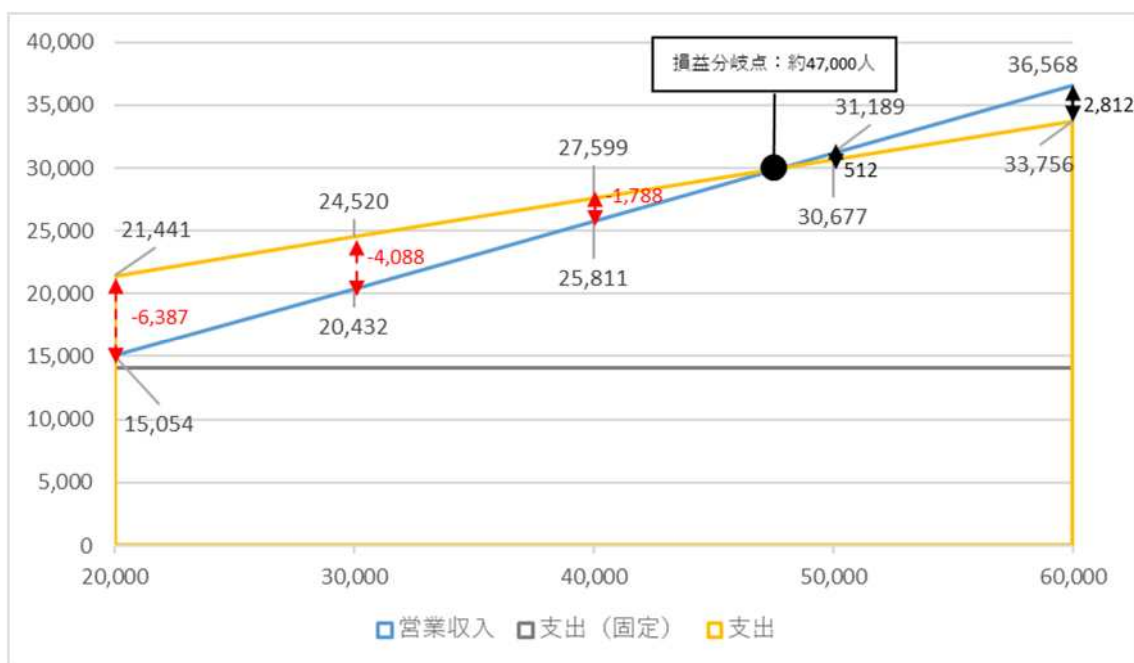


図 収益分岐点グラフ (スクール開催頻度(中))



(3) スクール開催頻度(大): 220回/年

表 利用者数事業収支マトリクス (スクール開催頻度(大))

(千円)

		利用者数				
		20,000	30,000	40,000	50,000	60,000
スクール回数 220回	営業収入	16,852	22,230	27,609	32,987	38,366
	支出(固定)	14,096	14,096	14,096	14,096	14,096
	支出	21,738	24,816	27,895	30,974	34,053
	営業利益	-4,886	-2,586	-287	2,013	4,313

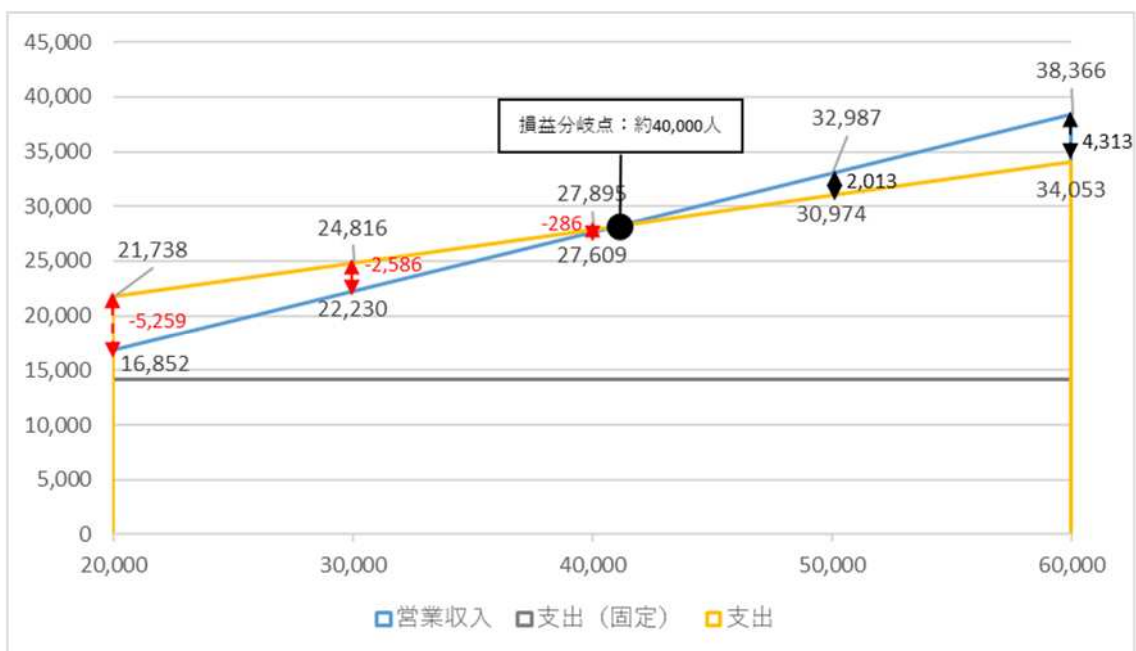


図 収益分岐点グラフ (スクール開催頻度(大))

## 第6章 事業効果の検討

### 6-1 観光客の増加に伴う経済波及効果

#### (1) 大会・イベント等の開催に伴う観光客数の設定

前段で整理した各種目の大会・イベント時の出場者及び観覧客について、県内及び県外からの割合を仮に「5：5」と設定すると、県外からの観光客数は下表のとおり「1,375人」となる。

表 年間観光客数の設定

	年間大会・イベント数	1件あたり人数	年間人数		県内	県外
出場者	25件 (5件×5種目)	10人	250人	⇒	125人	125人
観覧客		100人	2,500人		1,250人	1,250人
合計		110人	2,750人		1,375人	<b>1,375人</b>

#### (2) 観光客1人あたりの消費額の設定

本施設において実施される大会・イベント時の名護市の収入について、観光客（大会・イベント出場者及び観覧者）を対象としたスポーツツーリズムによる経済効果を算出する。

沖縄県における観光客1人あたりの観光客全体消費目は下表のとおり。

表 観光客1人あたりの全体消費目

費目	
1	宿泊費
2	県内交通費
3	土産・買物費
4	飲食費
5	娯楽・入場費
6	その他

出典：「令和3年度観光統計実態調査報告書（令和4年10月11日\_沖縄県文化観光スポーツ部）」図表2-14

#### (3) 観光客の増加に伴う経済波及効果の推計結果

##### 1) 大会・イベント出場者による経済効果

沖縄県における観光客1人あたりの観光客全体消費目のうち、大会・イベント出場者の滞在費用として宿泊費、県内交通費、飲食費、その他を見込むこととする。

表 観光客1人あたりの消費単価

費目		金額
1	宿泊費	32,754円
2	県内交通費	11,520円
3	飲食費	19,240円
4	その他	3,155円
合計		<b>66,669円</b>

出典：「令和3年度観光統計実態調査報告書（令和4年10月11日\_沖縄県文化観光スポーツ部）」図表2-14

また、沖縄県観光客の平均宿泊数は3.17泊であるため、1人1日あたりの消費単価は下記計算式により円と算出される。

$$\begin{aligned} (\text{観光客1人あたりの全体消費単価}) \div (\text{平均宿泊数}) &= 66,669\text{円} \div 3.17\text{泊} \\ &= 21,031\text{円} \\ &\approx 21,000\text{円} \end{aligned}$$

各大会・イベント出場者の滞在期間を「5日間」と仮設定する。なお、県外からの年間出場者数は「125人」であり、結果として、13,125千円の経済波及効果が期待される。

$$\begin{aligned} (1人1日あたりの消費単価) \times (\text{宿泊日数}) \times (\text{県外から年間出場者数}) \\ &= 21\text{千円} \times 5\text{日} \times 125\text{人} \\ &= 13,125\text{千円} \end{aligned}$$

## 2) 大会・イベント観覧客による経済効果

沖縄県における観光客1人あたりの観光客全体消費目のうち、大会・イベント観覧者の滞在費用として宿泊費、県内交通費、土産・買物費、飲食費、娯楽・入場費、その他を見込むこととする。

表 観光客1人あたりの消費単価

費目		金額
1	宿泊費	32,754円
2	県内交通費	11,520円
3	土産・買物費	15,595円
4	飲食費	19,240円
5	娯楽・入場費	9,291円
6	その他	3,155円
合計		91,555円

出典：「令和3年度観光統計実態調査報告書（令和4年10月11日\_沖縄県文化観光スポーツ部）」図表2-14

また、沖縄県観光客の平均宿泊数は3.17泊であるため、1人1日あたりの消費単価は下記計算式により31,500円と算出される。

$$\begin{aligned} (\text{観光客1人あたりの全体消費単価}) \div (\text{平均宿泊数}) &= 91,555\text{円} \div 3.17\text{泊} \\ &= 28,882\text{円} \\ &\approx 29,000\text{円} \end{aligned}$$

各大会・イベント観覧客の滞在期間を「3日間」と仮設定する。なお、県外からの年間観覧客数は「1,250人」であり、結果として、108,750千円の経済波及効果が期待される。

$$\begin{aligned} (1人1日あたりの消費単価) \times (\text{最大観覧者数}) \times (\text{県外からの年間観覧客数}) \\ &= 29\text{千円} \times 3\text{日} \times 1,250\text{人} \\ &= 108,750\text{千円} \end{aligned}$$

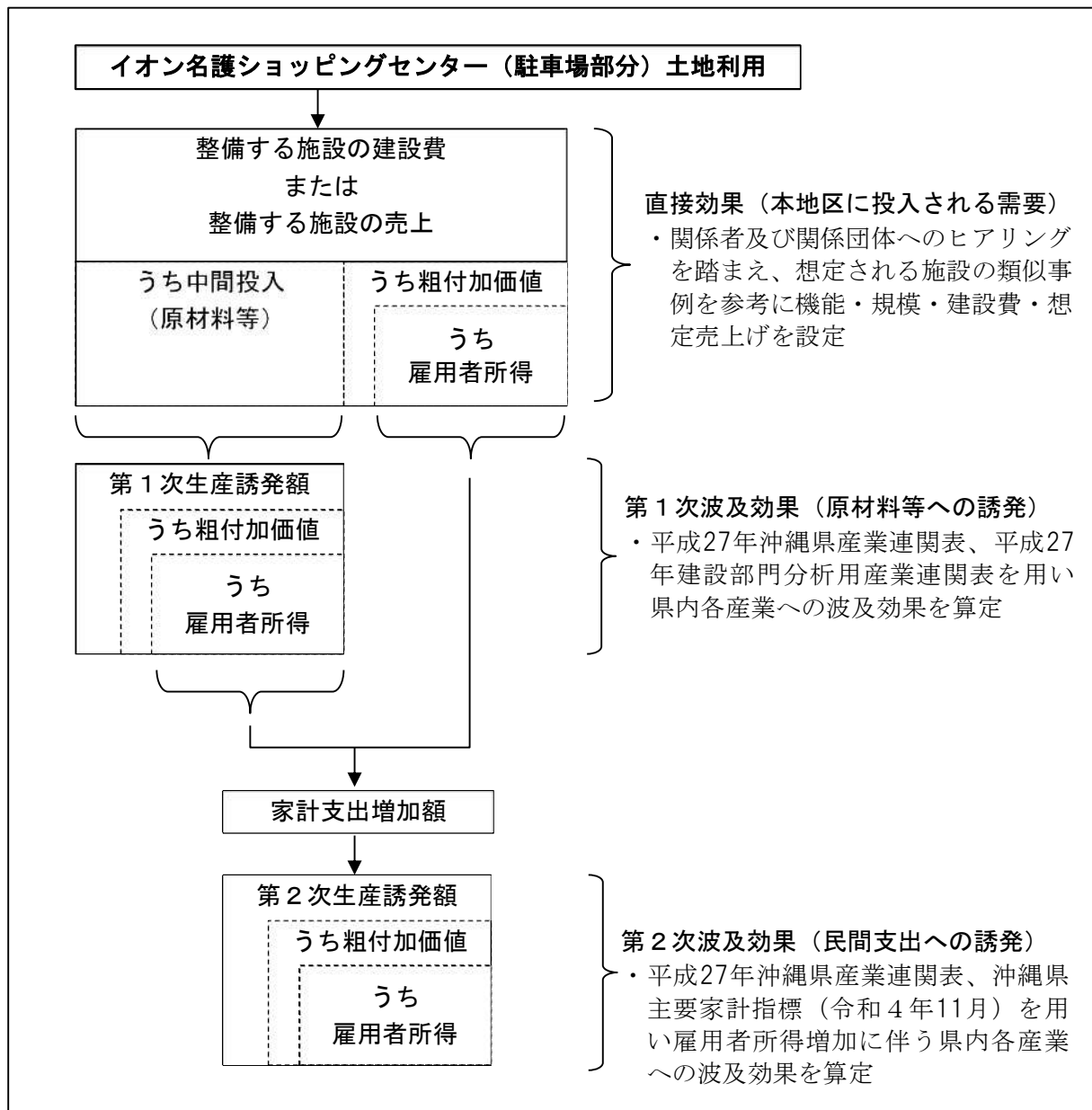
## 6-2 建設工事に伴う経済波及効果

イオン名護ショッピングセンター（駐車場部分）の土地利用を行った場合の効果を定量的に把握するため、経済波及効果の確認をおこなう。

### (1) 経済波及効果の概要

経済波及効果とは、候補地における新たな需要が生じたときに行われる生産について、需要が生じた産業だけでなく、取引を通じて関連する他の産業にも波及し、次々に生産を誘発する際の効果のことである。

今回の経済波及効果の算定では、平成27年沖縄県産業連関表を用い、建設工事に伴う経済波及効果及び消費活動に伴う経済波及効果を算定する。



## (2) 建設工事に伴う経済波及効果の推計結果

候補地における施設の計画諸元及び計画諸元をもとに算出した概算事業費費は前述（「4-1 概算事業費」参照）のとおりである。

候補地において1,347百万円の建設工事が発生する（直接効果がある）とした場合、これに伴う部品・原材料等への誘発（第1次波及効果）が552百万円、更に、第1次波及効果に伴う民間支出の誘発（第2次波及効果）が235百万円で、生産誘発額は合計2,104百万円と推計される。これは、直接効果の1,347百万円に対し、約1.56倍（波及倍率）に相当する。

沖縄県産業連関表雇用表を基に、生産誘発額を就業者1人あたり生産額で除して就業者誘発数を推計すると、最終的な就業者誘発数は485人となる。

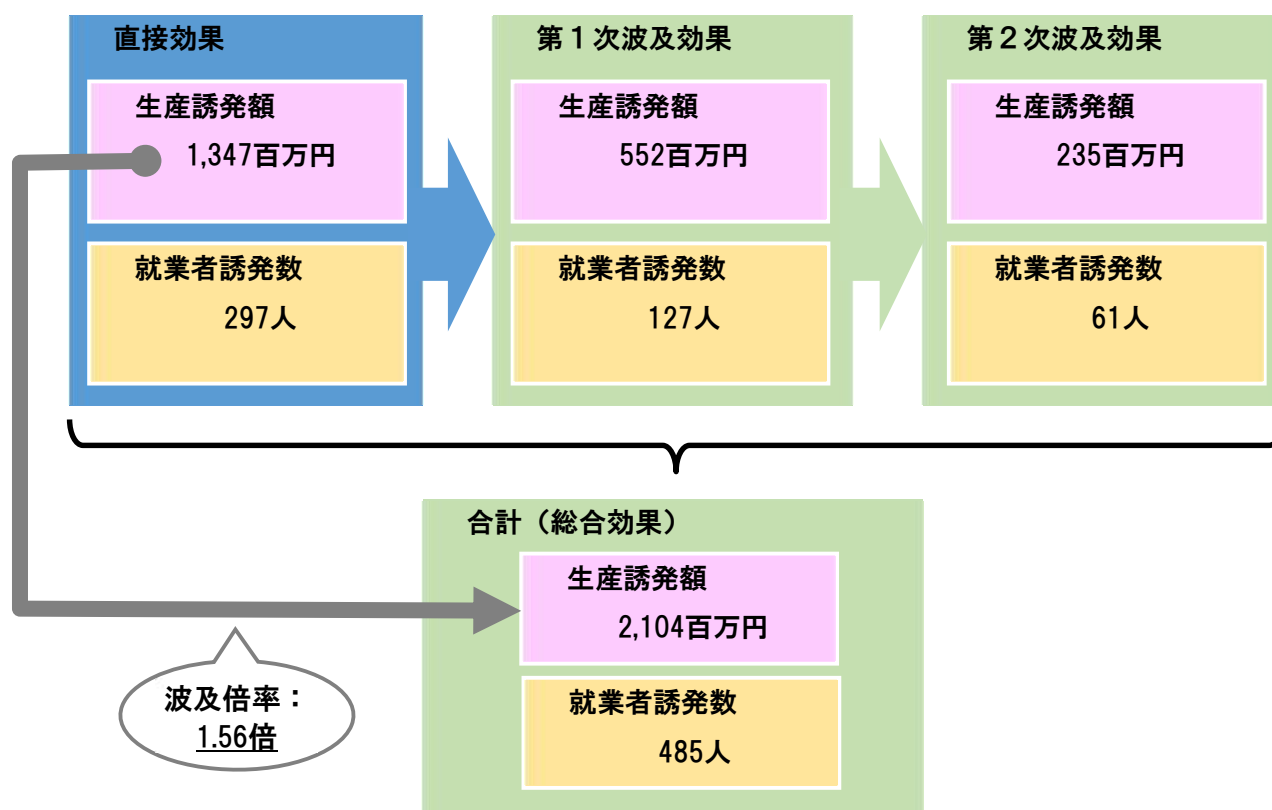


図 建設工事に伴う生産誘発額

## 第7章 会議の運営支援

### 7-1 庁内関係部署連絡会

名護市アーバンスポーツパーク基本計画策定業務に関する情報共有、助言、提案等を得ることを目的として、庁内関連部署連絡会を開催した。

#### (1) 開催概要

	第1回	第2回
開催日時・ 場所	2023年2月9日（木） 名護市民会館	2023年3月1日（水） 名護市民会館
連絡会構成	地域経済部部長（会長） 地域経済部参事 政策推進課長 観光課長 都市計画課技幹 維持課長	
テーマ	業務進捗状況の報告 今後の予定	

#### (2) 主な意見

##### 【第1回】

項目	主な意見
種目の選定	・市内ボルダリングジムについて、民業圧迫とならないよう意向を確認すること。
種目の選定	・種目の選定について、評価の高い以下の5種目に決定することとした。 ⇒スケートボード 3x3 BMX スポーツクライミング パルクール

##### 【第2回】

項目	主な意見
報告書の構成	・報告書の構成について、指摘。 ⇒修正対応をすとした。
適地の選定	・適地の選定について、イオン名護ショッピングセンターとして検討することについて了承を得た。

## 7-2 関係者・関連団体との意見交換会

採用した種目の関係者から各種目の留意事項等について、意見交換を実施した。

### (1) 開催概要

	意見交換会	
開催日時・ 場所	2023年2月24日（金） 名護市民会館（イオン名護ショッピングセンター、21世紀の森公園）	
出席者	スケートボード関係者 3x3関係者 パークール関係者 スポーツライミング（ボルダリング）関係者 BMX関係者  【事務局】 名護市役所地域経済部文化スポーツ振興課 主事 日本工営都市空間株式会社 熊谷、横山	
テーマ	各種目の留意事項について	
当日の様子	   	

### (2) 主な意見

項目	主な意見
BMX	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名護市ではBMXの人気が少ないため、イベント等で周知をしている。直近では「名護さくらまつり」や「オリオンまつり」でBMXのショーを実施した。</li> <li>・ストライダーに慣れ親しんでいる子供が、BMXに転向していくことが多いが名護市でのBMX人口が少ない理由として、BMXを販売している店舗の少なさが原因であると考えられる。BMXの販売店舗はあっても、修理ができないこともBMX人口が増加しない</li> </ul>

	<p>原因の一つであると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4～5年前と比較すると沖縄県中部エリアにおけるBMX人口は大きく増加したと感じる。</li> </ul>
<p>スポーツライミング (ボルダリング)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボルダリングジムの数について、他県の場合、県内に1～2店舗あることに比べ沖縄県は多い方である。しかし、沖縄県内のボルダリング人口が多いわけではない。</li> <li>・ 名護市は、娯楽施設が少ないためボルダリングの需要はあると思う。</li> <li>・ 現状のボルダリング人口を増やす施策は、SNSを通じたの拡散や、人伝いの口コミである。</li> <li>・ 子どもにもボルダリングに親しんでもらいたいが、安全性の観点から保護者の同伴無しでは行えないことが、なかなかボルダリング人口が増えない原因の一つである。</li> <li>・ 今回の事業において、<u>監視員を配置して子供のみでボルダリングを行えるようにするのか、保護者の同伴を必須とするのか検討しなければならない。</u></li> </ul>
<p>各種目の配置計画・敷地面積</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種目の配置計画と敷地面積について、会議開催時点の案で特に問題ないことを確認した。</li> </ul>





## 第8章 事例調査

### 8-1 県内施設の事例調査

#### (1) 調査目的

沖縄県内で先行して開設されたアーバンスポーツパークの事例を視察し、施設の利用実態や必要な設備、運営上の課題等を把握し、基本計画の参考とすることを目的に実施した。

#### (2) 対象施設

実施した施設は以下のとおりである。

表 調査対象

	施設名称	競技種目
1	宜野湾市 いこいの市民パーク	スケートボード
2	奥武山公園・沖縄県立武道館 クライミング	クライミング
3	南風原町スケートパーク（花・水・緑の大回廊公園）	スケートボード

### 8-2 県外施設の事例調査

#### (1) 調査目的

沖縄県外で先行して開設されたアーバンスポーツパークの事例を視察し、県内施設との違いや施設の利用実態、必要な設備、運営上の課題等を把握し、基本計画の参考とすることを目的に実施した。

#### (2) 対象施設

実施した施設は以下のとおりである。


表 調査対象

	施設名称	競技種目
1	宮下公園	スケートボード、クライミング
2	H.L.N.Aスケートボードパーク	スケートボード
3	ムラサキパークかさま	スケートボード
4	境町アーバンスポーツパーク	スケートボード
5	MISSION PARKOUR PARK TOKYO	パルクール


## 参考資料

### 1. 各種目の概要・動向

#### ○スケートボード

成り立ち	1940年代のカリフォルニアで木の板に鉄製の戸車を付けて滑った遊びが始まりとされている。50年代に入りローラダービー社から「ローラサーフィン」という木製チップとゴム製のホイールが付いたオモチャが売り出され、これが現在のスケートボードの原型と言われる。
競技概要	街にあるような階段、手すり、壁、ベンチをモチーフにしたコースを使用した「ストリート」、おわん形の湾曲した複雑な滑走路を組み合わせたコースで行われる「パーク」が東京五輪で実施された。 そのほかに「フリー」「バーチカル」「ビッグエアー」「スラローム」といった種目が存在する。
競技人口	日本スケートボード協会によると、現在、国内の競技人口は10代・20代を中心におよそ3000人。国内の愛好者は、明確な基準がないが、推定で約40万人と言われている。
競技組織	国際競技連盟として、World Skate（国際ローラスポーツ連盟）が存在し、IOC（国際オリンピック委員会）の承認を受けている。 国内の競技組織として、World Skateに連なるワールドスケートジャパン、AJSA（日本スケートボード協会）、JSF（日本スケートボーディング連盟）が存在し、これらの組織は協力体制にある。 また、沖縄県を含む30都道府県には、ワールドスケートジャパンに連なるローラスポーツ連盟が組織されている。
動向	東京五輪にて新たに種目として採用された。日本人選手が多く活躍したことにより報道の機会が増加した。 東京五輪での種目採用を契機に全国でのパーク整備が実施、計画されている。 2023年5月にはXGAMESの開催がZOZOマリンスタジアム（千葉県）にて予定されており、スケボー最高峰ツアーである「ストリートリーグ」が2023年8月12日に有明アリーナで実施することが決定されている。
イメージ	


○3x3

成り立ち	世界中のストリートでプレイされている 3 人制バスケットボール 3on3 に FIBA（国際バスケットボール連盟）が 2007 年に正式な統ルールを設け、バスケットボールの新種目として確立したものである。
競技概要	3x3 用のコートは横 15m、縦 11m となっており、縦の長さは 5 人制コートの半分（14m）よりも少し短くなっている。 また、試合時間は 10 分間であることや、シュートの時間制限などにより、試合展開が非常に速いことが 5 人制と比較した際の特徴として挙げられる。
競技人口	バスケットボール全体の競技人口は 2018 年時点で推計 218 万人（スポーツライフ・データ）である。 3x3 総合ブランド「3x3.EXE」によると、日本国内における 3x3 の潜在的なプレイヤーは約 150 万人と想定している。
競技組織	国際競技組織として、FIBA（国際バスケットボール連盟）が存在し、IOC（国際オリンピック委員会）の承認を受けている。 国内の競技組織としては JBA（日本バスケットボール連盟）が FIBA に連なるかたちで組織されており、強化指定選手の選考や国内大会を開催している。
動向	東京五輪より、新たに種目として採用された。 2014 年より、FIBA 承認、JBA 公認のトップリーグ「3x3.EXE PREMIER」が創設され、2020 年には 5 か国（インドネシア、韓国、タイ、日本、ニュージーランド）1 地域（チャイニーズタイペイ）に拡大している
イメージ	

○BMX

成り立ち	<p>1970 年代初頭にアメリカ西海岸を中心に始まったとされている自転車のカテゴリーが BMX であり、子どもたちがオートバイのモトクロススターに憧れ、20 インチの自転車を乗り回していたことが原点とされている。</p>
競技概要	<p>BMX やスケートボード、インラインスケートなどを乗る「スケートパーク（競技専用施設）」で、ジャンプ台を利用し空中で技を披露し、その技術の高さを競う競技である「フリースタイル・パーク」が東京五輪にて実施された。</p> <p>そのほか「フラットランド」「ダート」「ストリート」「ヴァート」といった種目が存在する。</p>
競技人口	<p>全日本フリースタイル BMX 連盟によると、競技者全体では 1000 名くらいで、ほかにファッションとして BMX を楽しむ愛好者が数万人の規模になるといわれている。（2017 年 12 月時点）</p>
競技組織	<p>国際競技組織として、UCI（国際自転車競技連合）が存在しており、IOC（国際オリンピック委員会）の承認を受けている。</p> <p>国内の競技組織としては JCF（日本自転車競技連盟）が UCI に連なるかたちで組織されており、強化指定選手のサポート等を実施している。</p> <p>そのほか、JFBF（全日本フリースタイル BMX 連盟）が組織されており、JapanCup の主催や、JCF 強化指定選手の推薦等を実施しており、協力関係にある。</p>
動向	<p>東京五輪より、新たに種目として採用された。</p> <p>BMX はスケートボードと併用の施設である事例が多く、スケートボードパークの増加に伴い、パークは増加傾向にある。</p> <p>岡山理科大学附属高等学校にて BMX 等を行うアーバンスポーツ部を全国の高校で初めて設置することを決定した。完成した室内パークは JFBF の監修である。</p> <p>2023 年 5 月には XGAMES の開催が ZOZO マリンスタジアム（千葉県）にて予定されている。</p>
イメージ	 <p>A photograph showing a BMX rider in a white t-shirt and black pants performing a trick on a concrete ramp at a skate park. The rider is leaning forward, balancing on the front wheel. The background shows a green fence and a view of a town.</p>

○スポーツクライミング

成り立ち	複数のルートがあるとされ、1940年代後半から1980年にかけて、当時のソビエト連邦において自然の岩場で、規定の高さまで登る速さを競うスピード種目の競技会を開催したのが始まりとされている。
競技概要	登った課題（コース）の数を競う「ボルダリング」、壁を登る速さを競う「スピードクライミング」、登った高さを競う「リードクライミング」の3種目がある。
競技人口	日本山岳・スポーツクライミング協会によると、愛好者人口は60万人にのぼる。
競技組織	国際競技組織として、IFSC（国際スポーツクライミング連盟）が存在しており、IOC（国際オリンピック委員会）の承認を受けている。 国内競技組織として、IFSCに連なるかたちでJMSCA（日本山岳・スポーツクライミング協会）が組織されており、国内大会の開催や体験会を実施している。
動向	東京五輪では、3種目を複合した結果で成績を決める「コンバインド（複合）」が採用された。 近年は、民間によるボルダリングジムが各地に存在する。
イメージ	



○パルクール

成り立ち	<p>起源は第一次世界大戦まで遡り、Georges Hebert（ジョルジュ・エベル）海軍 将校によって作られ、フランス軍のトレーニングとして画期的に取り入れられていた Methode Naturelle（ナチュラル・メソッド）が元になったとされている。</p>
競技概要	<p>パルクールは様々な障害物(オブスタクルス)を、跳ぶ・飛ぶ・回る・越える・走る・掴む・振る・登る・降りる・捻るなどの動作を行いながら乗り越えていくスポーツで、その中でスピードや安全性、機敏性、流れ、そしてダイナミックさを競うものである。</p> <p>スタート地点からゴール地点まで、コース上の障害物（オブスタクル）を超えながら、タイムを競う「スピード」、90 秒間の中で技を最大限表現する「フリースタイル」といった種目が存在する。</p>
競技人口	<p>日本パルクール協会によると、日本国内におけるトレーサー（パルクールの実践者）は 3000 人程度とされている。</p>
競技組織	<p>国際競技組織として、FIG（国際体操連盟）が存在しており、IOC（国際オリンピック委員会）の承認を受けている。</p> <p>国内競技組織として、FIG に連なるかたちで、JGA（日本体操協会）が組織されており、JGA 内にパルクール委員会が組織されている。</p> <p>このほか、JPF（全日本パルクール連盟）、JPA（日本パルクール協会）により、体験会や練習会が開催されている。</p>
動向	<p>パリ五輪への採用は見送られたものの、お披露目式が予定されている。</p> <p>第 1 回 FIG パルクール世界選手権が東京で開催された。</p>
イメージ	 <p>The image shows a young man in a grey hoodie and dark pants performing a parkour move. He is captured mid-air, jumping over a dark, rectangular obstacle. The background is an outdoor urban area with trees, buildings, and other people walking, suggesting a public square or park setting.</p>

○ブレイキン

<p>成り立ち</p>	<p>ブレイキンは、1970年代にニューヨークのブロンクス地区で生まれたアーバンダンススタイルのダンススタイルである。ブレイキンのアスリートは通称“B ボーイ”、“B ガール”、“ブレイカー”と呼ばれるが、“B”は“Break”の略で、曲中でビートだけが流れているブレイクビートの間にダンスの動きを入れたことから、このように呼ばれている。</p>
<p>競技概要</p>	<p>1対1から2対2、もしくは大人数のチーム同士が向き合いながらダンスバトルを行う。難易度の高いパフォーマンスや、アクロバティックを披露するなど創造性を競い合うものである。</p>
<p>競技人口</p>	<p>一般社団法人ストリートダンス協会によると、ブレイキンを含むストリートダンスの競技人口は約600万人と推定されている。</p>
<p>競技組織</p>	<p>国際競技組織として、WDSF（世界ダンススポーツ連盟）が存在しており、IOC（国際オリンピック委員会）の承認を受けている。 国内競技組織として、WDSFに連なるかたちで、JDSF（日本ダンススポーツ連盟）のが組織されており、JDSF内のブレイキンに関するプロジェクトに特化したチームであるブレイクダンス部が活動している。</p>
<p>動向</p>	<p>2024年パリ五輪での新種目に採用される。 ブレイキンの国際大会「Battle Of The Year World Final」が2022年12月3日に沖縄アリーナにて開催される。</p>
<p>イメージ</p>	



○パデル

成り立ち	1979年代中頃にスペイン人によって発明されたといわれています。翌年には、スペインの大都市であるマドリードやバルセロナのスポーツクラブで普及が始まり、各地にパデルコートが建設された。
競技概要	パデルコートは20×10メートルの長方形で、周囲を強化ガラス（壁）と金網（フェンス）で囲まれているのが特徴である。この強化ガラスと金網を使って返球することができるところが、パデルの特色といえる。
競技人口	日本パデル協会によると、日本のパデルの競技人口は、約30,000人である。また、全世界では90カ国以上に約5万コート、競技人口2500万人となっている。
競技組織	国際競技組織として、FIP（国際パデル連盟）が存在し、2020年にはIOC（国際オリンピック委員会）の承認団体であるGAISF（国際スポーツ連盟機構）のオブザーバーに加盟することが決定した。 国内競技組織としては、FIPに連なるかたちでJPA（日本パデル協会）が存在し、パデルの認知向上、普及、振興等の活動を行っている。
動向	世界では、スペインをはじめアルゼンチンでも、スポーツ史上もっとも急激に競技者人口とコート数を増やしたスポーツである。 スペイン国内のパデル人口は、2004年の76万人から2010年までに199万人を記録、2013年には300万人超となり、スペイン国内では競技人口第二位となり、国民的スポーツとなっている。
イメージ	

○フライングディスク

成り立ち	フライングディスクの起源は、金属製パイ皿を投げて遊ぶ姿を見たウォルター・フレデリック・モリソンが、1948年にプラスチック製の安全なディスクを作ったことである。初期は、玩具として使用されたが、優れた飛行特性を活かした11種目が生み出された。
競技概要	世界公認種目は11種目であり、ラグビーやアメリカンフットボールのように敵陣地にディスクを運ぶ種目である「アルティメット」やディスクを使用したゴルフ「ディスクゴルフ」等が存在する。
競技人口	日本フライングディスク協会によると、フライングディスクの愛好者人口は約50万人（笹川スポーツ財団 2020年）に達しているといわれている。また、150校を超える中学・高校・大学などの授業にも採用されている。
競技組織	国際競技組織として、WFDF（世界フライングディスク連盟）が存在しており、IOC（国際オリンピック委員会）の承認を受けている。 国内競技組織として、WFDFに連なるかたちで、JFDA（日本フライングディスク協会）のが組織されており、各種大会開催、世界大会への選手派遣等を実施している。
動向	2015年にはWFDFがIOC承認団体となり、今後のオリンピック・パラリンピック競技化が期待される。 国際大会である「WFDF 2024 アジア・オセアニアビーチアルティメット選手権大会」が和歌山県白浜町で開催することが決定している。
イメージ	

○スラックライン

成り立ち	スラックラインは、近代になってからはヨセミテなどのクライマー達やモアブに集まるエクストリーマーたちの間でロングライン、ハイラインが試されてきた。現在のフリースタイルのスラックラインは 2007 年にドイツシュツットガルト (Stuttgart, Germany) にある GIBBON SLACKLINES の創始者のロバート・ケイディングが 5cm 幅のラインで簡単に設置するためのラチェットコンセプトを開発し、街中で遊べるようにしたことで、一気にヨーロッパ中に広がった。
競技概要	スラックラインとは、ウェビングと呼ばれる細いベルト状のラインの上でバランスを楽しむスポーツで、綱渡りとトランポリンを合わせた様な特徴がある。
競技人口	競技人口は国内で 4 万人程度と言われている。(滋賀県 しがスポーツナビ! HP より)
競技組織	国際競技組織として、WSFed (国際スラックライン連盟) が存在する。国内競技組織として、JSFed (日本スラックライン連盟) が存在し、大会の開催等、国内のスラックラインの健全普及に努めることを目的としている。このほか、JSPO (スラックライン推進機構) が存在し、普及活動を行っている。
動向	2019 年には世界大会である「ワールドカップジャパン・フルコンボ」が長野県小布施総合公園にて開催された。
イメージ	

## 2. アーバンスポーツに関する主な大会・合宿

○スケートボード

### 【主な大会】

規模	団体	大会名	開催日	開催場所	頻度
日本	ワールドスケートジャパン	第5回 日本スケートボード選手権大会 兼 2023年アジア競技大会派遣選手選考大会 兼 2023年ワールドスケートジャパン強化指定選手選考大会	2022/11/24 ~11/27	村上市スケートパーク（新潟県）	毎年
日本	AJSA	AJSA 2022 全日本アマチュア選手権大会	2022/10/15 ~10/16	有明アーバンスポーツパーク（東京都）	毎年
日本	JSF	ブルボン presents WINGRAM CUP JSF バーチカルコンテスト 2022 東京	2022/8/27	ムラサキパーク東京（東京）	毎年
日本	ワールドスケートジャパン	第1回 マイナビスケートボード日本 OPEN パーク	2022/4/8~ 4/10	鶴沼海浜公園スケートパーク（神奈川県）	-
日本	ワールドスケートジャパン	第1回 マイナビスケートボード日本 OPEN ストリート	2022/4/8~ 4/10	松阪市総合運動公園スケートパーク（三重県）	-
地域	AJSA	AJSA 沖縄アマチュア・サーキット第1戦・南風原	2022/8/7	花水緑の大回廊公園（沖縄県）	-

### 【合宿】

団体	合宿名	開催日	開催場所
村上市・むらかみスケートボードコミッション JSF（主管）	JSF スケートボードサマーキャンプ	2022/8/2 ~ 8/4	村上市スケートパーク（新潟県）
ワールドスケートジャパン	スケートボード強化指定選手夏期合宿	2022/8/18~ 8/21	村上市スケートパーク（新潟県）
-	五輪事前合宿（カナダ代表）	2021/7/14~ 7/20 2021/7/24~ 7/30	松阪市総合運動公園スケートパーク（三重県）
-	五輪事前合宿（フランス代表）	2021/7/15~ 7/20 2021/7/25~ 7/30	ムラサキパークかさま（茨城県）

## ○3x3

## 【主な大会】

規模	団体	大会名	開催日	開催場所	頻度
世界	3x3.EXE PREMIER	3x3.EXE PREMIER 2022 PLAYOFFS	2022/9/18 ~9/19	大森ベルポート（東京都）	-
日本	JBA	第7回 3x3 日本選手権大会	2022/2/26 ~2/27	新宿住友ビル 三角広場（東京都）	毎年
日本	JBA	第8回 3x3 日本選手権大会（予定）	2023/2/18 ~2/19	大森ベルポート（東京都）	毎年
日本	JBA	第9回 3x3 U18 日本選手権大会	2022/12/10 ~12/11	大森ベルポート（東京都）	毎年
日本	JBA	3x3 JAPAN TOUR 2022 EXTREME FINAL	2022/11/19 ~11/20	ららぽーと堺（大阪府）	

## 【合宿】

団体	合宿名	開催日	開催場所
JBA	ワールドカップ 2022 男子日本代表 強化合宿	2022/6/7 ~6/10	味の素ナショナルトレーニングセンター（東京都）
JBA	ワールドカップ 2022 女子日本代表 強化合宿	2022/6/3 ~6/7	
JBA	女子 U23 日本代表 第19回アジア競技大会選手選考合宿	2022/4/4 ~4/8	
JBA	男子 U23 日本代表 第19回アジア競技大会選手選考合宿	2022/3/29 ~4/2	

## ○BMX

## 【主な大会】

規模	団体	大会名	開催日	開催場所	頻度
日本	JCF	第6回 全日本 BMX フリースタイル選手権（パーク）	2022/9/16 ~9/18	下石井公園（岡山県）	毎年
日本	JCF	第6回 全日本 BMX フリースタイル選手権（フラットランド）	2022/9/16 ~9/18	イオンモール岡山（岡山県）	毎年
日本	JFBF	マイナビ JapanCup Yokosuka（パーク第2戦）	2022/7/22 ~7/24	うみかぜ公園（神奈川県）	毎年
日本	JFBF	マイナビ JapanCup Yokosuka（フラットランド第2戦）	2022/7/22 ~7/24	うみかぜ公園（神奈川県）	毎年
日本	JFBF	マイナビ JapanCup フラットランド第1戦	2022/6/18 ~6/19	イオンモール幕張新都心（千葉県）	毎年
日本	JFBF	マイナビ JapanCup パーク第1戦	2022/5/3 ~5/5	境町アーバンスポーツパーク（茨城県）	毎年

## 【合宿】

団体	合宿名	開催日	開催場所
JFBF	BMX フリースタイル・パーク日本代表強化指定選手 強化合宿	2018/4/18 ~4/23	Degoo Park（岡山県）

○スポーツクライミング

【主な大会】

規模	団体	大会名	開催日	開催場所	頻度
世界	JMSCA	第5回コンバインドジャパンカップ西条 第1回ボルダー&リード ジャパンオープン	2022/11/12 ～11/13	石鎚クライミングパーク SAIJO（愛媛県）	-
日本	JMSCA	第13回全国高等学校選抜 スポーツクライミング選 手権大会	2022/12/24 ～12/25	加須市民体育館（埼玉県）	毎年
日本	JMSCA	スポーツクライミング第2 回ユースフューチャーカ ップ銚田	2022/11/26 ～11/27	銚田市生涯学習館 スポーツクライミン グセンター（茨城 県）	毎年
日本	JMSCA	第8回ボルダリングユース 日本選手権倉吉大会	2022/6/11 ～6/12	倉吉体育文化会館 （鳥取県）	毎年
日本	JMSCA	第10回リードユース日本 選手権南砺大会	2022/5/14 ～5/15	桜ヶ池クライミング センター（富山県）	毎年
日本	JMSCA	第4回スピードジャパン カップ 第2回スピードユース日 本選手権亀岡大会	2022/3/6	サンガスタジアム （京都府）	毎年
日本	JMSCA	第35回リードジャパンカ ップ	2022/2/12 ～2/13	松山下公園総合体育 館（千葉県）	毎年
日本	JMSCA	第17回ボルダリングジャ パンカップ2022	2022/2/5～ 2/6	四日市ドーム（三重 県）	毎年
日本	JMSCA	SPORT CLIMBING JAPAN TOUR	2022/6/25 ～12/17	日本各地	毎年

【主な合宿】

団体	合宿名	開催日	開催場所
JMSCA	ユース日本代表（ボルダリン グ・リード）合宿	2021/7/28～ 8/1	倉吉体育文化会館（鳥取県）
JMSCA	第一期 JMSCA パリオリンピッ ク強化選手 合宿	2021/3/13～ 3/14	石鎚クライミングパーク SAIJO（愛媛県）
-	五輪事前合宿（アメリカ代表）	2021/7/22～ 7/31	ディーボルダリング八王子店 （東京都） モリパーク アウトドアヴィ レッジ（東京都） はだの丹沢クライミングパー ク（神奈川県） 青海アーバンスポーツパーク （東京都）
-	五輪事前合宿（フランス代表）	2021/7/20～ 7/28	倉吉体育文化会館（鳥取県）
-	五輪事前合宿（オーストリア代 表）	2019/8/6～8/8	石鎚クライミングパーク SAIJO（愛媛県）

## ○パルクール

## 【主な大会】

規模	団体	大会名	開催日	開催場所	頻度
世界	FIG/JGA	第1回 FIG パルクール世界選手権 Presented by Yahoo! JAPAN	2022/10/14 ～10/16	有明アーバンスポーツパーク（東京都）	-
日本	JGA	第3回パルクール日本選手権	2022/10/9	有明アーバンスポーツパーク（東京都）	毎年
日本	株式会社ストラグル	PARKOUR TOKYO CHAMPIONSHIP 2022 in Summer	2022/9/3	TOKYO TORCH Park（東京都）	-
日本	PARKOUR PREMIERE CUP 実行委員会	TOKIO インカラミ presents PARKOUR PREMIER CUP 2022 in 札幌	2022/8/27	サッポロファクトリーホール（北海道）	-
日本	東京都体操協会	PARKOUR TOKYO CHAMPIONSHIP 2022	2022/3/12	TOKYO TORCH Park（東京都）	-

## ○ブレイキン

## 【主な大会】

規模	団体	大会名	開催日	開催場所	頻度
世界	BOTY 制作委員会	BATTLE OF THE YEAR 2022 WORLD FINAL	2022/12/2 ～12/3	沖縄アリーナ	毎年
日本	JDSF BREAKING	第3回全日本ブレイキン選手権	2022/1/22 ～1/23	渋谷ストリームホール（東京都）	毎年
日本	JDSF BREAKING	第4回全日本ブレイキン選手権（予定）	2023/2/18 ～2/19	代々木第二体育館（東京都）	毎年
日本	JDSF BREAKING	マイナビ JDSF ブレイキンジャパンオープン	2022/11/19	IHI ステージアラウンド東京（東京都）	-
日本	マイナビ	マイナビ DANCE ALIVE HERO'S 2022	2022/4/16 ～4/17	両国国技館	毎年
日本	レッドブル・ジャパン株式会社	Red Bull BC One Japan Cypher 2022	2022/9/25	海峡メッセ下関（山口県）	毎年
日本	株式会社アドヒップ	SETTSU BREAKIN' JAM	2022/12/24	摂津市民文化ホール（大阪府）	-
地域	JDSF BREAKING	JDSF BREAKING ブロック選手権	-	全国6か所	-

## 【主な合宿】

団体	合宿名	開催日	開催場所
JDSF BREAKING	JDSF BREAKING 強化合宿	2022/3/27 ～3/29	東京都昭島市



## ○パデル

## 【主な大会】

規模	団体	大会名	開催日	開催場所	頻度
日本	JPA	第6回ダンロップ全日本パデル選手権	2022/12/2 ～12/4	パデルワンほしだ (大阪府)	-
日本	JPA	ジャパンパデルツアー	-	全国パデル施設	-

## ○フライングディスク

## 【主な大会】

規模	団体	大会名	開催日	開催場所	頻度
日本	JFDA	文部科学大臣杯第47回全日本アルティメット選手権大会	2022/10/22 ～ 10/23 (本選) 10/29 (決勝)	J-VILLAGE (福島県) 大和なでしこスタジアム (神奈川県)	毎年
地域	JFDA	九州沖縄地区予選	2022/6/18～6/19	大津町運動公園 (熊本県)	毎年
日本	JFDA	第7回全日本ビーチアルティメット選手権大会	2022/6/18	白良浜 (和歌山県)	毎年
日本	JFDA	第48回全日本ガッツ選手権大会	2022/7/9～7/10	国営木曾三川公園 東海広場 芝生公園 (愛知県)	毎年
日本	JFDA	第47回全日本フライングディスク個人総合選手権大会	2022/7/16～7/18	昭島市国営昭和記念公園 (東京都)	毎年
日本	JFDA	第33回全日本大学アルティメット選手権大会	2022/10/1～10/2	J-VILLAGE (福島県)	毎年
地域	JFDA	九州沖縄地区予選	2022/8/24～8/25	大津町運動公園 (熊本県)	毎年
日本	JFDA	第10回全日本マスターズアルティメット選手権大会	2022/9/24～9/25	井戸前旅館 (山梨県)	毎年
日本	JFDA	第9回全国ユースアルティメット選手権大会	2022/9/25	井戸前旅館 (山梨県)	毎年
日本	JFDA	第5回全日本U21アルティメット選手権大会	2023/3/18～3/19	つま恋リゾート彩の郷 (静岡県)	毎年
地域	JFDA	九州沖縄地区予選	2022/10/22 ～ 10/23	エコパーク水俣 (熊本県)	毎年
日本	JFDA	JAPAN ULTIMATE OPEN 2022	2022/11/12 ～ 11/13	時之栖スポーツセンター (うさぎ島グラウンド) (静岡県)	毎年
日本	JFDA	第10回全日本ミックスアルティメット選手権大会	2022/12/3～12/4	つま恋リゾート彩の郷 (静岡県)	毎年
日本	JFDA	第4回全日本大学ガッツ選手権大会	2022/12/10 ～ 12/11	熊谷スポーツ文化公園 (埼玉県)	毎年
日本	JFDA	第3回全日本大学ミックスアルティメット選手権大会	2023/3/11～3/12	井戸前旅館 (山梨県)	毎年



○スラックライン

【主な大会】

規模	団体	大会名	開催日	開催場所	頻度
日本	JSFed	第3回 GIBBON BEACH GAMES® 2022 [GIBBON CUP 2022] TOKYO ODAIBA BEACH SLACKLINES	2022/5/4 ~ 5/5	お台場海浜公園（東 京都）	定期
日本	JSFed	ギボンカップ 2022 岩手	2022/7/24	銀河モール花巻（岩 手県）	定期
日本	ギボン	ギボン日本オープンスラ ックライン選手権大会	2022/10/16	二子玉川ライズ	-
日本	JSFed	第4回 GIBBON BEACH GAMES® 2022 [GIBBON CUP 2022] Chiba Inage BEACH SLACKLINES	2022/10/22 ~10/23	いなげの浜海水浴場 （千葉県）	定期
日本	JSFed	第6回 スラックライン 全日本選手権大会	2022/11/1 ~11/30	オンライン	毎年

### 3. 国の関係法令及び主要政策

#### ○スポーツ基本法

目的 (第1条)	スポーツに関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的とする。
基本理念 (第2条)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であることに鑑み、国民が生涯にわたりあらゆる機会と場所において、自主的・自律的に適性や健康状態に応じてスポーツを行うことができるようにする。</li> <li>2. 青少年のスポーツが国民の生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものであるとの認識の下に、学校、スポーツ団体、家庭及び地域における活動を相互に連携する。</li> <li>3. スポーツは、人々がその居住する地域において、主体的に協働することにより身近に親しむことができるようにするとともに、これを通じて、当該地域における全ての世代の人々の交流が促進され、かつ、地域間の交流の基盤が形成されるものとなるよう推進されなければならない。</li> <li>4. スポーツは、スポーツを行う者の心身の健康の保持増進及び安全の確保が図られるよう推進されなければならない。</li> <li>5. スポーツは、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない。</li> <li>6. スポーツは、我が国のスポーツ選手（プロスポーツの選手を含む。以下同じ。）が国際競技大会（オリンピック競技大会、パラリンピック競技大会その他の国際的な規模のスポーツの競技会をいう。以下同じ。）又は全国的な規模のスポーツの競技会において優秀な成績を収めることができるよう、スポーツに関する競技水準（以下「競技水準」という。）の向上に資する諸施策相互の有機的な連携を図りつつ、効果的に推進されなければならない。</li> <li>7. スポーツは、スポーツに係る国際的な交流及び貢献を推進することにより、国際相互理解の増進及び国際平和に寄与するものとなるよう推進されなければならない。</li> <li>8. スポーツは、スポーツを行う者に対し、不当に差別的取扱いをせず、また、スポーツに関するあらゆる活動を公正かつ適切に実施することを旨として、ドーピングの防止の重要性に対する国民の認識を深めるなど、スポーツに対する国民の幅広い理解及び支援が得られるよう推進されなければならない。</li> </ol>
国の責務 (第3条)	国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、スポーツに関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。
地方公共団体の責務 (第4条)	地方公共団体は、基本理念にのっとり、スポーツに関する施策に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。
スポーツ団体の努力 (第5条) (抜粋)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ団体は、スポーツの普及及び競技水準の向上に果たすべき重要な役割に鑑み、基本理念にのっとり、スポーツを行う者の権利利益の保護、心身の健康の保持増進及び安全の確保に配慮しつつ、スポーツの推進に主体的に取り組むよう努めるものとする。</li> <li>2. スポーツ団体は、スポーツの振興のための事業を適正に行うため、その運営の透明性の確保を図るとともに、その事業活動に関し自らが遵守すべき基準を作成するよう努めるものとする。</li> </ol>
スポーツ基本計画 (第9条) (抜粋)	1. 文部科学大臣は、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、スポーツの推進に関する基本的な計画（以下「スポーツ基本計画」という。）を定めなければならない。
地方スポー	1. 都道府県及び市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会（地方教育行政の組

<p>ツ推進計画 (第10条) (抜粋)</p>	<p>織及び運営に関する法律（昭和三十一年法律第百六十二号）第二十三条第一項の条例の定めるところによりその長がスポーツに関する事務（学校における体育に関する事務を除く。）を管理し、及び執行することとされた地方公共団体（以下「特定地方公共団体」という。）にあっては、その長）は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（以下「地方スポーツ推進計画」という。）を定めるよう努めるものとする。</p>
<p>指導者等の 養成等 (第11条)</p>	<p>国及び地方公共団体は、スポーツの指導者その他スポーツの推進に寄与する人材（以下「指導者等」という。）の養成及び資質の向上並びにその活用のため、体系的な養成システムの開発又は利用への支援、研究集会又は講習会（以下「研究集会等」という。）の開催その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない。</p>
<p>スポーツ施設 の整備等 (第12条)</p>	<p>1. 国及び地方公共団体は、国民が身近にスポーツに親しむことができるようにするとともに、競技水準の向上を図ることができるよう、スポーツ施設（スポーツの設備を含む。以下同じ。）の整備、利用者の需要に応じたスポーツ施設の運用の改善、スポーツ施設への指導者等の配置その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない。</p> <p>2. 前項の規定によりスポーツ施設を整備するに当たっては、当該スポーツ施設の利用の実態等に応じて、安全の確保を図るとともに、障害者等の利便性の向上を図るよう努めるものとする。</p>
<p>地域における スポーツの 振興のための 事業への 支援等 (第21条)</p>	<p>国及び地方公共団体は、国民がその興味又は関心に応じて身近にスポーツに親しむことができるよう、住民が主体的に運営するスポーツ団体（以下「地域スポーツクラブ」という。）が行う地域におけるスポーツの振興のための事業への支援、住民が安全かつ効果的にスポーツを行うための指導者等の配置、住民が快適にスポーツを行い相互に交流を深めることができるスポーツ施設の整備その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない。</p>
<p>スポーツ行事 の実施及び 奨励 (第22条)</p>	<p>1. 地方公共団体は、広く住民が自主的かつ積極的に参加できるような運動会、競技会、体力テスト、スポーツ教室等のスポーツ行事を実施するよう努めるとともに、地域スポーツクラブその他の者がこれらの行事を実施するよう奨励に努めなければならない。</p> <p>2. 国は、地方公共団体に対し、前項の行事の実施に関し必要な援助を行うものとする。</p>
<p>野外活動及び スポーツ・レクリ エーション活動 の普及 奨励 (第24条)</p>	<p>国及び地方公共団体は、心身の健全な発達、生きがいのある豊かな生活の実現等のために行われるハイキング、サイクリング、キャンプ活動その他の野外活動及びスポーツとして行われるレクリエーション活動（以下この条において「スポーツ・レクリエーション活動」という。）を普及奨励するため、野外活動又はスポーツ・レクリエーション活動に係るスポーツ施設の整備、住民の交流の場となる行事の実施その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない。</p>
<p>優秀なスポ ーツ選手の 育成等 (第25条)</p>	<p>1. 国は、優秀なスポーツ選手を確保し、及び育成するため、スポーツ団体が行う合宿、国際競技大会又は全国的な規模のスポーツの競技会へのスポーツ選手及び指導者等の派遣、優れた資質を有する青少年に対する指導その他の活動への支援、スポーツ選手の競技技術の向上及びその効果の十分な発揮を図る上で必要な環境の整備その他の必要な施策を講ずるものとする。</p> <p>2. 国は、優秀なスポーツ選手及び指導者等が、生涯にわたりその有する能力を幅広く社会に生かすことができるよう、社会の各分野で活躍できる知識及び技能の習得に対する支援並びに活躍できる環境の整備の促進その他の必要な施策を講ずるものとする。</p>
<p>国際競技大会 の招致又は 開催の支援 等 (第27条)</p>	<p>2. 国は、公益財団法人日本オリンピック委員会（平成元年八月七日に財団法人日本オリンピック委員会という名称で設立された法人をいう。）、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会その他のスポーツ団体が行う国際的な規模のスポーツの振興のための事業に関し必要な措置を講ずるに当たっては、当該スポーツ団体との緊密な連絡を図るものとする。</p>

(抜粋)	
スポーツ推進委員(第32条)(抜粋)	1. 市町村の教育委員会(特定地方公共団体にあつては、その長)は、当該市町村におけるスポーツの推進に係る体制の整備を図るため、社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を有し、及び次項に規定する職務を行うのに必要な熱意と能力を有する者の中から、スポーツ推進委員を委嘱するものとする。
国の補助(第33条)(抜粋)	1. 国は、地方公共団体に対し、予算の範囲内において、政令で定めるところにより、次に掲げる経費について、その一部を補助する。 一 国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会の実施及び運営に要する経費であつて、これらの開催地の都道府県において要するもの 2. 二 その他スポーツの推進のために地方公共団体が行う事業に要する経費であつて特に必要と認められるもの
地方公共団体の補助(第34条)	地方公共団体は、スポーツ団体に対し、その行うスポーツの振興のための事業に必要な経費について、その一部を補助することができる。

○第3期スポーツ基本計画(令和4年3月)

計画期間	令和4年度(2022年度)～令和8年度(2026年度)の5年間
参考	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <h2 style="margin: 0;">第3期スポーツ基本計画(概要)</h2> </div> <p><b>【第2期計画期間中の総括】</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>① 新型コロナウイルス感染症: ▶ 感染拡大により、スポーツ活動が制限</p> <p>② 東京オリンピック・パラリンピック競技大会: ▶ 1年延期後、原則無観客の中で開催</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>③ その他社会状況の変化: ▶ 人口減少・高齢化の進行 ▶ 地域間格差の広がり ▶ DXなど急速な技術革新 ▶ ライフスタイルの変化 ▶ 持続可能な社会や共生社会への移行</p> </div> </div> <p style="font-size: small;">こうした出来事等を選び、改めて確認された ・「楽しさ」「喜び」「自覚性」に基づき行われる本質的な「スポーツそのものが有する価値」(Well-being) ・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」 を更に高めるべく、第3期計画では次に掲げる施策を展開</p> <h3>1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策</h3> <div style="display: grid; grid-template-columns: 1fr 1fr 1fr; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p><b>持続可能な国際競技力の向上</b></p> <p>○ 東京大会の結果を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、 ・NHK強化戦略プランの突進化を支援 ・アスリート育成フェーズを構築 ・スポーツ医・科学、情報等による支援を充実 ・地域の競技力向上を支える体制を構築</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p><b>共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進</b></p> <p>○ 東京大会による共生社会への持続・関心の高まりと、スポーツの連携向上を契機としたスポーツ参画を促進 ○ オリパラ参画の取組を活かしたアスリートとの交流活動等を推進</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p><b>スポーツを通じた国際交流・協力</b></p> <p>○ 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)事業で培われた市民ネットワークを活用し、更に国際力を展開、スポーツSDGsにも貢献(トーンダウン防止活動に参画人材、ネットワークの活用等)</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>大規模大会の運営ノウハウの継承</b></p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響下という両断的な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>地方創生・まちづくり</b></p> <p>○ 東京大会による地域色長寿のスポーツへの関心の高まりを地方創生、まちづくりの取組に活かす。将来にわたって(経済・産業) ○ 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと相和した取組を推進</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保</b></p> <p>○ 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全・安心を脅かす事象に対応するため、 ・競技中継や村内ハラスメントの防止 ・熱中症対策心臓病など安全・安心の確保 ・暴力根絶に向けた前後出口の明確化・活用</p> </div> <h3>2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>スポーツを「つくる/はくぐむ」</b></p> <p>社会の変化や状況に応じて、臨時的仕組みにとらわれずに柔軟に対応し、最適な手法・ツールを考案して作り出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 柔軟・適切な手法や仕組みの導入等を進めた、多様な主体が参加できるスポーツの機会創出</li> <li>◆ スポーツに取り組み者の自主性・自覚性を促す指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成</li> <li>◆ デジタル技術を活用した新たなスポーツ協会や、新たなビジネスモデルの創出などDXを推進</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>スポーツで「あつまり、ともに、つながる」</b></p> <p>様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に取組み、つながりを感じてスポーツを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施設・設備整備、プログラム提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現</li> <li>◆ スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力による我が国のスポーツ体制の強化</li> <li>◆ スポーツ分野の国際協力や魅力の発信</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>スポーツに「誰もがアクセスできる」</b></p> <p>性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの機会に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 住居環境が原因でスポーツに親しめる「居つき」等の機会の提供</li> <li>◆ 原簿意識がかわらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学等の支援を受けられるよう地域間の連携強化</li> <li>◆ 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがない継続的なアクセスの確保</li> </ul> </div> </div> </div>

### 3. 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策

- ① 多様な主体におけるスポーツの機会創出  
 地域や学域における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力向上、健康の増進が充実、高齢者・障害者の参加の促進、女子・障害者・高齢者・子育て世代のスポーツ参加の促進、等
- ② スポーツ界におけるDXの推進  
 市町村等に活用したスポーツ実況のあり方、デジタル技術の活用、最新のデジタルスポーツの活用、等
- ③ 国際競争力の向上  
 中長期的な視点からスポーツの国際競争力向上支援システムの確立、地域に根ざした人材育成の推進、等、JPO・JOCの共同推進による国際大会の開催、等
- ④ スポーツの国際交流・協力  
 国際スポーツ界への発信促進への対応策、スポーツ産業の国際展開を促進するプラットフォームの構築、等
- ⑤ スポーツによる健康増進  
 健康増進に資するスポーツに関する施策の実施、市民生活の向上に資する施策の実施、医療・介護や企業・保健者との連携強化、等
- ⑥ スポーツの成長産業化  
 スタジアム・アリーナ等の整備の推進、各地域とのオープンイノベーションによる新たなビジネスモデルの創出支援、等
- ⑦ スポーツによる地方創生、まちづくり  
 観光やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進など、スポーツによる地方創生、まちづくりの推進の全体的な推進、等
- ⑧ スポーツを通じた共生社会の実現  
 障害者や高齢者のスポーツの参加促進の推進、国内外のスポーツ団体の女性との関係強化の推進、市民生活の向上に資する施策の実施、等
- ⑨ スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化  
 ガバナンス・コンプライアンスに関する理解の促進、スポーツ団体の経営改善を行う人材の確保・育成支援、等
- ⑩ スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材  
 規制・大学等が求めたスポーツ施設の利用促進の確保、地域スポーツコミュニティの推進など、全NFCの人材育成及び関係に関する国際的な連携、女性のスポーツ指導に特化した指導者育成支援、等
- ⑪ スポーツを実施する者の安全・安心の確保  
 選手や観客の安全確保の推進に向けた関係者間の連携の強化、スポーツ安全に関する関係者間の連携の強化、等
- ⑫ スポーツ・インテグリティの確保  
 スポーツ界への不正行為の防止の推進、スポーツ界への不正行為の防止の推進、不正行為の防止の推進、等

#### 『感動していただけるスポーツ界』の実現に向けた目標設定

全ての人が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会を目指す

- 🎯 **国民のスポーツ実施率を向上**  
 ✓ 成人の**週1回以上のスポーツ実施率を7.0%**（障害者は**4.0%**）  
 ✓ **1年に一度以上スポーツを実施する成人の割合を10.0%に近づける**（障害者は**7.0%を目標**）
- 🎯 **生涯にわたって運動・スポーツを継続したい子供の増加**  
 （児童86%⇒**90%**、生徒82%⇒**90%**）
- 🎯 **子供の体力の向上**  
 （新体力テストの総合評価C以上の児童68%⇒**80%**、生徒75%⇒**85%**）
- 🎯 **誰もがスポーツに参画でき、共に活動できる社会を実現**  
 ✓ 体育授業への**参加を希望する児童生徒の見学ゼロ**を目標とした学習プログラム開発  
 ✓ **スポーツ団体の女性理事の役割を40%**
- 🎯 **オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会で、過去最高水準の金メダル数、総メダル数、入賞者数、メダル授与競技数等の実現**
- 🎯 **スポーツを通じて活力ある社会を実現**  
 ✓ **スポーツ市場規模15兆円の達成**（2025年末まで）  
 ✓ **スポーツ・健康まちづくりに取り組む地方公共団体の割合15.6%⇒40%**
- 🎯 **スポーツを通じて世界とつながる**  
 ✓ **ポストSFT事業を通じて世界中の国々の700万人の人々への利益を目標に事業を推進**  
 ✓ **国際競技連盟（IF）等役員数37人規模の維持・拡大**

出典：第3期スポーツ基本計画の概要（簡易版）


### ○観光立国推進基本法

目的 (第1条)	この法律は、二十一世紀の我が国経済社会の発展のために観光立国を実現することが極めて重要であることにかんがみ、観光立国の実現に関する施策に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、観光立国の実現に関する施策の基本となる事項を定めることにより、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民経済の発展、国民生活の安定向上及び国際相互理解の増進に寄与することを目的とする。
施策の基本理念 (第2条)	<ol style="list-style-type: none"> <li>観光立国の実現に関する施策は、地域における創意工夫を生かした主体的な取組を尊重しつつ、地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行を促進することが、将来にわたる豊かな国民生活の実現のため特に重要であるという認識の下に講ぜられなければならない。</li> <li>観光立国の実現に関する施策は、観光が健康的でゆとりのある生活を実現する上で果たす役割の重要性にかんがみ、国民の観光旅行の促進が図られるよう講ぜられなければならない。</li> <li>観光立国の実現に関する施策は、観光が国際相互理解の増進とこれを通じた国際平和のために果たす役割の重要性にかんがみ、国際的視点に立って講ぜられなければならない。</li> <li>観光立国の実現に関する施策を講ずるに当たっては、観光産業が、多様な事業の分野における特色ある事業活動から構成され、多様な就業の機会を提供すること等により我が国及び地域の経済社会において重要な役割を担っていることにかんがみ、国、地方公共団体、住民、事業者等による相互の連携が確保されるよう配慮されなければならない。</li> </ol>
国の責務 (第3条)	国は、前条の施策の基本理念（次条第一項において「基本理念」という。）にのっとり、観光立国の実現に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。
地方公共団体の責務 (第4条)	1. 地方公共団体は、基本理念にのっとり、観光立国の実現に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、自主的かつ主体的に、その地方公共団体の区域の特性を生かした施策を策定し、及び実施する責務を有する。



	2. 地方公共団体は、前項の施策を実施するに当たっては、その効果的な実施を図るため地方公共団体相互の広域的な連携協力を努めなければならない。
観光立国推進基本計画の策定等(第10条)	1. 政府は、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、観光立国の実現に関する基本的な計画(以下「観光立国推進基本計画」という。)を定めなければならない。
新たな観光旅行の分野の開拓(第23条)	国は、新たな観光旅行の分野の開拓を図るため、自然体験活動、農林漁業に関する体験活動等を目的とする観光旅行、心身の健康の保持増進のための観光旅行その他の多様な観光旅行の形態の普及等に必要な施策を講ずるものとする。

○新たな(第4次)観光立国推進基本計画(R4.3策定予定)

<p>参考</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: right;"> 観光庁</p> <h3 style="text-align: center;">今後の観光政策の方向性について</h3> <p>○ 人口減少を迎えている我が国において、国内外からの交流人口を生み出す観光は、成長戦略の柱、地域活性化の切り札として期待されている重要な分野</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%; background-color: #fff9c4;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>国内交流拡大戦略</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内需要喚起策</li> <li>■ 第2のふるさとづくり(継続した来訪の促進)</li> <li>■ ワークেশン</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%; background-color: #ffe0b2;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>インバウンド回復戦略</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インバウンドV字回復に向けた集中的取組</li> <li>■ 消費額増加と地方誘客の促進</li> <li>■ 高付加価値なインバウンドの誘致</li> </ul> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 60%; margin: 10px auto; background-color: #c8e6c9;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>高付加価値で持続可能な観光地域づくり戦略</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 宿の改修等、観光地・観光産業の再生・高付加価値化</li> <li>■ 自然、文化の保全と観光の両立等、持続可能な観光地域づくり</li> <li>■ 地域に根づく観光資源の磨き上げ、観光DX</li> </ul> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">※個別の施策については、主な内容を記載 19</p> </div> <p style="text-align: center;">出典：「交通政策審議会観光分科会(第43回)」【資料1】観光庁資料</p>
<p>第3期計画におけるスポーツツーリズムの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内外からの交流人口を一層拡大するためには、地域性の高い魅力あるスポーツ観光資源の創出と、スポーツツーリズムの需要喚起・定着化が必要と考えられる。</li> <li>■ 地域スポーツコミッションの設立を促し、スポーツ観光資源の開発や、イベント開催、大会・キャンプ等の誘致等の活動に対し支援を行うとともに、関連する産業界とも連携・協働したスポーツツーリズムの魅力訴求により、国民全体の需要を喚起し、定着化を図る。</li> <li>■ スポーツ庁・文化庁・観光庁が連携し、スポーツと文化芸術が融合した体験型観光素材の創出を図る。</li> </ul>

○アーバンスポーツツーリズム推進に向けた論点整理

<p>アーバンスポーツに取り組む背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーバンスポーツへの取組は、若者や子供などを引き込む地域の魅力やアーバンスポーツの体験・観戦のツーリズムを生み出すものとして期待される。</li> </ul>
<p>アーバンスポーツの定義</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーバンスポーツとは「エクストリームスポーツの中で都市での開催が可能なもの」として、音楽、ファッションなど遊び感覚の高い若者文化とともに進化するものと捉えることができる。</li> <li>種目としては、ボルダリング、BMX、スラックライン、パルクール、スケートボード、3×3などを例として挙げるができるが、特に種目などを限定するものではない。</li> </ul>
<p>アーバンスポーツ推進の意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都会や街にある環境を利用して個人でできる活動であり、裾野は限りなく広がっていく可能性がある。</li> <li>TOKYO2020におけるアーバンスポーツの採用を契機に、爆発的な裾野拡大が期待できる。</li> <li>ファッション、音楽、映像などのエンタテインメントと切り離せない側面を有しており、新しいスポーツの価値を見出してくれるものとしても期待できるのではないか。</li> </ul>
<p>アーバンスポーツツーリズム振興による地域の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地域の特色あるアーバンスポーツへの取り組みにより、「する」「みる」のツーリズム需要を高め、地域の活性化、魅力あるまちづくりを推進することが重要と考えられる。</li> </ul>
<p>アーバンスポーツ推進の課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>低い認知度・露出の不足             <ul style="list-style-type: none"> <li>総じて競技人口は少なく、一般に対する露出が少ないのではないか。</li> </ul> </li> <li>「する」ための障害             <ul style="list-style-type: none"> <li>アーバンスポーツを「したい」と思っても、場所も、指導者も身近に得られる人は限られているのではないか。</li> <li>身近にアーバンスポーツを体験できる場所・施設を整備すること、次に、適切な指導を行うことのできる体制の整備が必要ではないか。</li> </ul> </li> <li>「みる」ための障害             <ul style="list-style-type: none"> <li>アーバンスポーツの推進にあたっては、「する」機会づくりと並行・連携して「みる」機会づくりも重要ではないか。</li> </ul> </li> <li>誰もが参加できるアーバンスポーツ             <ul style="list-style-type: none"> <li>アーバンスポーツは、だれもが参加できるという基本的側面を有しているが、競技スポーツとして進化する過程において、ルールや競技条件が厳格化されることで、参加のしやすさが薄れる傾向にある。</li> </ul> </li> <li>都市内での活動を妨げる法規制             <ul style="list-style-type: none"> <li>道路内での遊びやスポーツは、安全性や交通秩序を守る観点から、規制の対象となっており、これはアーバンスポーツ推進を妨げる要因の一つと考えられる。</li> <li>規制の状況は公園においても同様である。現状、公園本来の目的による利用までを制限するような運用が多く、アーバンスポーツの活動は困難と想定される。</li> </ul> </li> <li>活動組織の脆弱さとクラスター化             <ul style="list-style-type: none"> <li>全国レベルの関係団体間では一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会なども機能し、「クラスター化」が進んでいるが、地方においては、各種目の関係者間における協力体制は弱く、まだまだ連携が図りにくい状況にあると言えるのではないか。</li> </ul> </li> <li>地域振興策としての行政の関与             <ul style="list-style-type: none"> <li>アーバンスポーツ推進にあたり、活動場所の確保も重要である。これらの施設整備や道路・公園等における活動の許認可は行政に委ねられているため、行政を巻き込んだ取組の推進が必要になってくるのではないか。</li> </ul> </li> </ol>

<p>アーバンスポーツをツーリズムに昇華させるための課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域外からの誘客に向けた意識改革 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ツーリズムの対象条件である「みに行く」「しに行く」を商品化する視点が必要なのではないか。</li> </ul> </li> <li>2. ブランディング <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「する」「みる」「する+みる」、いずれのツーリズムであっても、その施設やイベントの知名度、ブランド力が重要であって、ブランディングに繋がるコンテンツの磨き上げが課題になるのではないか。</li> </ul> </li> <li>3. 誘客ターゲットの明確化 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「する」ターゲットは、若者と子供が主体であり、子供を対象としたツーリズムは、ファミリー層が対象になるものと考えられる。</li> <li>▪ 随行家族のニーズを考慮すると、他のツーリズム以上に、アーバンスポーツ以外のアクティビティの用意が重要と言える。</li> </ul> </li> <li>4. 明確なコンセプト「行く」「来る」「見る」「見せる」のスパイラル化 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 4要素を上手くスパイラル化することで、ツーリズムへの展開可能性が高まるのではないか。</li> </ul> </li> <li>5. アーバンスポーツ、アーバンスポーツツーリズムに係る需要の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ アーバンスポーツ、アーバンスポーツツーリズムの現状を把握し、需要の推計等を行うためには、基礎的なデータが必要であるところ、アーバンスポーツはまだ始動期にあり、世間からの認知度も低いことから、統計的なデータ収集には至っていないというのが現状である。</li> <li>▪ 今後のアーバンスポーツ、アーバンスポーツツーリズムの推進のためにも、基礎的なデータ収集や関係者の意向調査、意識調査等が求められるのではないか。</li> </ul> </li> </ol>
----------------------------------	---

#### 4. アーバンスポーツパークの整備に関連する法律等

##### ○道路交通法

<p>目的 (第1条)</p>	<p>この法律は、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図り、及び道路の交通に起因する障害の防止に資することを目的とする。</p>
<p>道路における禁止行為 (第76条 4項3号)</p>	<p>4. 何人も、次の各号に掲げる行為は、してはならない。 三 交通のひんばんな道路において、球戯をし、ローラー・スケートをし、又はこれらに類する行為をすること。</p>
<p>罰則 (第120 条)</p>	<p>1. 次の各号のいずれかに該当する者は、五万円以下の罰金に処する。 十 第七十一条（運転者の遵守事項）第一号、第四号から第五号まで、第五号の三、第五号の四若しくは第六号、第七十一条の二（自動車等の運転者の遵守事項）、第七十三条（妨害の禁止）、第七十六条（禁止行為）第四項又は第九十五条（免許証の携帯及び提示義務）第二項（第七条の三（国際運転免許証等の携帯及び提示義務）後段において準用する場合を含む。）の規定に違反した者</p>
<p>参考</p>	<p>■刑法 第261条（器物損壊等） 前三条に規定するもののほか、他人の物を損壊し、又は傷害した者は、三年以下の懲役又は三十万円以下の罰金若しくは科料に処する。 ■軽犯罪法 第1条32号 左の各号の一に該当する者は、これを拘留又は科料に処する。 三十二 入ることを禁じた場所又は他人の田畑に正当な理由がなくて入った者</p>



○都市公園法

目的 (第1条)	都市公園の設置及び管理に関する基準等を定めて、都市公園の健全な発達を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。
定義 (第2条)	<p>「<b>都市公園</b>」とは、<b>都市計画施設である公園又は緑地</b>で、設置者である地方公共団体又は国が設ける「公園施設」を含むものとする。</p> <p>「<b>公園施設</b>」とは、都市公園の効用を全うするため都市公園に設けられる、以下の施設をいう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 園路及び広場</li> <li>2. 植栽、花壇、噴水その他の修景施設</li> <li>3. 休憩所、ベンチその他の休養施設</li> <li>4. ぶらんこ、滑り台、砂場その他の遊戯施設</li> <li>5. 野球場、陸上競技場、水泳プール<b>その他の運動施設</b></li> <li>6. 植物園、動物園、野外劇場その他の教養施設</li> <li>7. 飲食店、売店、駐車場、便所その他の便益施設</li> <li>8. 門、柵、管理事務所その他の<b>管理施設</b></li> <li>9. 上記のほか、都市公園の効用を全うする施設</li> </ol>
都市公園の設置基準 (第3条)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地方公共団体が都市公園を設置する場合、公園の配置及び規模に関する技術的基準について、<b>政令で定める基準から参酌して条例で定める基準に適合</b>するように行う。</li> <li>• 都市緑地法（第4条第1項）に規定する基本計画（以下、「緑の基本計画」とする。）が定められた区域内において、地方公共団体が都市公園を設置する場合、<b>都市公園の設置は、上記のほか、緑の基本計画に即して行うよう努めるものとする。</b></li> </ul>
公園施設の設置基準 (第4条)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公園施設として設ける<b>建築物</b>の建築面積（総計）の割合は、都市公園の敷地面積に対して、<b>地方公共団体の条例（100分の2を参酌して設置）で定める割合を超えてはならない。</b></li> <li>• 上記のほか、公園施設の設置に関する基準は、政令で定める。</li> </ul>
条例又は政令で規定する事項 (第18条)	都市公園法及び都市公園法施行令で定めるもののほか、都市公園の設置及び管理に関し必要な事項は、条例で定める。

○地方自治法 第244条 公の施設

設置 (第1条)	地方自治の本旨に基いて、地方公共団体の区分並びに地方公共団体の組織及び運営に関する事項の大綱を定め、併せて国と地方公共団体との間の基本的関係を確立することにより、地方公共団体における民主的にして能率的な行政の確保を図るとともに、地方公共団体の健全な発達を保障することを目的とする。
公の施設 (第244条第1項第1号)	普通地方公共団体は、 <b>住民の福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設</b> （これを <b>公の施設</b> という。）を設けるものとする。
公の施設の設置、管理及び廃止 (第244条第2項第1号)	普通地方公共団体は、法律又はこれに基づく政令に特別の定めがあるものを除くほか、 <b>公の施設の設置及びその管理に関する事項は、条例で定めなければならない。</b>

○スケートボード施設の設置・管理等条例

■単独施設としての設置・管理条例の事例

自治体名	条例
広島県尾道市	尾道市スケートボード場設置及び管理条例
福島県福島市	福島市十六沼公園スケートボードパーク条例
大阪府松原市	松原市スポーツパークまつばら条例
新潟県村上市	村上市スケートボード施設条例
和歌山県	わかやまスケートパーク設置及び管理条例
茨城県笠間市	笠間芸術の森公園スケートパーク管理条例

■スケートボード施設を含む施設を対象とした公の施設の設置・管理条例及び都市公園条例の事例

対象施設	自治体名	条例
スケートボード リンク	北海道三笠市	ファミリーランドみかさ遊園設置条例
	福岡県築上町	築上町農業公園条例
スケートボード パーク	宮城県仙台市	仙台市スポーツ施設条例
	茨城県坂東市	坂東市緑のスポーツ広場の設置及び管理等に関する条例
	千葉県成田市	成田市都市公園条例
	京都府八幡市	八幡市都市公園条例
	大阪府姫路市	堺市公園条例
	兵庫県姫路市	姫路市体育施設条例
	奈良県田原本町	田原本町立体育館条例
	島根県隠岐の島町	隠岐の島町都市公園設置及び管理条例
	スケートボード 場	千葉県浦安市
東京都品川区		品川区立公園条例
石川県金沢市		金沢市体育施設条例
和歌山県岩出市		岩出市民スポーツ広場設置及び管理条例
鳥取県鳥取市		鳥取市多目的スポーツ広場の設置及び管理に関する条例
岡山県奈義町		奈義町総合運動公園条例
広島県東広島市		東広島市都市公園条例
福岡県		福岡県都市公園条例
長崎県諫早市		諫早市スポーツパークいさはや条例
大分県日田市		日田市公園条例
沖縄県南風原町		南風原町都市公園条例
スケートボード 広場		京都府亀岡市
	福岡県中間市	中間市遠賀川河川敷市民グラウンドの設置及び管理に関する条例
スケートパーク	山形県	山形県都市公園条例
	埼玉県加須市	加須市公園条例
	埼玉県鴻巣市	鴻巣市都市公園条例
	埼玉県三郷市	三郷市都市公園条例
	千葉県千葉市	千葉市都市公園条例
	千葉県市原市	市原市都市公園条例
	東京都八王子市	八王子市都市公園条例
	新潟県南魚沼市	南魚沼市小栗山サンスポーツランド条例
	福井県	ふくい健康の森の設置および管理に関する条例
	岐阜県中津川市	中津川市都市公園条例
	三重県松阪市	松阪市総合運動公園運動施設条例
	鳥取県	八頭町公園条例
	広島県尾道市	尾道市向島運動公園条例、

	広島県三次市	三次市都市公園設置及び管理条例
	高知県四万十市	四万十市都市公園条例
	熊本県芦北町	芦北町芦北海浜総合公園条例
スケート場	東京都渋谷区	渋谷区立都市公園条例
スケートボード の利用	青森県平川市	平川市河川広場管理条例
	福島県二本松市	二本松市スカイピアあだたら条例
	長崎県五島市	五島市玉之浦カントリーパーク条例、五島市宮の森総合公園条例

○広場等設置・管理条例

■禁止行為として明記されている事例

対象施設	自治体名	条例
駅前広場	茨城県水戸市	水戸市駅前広場における安全で快適な環境の確保に関する条例
	栃木県栃木市	栃木市駅前広場等迷惑行為防止条例
	神奈川県藤沢市	藤沢市藤沢駅前広場条例
	神奈川県海老名市	海老名市海老名駅西口特定公共施設設置条例
	山梨県大月市	大月駅前広場道路附属施設の設置及び管理に関する条例
	山梨県北杜市	北杜市小淵沢駅前広場条例
	山梨県甲斐市	甲斐市駅前広場の設置及び管理に関する条例
	山梨県上野原市	上野原駅南口駅前広場条例
	愛知県新城市	新城市新城駅前広場の設置及び管理に関する条例
	山口県周南市	周南市徳山駅前広場等条例
自由通路	茨城県取手市	取手駅西口歩行者経路の設置及び管理に関する条例
	茨城県笠間市	笠間市自由通路の設置及び管理に関する条例
	埼玉県入間市	入間市武蔵藤沢駅自由通路設置及び管理条例
	埼玉県日高市	武蔵高萩駅自由通路条例
	埼玉県毛呂山町	毛呂山町武州長瀬駅自由通路条例
	埼玉県越生町	越生町越生駅自由通路条例
	東京都中野区	中野区東中野駅自由通路条例
	神奈川県海老名市	海老名市海老名駅自由通路設置条例
	山梨県甲斐市	竜王駅南北自由通路の設置及び管理に関する条例
	岐阜県可児市	可児駅東西自由通路の設置及び管理に関する条例
	奈良県奈良市	JR奈良駅東西自由通路等の設置及び管理に関する条例
	山口県山口市	新山口駅南北自由通路設置及び管理条例
	山口県周南市	周南市徳山駅南北自由通路条例
	福岡県久留米市	JR久留米駅東西自由通路条例
	長崎県諫早市	諫早市諫早駅自由通路条例
広場	北海道札幌市	札幌市北3条広場条例
	岐阜県下呂市	下呂市湯けむり広場条例
	静岡県浜松市	浜松市新川モール条例
	愛知県刈谷市	みなくる広場条例
	佐賀県鳥栖市	鳥栖駅西広場条例
	熊本県熊本市	くまもと街なか広場条例

■スケートボードの使用を禁止行為として明記していない一般的な例

自治体名	金沢市
条例・規則	金沢市駅前広場条例
禁止行為 (第7条の3) (抜粋)	駅前広場においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。 (4) 前3号に掲げるもののほか、駅前広場の利用及び管理に支障のある行為をすること。

○都市公園条例

■禁止行為として明記している事例

自治体名	千葉県芝山町
条例・規則	芝山町公園の設置及び管理に関する条例
行為の禁止 (第5条) (抜粋)	公園においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、第16号に掲げるものについて町長の許可を受けた者が当該許可に係る行為をするときは、この限りでない。 (10) 調整池で釣り若しくは水遊びをし、又は公園内でスケートボード、ローラースケート等をすること。

■禁止行為として明記していない一般的な例

自治体名	大阪市
条例・規則	大阪市公園条例
行為の禁止 (第3条) (抜粋)	1. 都市公園においては、何人も、みだりに次の各号に掲げる行為をしてはならない。 (1) 都市公園を損傷し、又は汚損すること (9) 他人に危害を及ぼすおそれのある行為をすること
罰則 (第27条) (抜粋)	次の各号のいずれかに該当する者は、50,000円以下の過料に処する。 (1) 第3条(第17条において準用する場合を含む。)の規定に違反した者

## 5. 県・市の上位関連計画及び主要プロジェクトの整理

○新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（令和4年5月）

計画期間	令和4年度（2022年度）～令和13年度（2031年度）の10年間
計画の目標	沖縄県の自立的発展と県民一人ひとりが豊かさを実感できる社会の実現
施策展開の基本的指針	「安全・安心で幸福が実感できる島」の形成
施策展開の基本方向	<p>(1) 平和で生き生きと暮らせる「誰一人取り残すことのない優しい社会」の形成</p> <p>(2) 世界とつながり、時代を切り拓く「強くしなやかな自立型経済」</p> <p>(3) 人々を惹きつけ、ソフトパワーを具現化する「持続可能な海洋島しょ圏」の形成</p>
基本施策（抜粋）	<p>3 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して</p> <p>(9) 世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」の形成</p> <p>ア スポーツ関連産業の振興と地域の活性化</p> <p>① スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成</p> <p>スポーツコンベンションの誘致・開催に取り組みます。</p> <p>‘スポーツ・健康×観光’といった沖縄のソフトパワーを活用した高付加価値コンテンツの開発を促進するとともに、スポーツ医・科学拠点形成等の環境整備に取り組みます。</p> <p>地域・観光交流拠点となるスポーツ関連施設の整備・充実や老朽化・耐震化対策等を推進するとともに、スポーツ交流の受入拠点の充実に取り組みます。</p> <p>③ スポーツ資源を活用したまちづくり</p> <p>スタジアム・アリーナ、県内プロスポーツチーム及びトップアスリート等の地域資源を活用したまちづくりを進めるとともに、スポーツ関連団体やアスリート、地域企業等の共働による新たな製品・サービスの創出に向けた取組、子どもの居場所づくりへの支援など多様な社会課題の解決やスポーツを通じた国際貢献を促進します。</p> <p>児童生徒をはじめとする県民がスポーツと接する機会やトップアスリートと交流する機会の創出に取り組みます。</p> <p>イ 県民等が主体的に参画するスポーツ環境の整備</p> <p>① スポーツ・レクリエーション施設及び関連基盤の整備・充実</p> <p>各種スポーツコンベンションに対応した施設の整備・充実を推進します。</p> <p>県民、観戦者等が簡易的かつ効果的にスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことができるよう、スポーツ関連施設におけるICTの活用導入に取り組みます。</p> <p>公共スポーツ・レクリエーション施設等の整備・充実と適切な管理・運営や学校体育施設の有効活用に取り組みます。</p> <p>③ 県民一人ひとりが参加する生涯スポーツの推進</p> <p>スポーツコンベンションの推進と県民がスポーツをする機会の充実をバランスよく進めることができるよう、スポーツを活用した施策として、地域外からの交流人口の拡大を推進するアウトター施策と地域住民向けの健康維持増進や共生社会等の実現を推進するインナー施策の双方に取り組みます。</p> <p>4 世界に開かれた交流と共生の島を目指して</p> <p>(2) 沖縄を結び目とするグローバルな交流ネットワークの形成</p> <p>ウ 多元的な交流の推進</p> <p>① 観光交流、経済交流等の推進</p> <p>観光交流については、アジア諸国や欧米を中心に誘客活動を推進するほか、</p>

	太平洋・島サミットなど沖縄開催の意義を示すことができる分野のMICEやスポーツコンベンション等の積極的な誘致に取り組みます。
県土のグラ ンドデザイ ンと圏域別 展開 (抜粋)	<p>3 圏域別展開 (1) 北部圏域 【展開の基本方向】</p> <p>ウ 観光振興及び歴史文化の継承・発展 ① 自然環境等を生かした観光振興 「<u>スポーツアイランド沖縄</u>」の形成に向けては、プロスポーツチーム等がキャンプやトレーニングを行う受入地域としての知名度や各種スポーツイベント等を活用したスポーツツーリズムを推進するとともに、スポーツ指導者等の人材育成も含めた環境整備を促進します。</p> <p>オ 持続可能なまちづくりの推進 ① まちづくりの推進 本圏域の拠点都市である名護市では、郊外に大型商業施設が立地し、住宅地の整備も進んでいる一方で、中心市街地では空き店舗が目立つ等の問題があることから、<u>中心市街地に隣接する名護漁港、21世紀の森公園の魅力創造を図りながら、鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入、スポーツコンベンションの推進など、若者が定着する魅力に満ち、活力に富んだ個性豊かなまちづくりを促進します。</u></p>

○第6次沖縄県観光振興基本計画（令和4年7月）

計画期間	令和4年度（2022年度）～令和13年度（2031年度）
目指す将来像／VISION	世界から選ばれる持続可能な観光地 -世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」-
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和で生き生きと暮らせる県民、観光事業者、観光客の全てが幸せな三方よしの社会</li> <li>・世界とつながり、時代を切り拓く「強くしなやかな自立型経済の構築」</li> <li>・人々を惹きつけ、ソフトパワーを具現化する「持続可能な海洋島しょ圏」の形成</li> </ul>
施策展開 (抜粋)	<p>(3)沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進 キ：スポーツツーリズムの推進 本県の地理的・自然的条件とスポーツ資源を有効に活用し、スポーツ交流拠点としての国際的なブランド力の向上と既存産業の連携強化によるスポーツを核とした新産業の創出、スポーツを活用したまちづくりを推進する。</p> <p>【施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを核とした新たな産業の創出とグローバル展開</li> <li>・<u>スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成</u></li> </ul>
圏域・テーマ別の施策展開 (抜粋)	<p>(1)北部圏域 【施策の方向性】 「<u>スポーツアイランド沖縄</u>」の形成に向けて、プロスポーツチームや実業団チーム等がキャンプやトレーニングを行う受入地域としての知名度や<u>各種スポーツイベント等を活用したスポーツツーリズムを推進するとともに、スポーツ指導者等の人材育成も含めた環境整備を促進する。</u></p>

○第2期沖縄県スポーツ推進計画（素案）（令和4年2月）

計画期間	令和4年度（2022年度）～令和8年度（2026年度）の5年間
基本理念	<p><b>世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」の形成</b>  「スポーツアイランド沖縄」とは沖縄の特性を活かした本県におけるスポーツ振興のコンセプトであり、以下の①～③が実現できているとともに、④の状態になっていることを言います。</p> <p>① 県民が健康・長寿であるため生涯を通してスポーツを楽しむこと  ② 国内外で活躍するトップアスリートを輩出すること  ③ 我が国の南端のスポーツ交流拠点として年間を通じたスポーツコンベンションが開催されること  ④ 沖縄の地理的特徴や恵まれた自然・温暖な気候、特色ある地域・文化・産業とスポーツを関連づけ、スポーツの持つソフトパワーを活用することにより、地域・経済の活性化につながる取り組みが全県的に行われていること</p>
施策展開（抜粋）	<p>I 施策展開「県民等が主体的に参画するスポーツ環境の整備」  施策1 「県民一人ひとりが参加する生涯スポーツの推進」  施策2 「県民の競技力向上・スポーツ活動の推進」  施策3 「スポーツ・レクリエーション施設及び関連基盤の整備・充実」</p> <p>II 施策展開「スポーツ関連産業の振興と地域の活性化」  <b>施策1 「スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成」</b>  施策2 「スポーツを核とした新たな産業の創出とグローバル展開」  施策3 「スポーツ資源を活用したまちづくり」</p>
具体的な取り組み（抜粋）	<p>II 施策展開「スポーツ関連産業の振興と地域の活性化」  施策1 「スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成」  <b>施策1-1 「スポーツコンベンションの誘致・開催」</b></p> <p>✓ <b>スポーツコンベンションの誘致</b>  国際大会誘致やアジア等で開催される大会の事前合宿を視野にスポーツコンベンションの誘致を進めるため、受入希望市町村やスポーツコミッション等と連携し、スポーツキーパーソンの招聘や合宿実証等に取り組みます。</p> <p>✓ <b>スポーツコミッションを活用した合宿等誘致</b>  スポーツコンベンションの拡大発展を図るため、多種多様な競技、実業団、大学、高校等の様々な団体のスポーツキャンプ・合宿等の誘致に向け、<b>スポーツコミッションにおけるワンストップ窓口での問い合わせ対応など、スポーツを目的とした来訪者の利便性向上に資する取り組み</b>を行います。</p> <p>✓ <b>市町村や競技団体と連携した大会誘致</b>  各種競技の全国大会や九州地区大会など、市町村や競技団体と連携して大会の誘致を行います。</p> <p>✓ <b>スポーツイベント開催への支援</b>  スポーツを通じた県外、海外からの観光誘客を推進するため、<b>県内におけるスポーツイベントの創出を図り、定着化、自走化に向け支援</b>を行います。併せて、<b>スポーツイベントをマネジメントすることができる人材の育成</b>に取り組みます。</p> <p>✓ <b>合宿受入・交流を通じた地域活性化</b>  プロスポーツ、実業団、大学等のキャンプ、合宿の受け入れを推進することで、<b>地域の児童生徒、アスリートとの交流を図り、地域の活性化</b>を推進します。</p> <p><b>施策1-2 「スポーツツーリズムの推進」</b></p> <p>✓ <b>サイクルツーリズムの推進</b>  サイクリストの受け入れ環境（ゲートウェイ、休憩施設、宿泊、食事等）の充実を図るとともに、公共交通との連携などソフト面の充実を図り、サイクルツーリズムを推進してまいります。また、沖縄のサイクルルートの付加価値向上を図るため、案内看板等走行環境やサイクルステーション等の受入環境の構築支援などナショナルサイクルルートの指定に向けた取り組みを進めます。</p>

	<p>✓ <b>沖縄の自然環境や地理的優位性を活かしたスポーツの推進</b>          沖縄の自然環境や地理的優位性を活かした競技であるカヌー、セーリング、ボート、トライアスロン、自転車やマリンスポーツ、スポーツアクティビティ等をスポーツツーリズムの重要な資源と位置付け、誘客の促進を図るとともに、競技人口の拡大を図ります。</p> <p><b>施策1-3 「地域・観光交流拠点となるスポーツ関連施設の整備・充実」</b></p> <p>✓ <b>インナー施策とアウトナー施策の双方に対応した施設・設備の充実</b>          県民がスポーツをする機会の充実を図るとともに、一年を通じて温暖な気候やアジア諸国に近接する沖縄の特性を活かした各種スポーツコンベンションに対応するため、「スポーツアイランド沖縄」にふさわしい施設の整備・充実を図り、インナー施策とアウトナー施策の双方に適應できるよう取り組みます。</p> <p>✓ <b>公共スポーツ施設設備改善アドバイザーの活用</b>  <b>スポーツコミッション沖縄の公共スポーツ施設設備改善アドバイザー事業を活用</b>し、スポーツ施設の新設及び改修、又は既存施設の備品交換等を計画している市町村に対し競技団体等から選定したアドバイザーを派遣し、より質の高い競技環境にする為の助言を行います。</p>
--	--

○第5次沖縄県国土利用計画（平成30年2月）

計画期間	平成27年～平成39年（令和9年）
県土利用の基本方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適切な県土管理を実現する県土利用（県土管理）</li> <li>2. 自然環境・美しい景観等を保全・再生・活用する県土利用（自然共生）</li> <li>3. 安全・安心を実現する県土利用（防災・減災）</li> <li>4. 駐留軍用地跡地利用の推進（跡地利用）</li> <li>5. 沖縄21世紀ビジョン基本計画の推進に資する県土利用</li> </ol>
地域別の概要（抜粋）	<p>ア北部地域</p> <p>リゾート施設や国際コンベンション施設が立地する西海岸においては、観光・リゾート機能の充実を図り、<b>名護湾沿いに良好な沿道景観の創出など観光軸の強化を推進します</b>。また、名護東道路等のハシゴ道路をはじめとする幹線道路ネットワークの整備により、高次都市機能が集積した名護市の中心市街地やその周辺地域との広域交流・広域連携を促進し、適切な機能分担を図ります。さらに、自立経済の発展を支える物流基盤の強化を図るとともに、大型クルーズ船の接岸可能な港湾施設と周辺施設の整備を進めます。</p>



○第5次名護市総合計画（令和2年3月）

総合計画の構成と期間	「総合計画」は、以下で構成されている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想（計画期間：令和2（2020）年度-令和11（2029）年度の10年間）</li> <li>基本計画（前期）（計画期間：令和2（2020）年度-令和6（2024）年度の5年間）</li> <li>基本計画（後期）（計画期間：令和7（2025）年度-令和11（2029）年度の5年間）</li> <li>地域別計画（計画期間：令和2（2020）年度-令和11（2029）年度の10年間）</li> <li>実施計画（計画期間：3年間（毎年度策定））</li> </ul>
まちづくりのテーマ	つなぎ、創る・しなやかな未来
基本理念	共生『人、自然、地域が共に手を取りあうまち』 自治『わたしがわたしらしく輝きはばたけるまち』 協働『様々な領域を越えて集まり大きく響きあうまち』
基本方針	基本方針1 支え合いのあるまちづくり【健康・福祉】 基本方針2 育みと学びのあるまちづくり【子育て・教育】 基本方針3 楽しみのあるまちづくり【文化・交流】 基本方針4 活力のあるまちづくり【産業振興】 基本方針5 暮らしやすいまちづくり【都市基盤・生活環境】 基本方針6 安全・安心なまちづくり【防災・安全】 基本方針7 基地問題への対応 【全体を支えるための体制づくり】
土地利用構想	1 豊かな自然生態系と共生する土地利用 2 都市機能の集約と農村地域の発展 3 土地利用の規制・誘導
基本計画各論（抜粋）	基本方針3 楽しみのあるまちづくり【文化・交流】 <b>施策3 スポーツ・レクリエーション活動の充実</b> いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも気軽に生涯スポーツに親しむことができる社会の実現を目指すとともに、スポーツを通じて市民に夢・希望・勇気・感動を与え、各競技レベルの向上につながるスポーツ環境の整備に取り組みます。 <u>また、スポーツを取巻く環境の変化への対応や、スポーツ大会や合宿等の誘致をはじめとしたスポーツコンベンションによる経済活動の促進など、関係各課が一体となって「スポーツのまち・なご」を推進します。</u>

○名護市スポーツ推進計画（平成27年3月）

目標年次	平成27年度から平成36年度までの10年後とする。
基本理念	『いつでも どこでも だれでも そしていつまでも 気軽にスポーツに親しむあけみおのまち・なご』
基本目標	スポーツ推進に関する基本理念や基本方針、具体的な施策を策定し、かつ推進することで競技力の向上、市民の健康増進及び体力維持、そして明るく豊かな活力ある市民生活の形成に向けて取り組むこと。
基本方針	<u>トップアスリートを育成・輩出することで市民に夢・希望・勇気・感動を与え、生涯スポーツの推進により市民の健康増進や体力の維持向上を図るとともに地域コミュニティの活性化に繋げ、さらに、スポーツイベント等の開催・誘致（スポーツコンベンション）による経済活動を促進し、「スポーツのまち・なご」を目指し取り組む。</u> （1）生涯スポーツの充実 （2）競技スポーツの推進 （3）子どもたちのスポーツ活動の支援 （4）指導者の育成 （5）スポーツ施設の整備拡充
基本施策 具体的施策	2 競技スポーツの推進 ○関係部局（観光担当、公園施設担当等）や名護市体育協会と連携し、プロスポー

(抜粋)	<p>ツ公式戦、国際競技大会、全国大会、九州大会等の誘致・開催に取り組み、<u>スポーツコンベンション活動を推進</u>する。</p> <p><b>3 子どもたちのスポーツ活動の支援</b></p> <p>○<u>地域イベント等を活用し、スポーツ体験教室などを開催することで子どもたちが気軽にスポーツに親しむ環境づくりに取り組んでいく</u>。また、子どもたちのスポーツ活動については、活動時間の問題や学習時間の確保など保護者の理解と協力が必要となっている。そこで、講演会の開催や保護者が集まる場所での周知、また、学校を通して保護者へお知らせ文を配布するなど、幅広く取り組んでいく。</p>
------	---

○第2次名護市観光振興基本計画（令和2年3月）

計画期間	令和2年度（2020年度）～令和6年度（2024年度）の5年間
基本理念	自然とまちが融合した魅力あふれる“やんばる観光の拠点・名護” ～人と豊かな自然・文化を活かし、訪れた人の心と地域を豊かにする、活力ある協働の地域づくり～
基本方針	<p>基本方針1 名護市内への滞在促進</p> <p>基本方針2 様々な観光客の受け入れ体制充実</p> <p>基本方針3 マーケティング・プロモーションの充実</p> <p>基本方針4 観光振興の推進体制の確立・強化</p>
施策展開 (抜粋)	<p><b>2 様々な観光客の受け入れ体制充実</b></p> <p>(3) 様々な観光客の受け入れ環境の充実</p> <p><b>スポーツツーリズム（サイクリング・スポーツ合宿等）やMICE、ビジネス客等様々な観光客の受け入れ環境の充実を図ります。</b></p>

○名護市みどりの基本計画（平成25年3月）

計画期間	平成26年度～令和4年度																
基本理念	市民・事業者・行政の協働により、みどりを守り、創り、育て、活かす																
みどりの将来像	やんばるの豊かな自然が育む 水、花、緑と笑顔があふれるまち 名護																
	<p>■みどりの将来像図</p> <p>凡例</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>自然豊かな山並み</td> </tr> <tr> <td></td> <td>身近な緑としての農地</td> </tr> <tr> <td></td> <td>緑や花にあふれた市街地や集落</td> </tr> <tr> <td></td> <td>みちの緑</td> </tr> <tr> <td></td> <td>まちの緑</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水辺の緑</td> </tr> <tr> <td></td> <td>緑の拠点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水辺の拠点</td> </tr> </table>		自然豊かな山並み		身近な緑としての農地		緑や花にあふれた市街地や集落		みちの緑		まちの緑		水辺の緑		緑の拠点		水辺の拠点
	自然豊かな山並み																
	身近な緑としての農地																
	緑や花にあふれた市街地や集落																
	みちの緑																
	まちの緑																
	水辺の緑																
	緑の拠点																
	水辺の拠点																

基本方針	<p>(1) 貴重なみどりを守ろう</p> <p>(2) 身近なみどりを充実させよう</p> <p>(3) 拠点となるみどりを創ろう</p> <p>(4) 水と緑をつなごう</p> <p>(5) みどりを共に創ろう</p> <p>(6) みどりを活かしたまちづくりを進めよう</p>
計画推進のための施策 (抜粋)	<p>(3) 拠点となるみどりを創ろう</p> <p>1) シンボルとなる公園の整備</p> <p>②スポーツの拠点となる公園の整備 野球場やサッカー・ラグビー場等のさまざまなスポーツ施設を併設する総合公園(21世紀の森)は、市民のスポーツの拠点となる公園として、さらなる整備を推進します。</p>

○第2期名護市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン総合戦略(令和4年3月)

計画期間	総合戦略：2022(令和4)年度～2024(令和6)年度の3年間 人口ビジョン対象期間：2045(令和27)年まで
人口の将来展望	令和7(2025)年に6万5千人超を目指します。
基本目標	<p><b>基本目標1</b> 安心して働ける活力あるまちをつくる【産業振興、雇用・就労】</p> <p><b>基本目標2</b> 暮らしやすく安全・安心な環境をつくる【都市基盤、生活環境、安全・安心、防災・救急】</p> <p><b>基本目標3</b> 誰もがいきいきと暮らせる支え合いのある地域をつくる【健康・福祉】</p> <p><b>基本目標4</b> 安心して子育てができる環境をつくる【子育て・教育】</p> <p><b>基本目標5</b> 楽しみのあるまちづくりによって人々の繋がる場をつくる【文化・交流、関係人口、人権・多様性】</p> <p><b>横断的目標</b> 新しい時代の流れを力にして、持続可能な地方創生を推進する【行政サービス、財政基盤、循環型社会、移住・定住】</p>
総合戦略	<p><b>基本目標1</b> 安心して働ける活力あるまちをつくる</p> <p>基本方針(1)観光の振興</p> <p><b>⑤スポーツコンベンションの推進【観光課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21世紀の森公園内に、スポーツコンベンションの核施設となるサッカー・ラグビー場を整備します。</li> <li>・スポーツ合宿等の誘致を促進し、観光閑散期の観光振興を図ります。</li> </ul> <p><b>基本目標5</b> 楽しみのあるまちづくりによって人々の繋がる場をつくる</p> <p>基本方針(3)スポーツ・レクリエーション活動の充実</p> <p>①生涯スポーツの充実【文化スポーツ振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名護市スポーツ推進委員及びスポーツ審議会と連携して、市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。</li> <li>・地域のスポーツ振興を担う名護市スポーツ推進委員の資質向上に努めます。</li> </ul> <p>②夢を育む競技スポーツの推進【文化スポーツ振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アスリートを招聘したスポーツ教室等を開催する等、特に子ども達が夢を持ってスポーツに取り組めるよう、スポーツの楽しさや達成感を実感できる環境づくりに取り組みます。</li> </ul> <p>③スポーツ施設の整備拡充【文化スポーツ振興課】【維持課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21世紀の森体育館、名護市陸上競技場、名護市B&amp;G海洋センタープール、真喜屋運動広場、羽地ダム、多目的広場など、名護市が管理するスポーツ施設を利用者が安心して安全に使用できる環境づくりに取り組みます。</li> <li>・新たにスポーツ拠点施設及び武道場整備に向け取り組みます。</li> </ul>

	<p><b>横断的目標</b> 新しい時代の流れを力にして、持続可能な地方創生を推進する基本方針（１）時代に即した質の高い行政サービスの提供</p> <p><b>①行政が担うべき役割の重点化と民間活力の活用【振興対策室】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的で無駄のない財政運営と行政運営を達成するため、民間の知恵、ノウハウ、資金等の活用を目的に民間からの提案を受け付け、実行するための一元的な窓口を設置します。</li> </ul>
--	--

○名護市地域公共交通計画（令和4年3月）

計画期間	2022（令和4）年度から2029（令和11）年度までの8年間
基本理念	<p>～持続可能な公共交通体系の実現～</p> <p>沖縄北部の拠点都市として、交通の玄関口の役割を担い、あらゆる世代の市民の移動、観光客の交流を促す持続可能な公共交通体系を実現します</p>
基本目標	<p>①「持続可能な公共交通サービスの提供」</p> <p>②「誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの実現」</p> <p>③「市街地の利便性向上による賑わい創出」</p> <p>④「北部地域観光に寄与する公共交通ネットワークの実現」</p>
目標を達成するための施策（抜粋）	<p><b>3.2 各施策の概要</b></p> <p>基本目標④「<u>北部地域観光に寄与する公共交通ネットワークの実現</u>」</p> <p>目標④-1 観光客の公共交通利用の利便性を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シェアリングサービスの導入・推進</li> <li>・観光施設等のタイアップ施策</li> <li>・<u>観光型MaaSの導入・推進</u></li> <li>・<u>周辺観光施設及び北部テーマパークを周遊する輸送手段の導入</u></li> </ul>
施策の実施イメージ（抜粋）	<p><b>実施する主な施策（中長期）</b></p> <p>①名護漁港周辺エリアの交通結節機能の強化</p> <p>⑤<u>周辺観光施設及び北部テーマパークを周遊する輸送手段の導入</u></p> <p>⑥<u>北部地域全体の観光を支援する輸送手段の導入</u></p>

○名護湾沿岸基本計画（令和3年3月）

<p>各エリアのコンセプト及びその実現に向けた戦略</p>	<p>【21世紀の森公園周辺エリア】          エリアコンセプト：誰もが“健幸”になれる、海と陸のスポーツ&amp;レクリエーション拠点～公園でのアクティビティを通して市民も来訪者も健康で幸せになれる拠点となる～</p> <p>①【誰もが“健幸”】誰もが名護湾沿岸でのスポーツや健康づくりに親しみ、健康で幸せ（健幸）になれる場を充実させる。</p> <p>②【滞在の魅力向上】名護湾周辺のロケーションや資源を楽しむ時間を過ごせる場を提供し、来訪・定住の魅力を高める。</p> <p>【名護漁港周辺エリア】          エリアコンセプト：まちなかの賑わいを生み出す、やんばるの生活・観光拠点～市民の生活利便性を高め、来訪者が観光地を巡る拠点となる～</p> <p>③【市街地活性化】まちなかの資源を活かし、名護湾沿岸と連携することで中心市街地を活性化させる。</p> <p>④【生活・観光拠点の形成】名護湾沿岸へのアクセス手段と市内の回遊手段の充実により、生活拠点及びやんばるの観光拠点としての地位を確立する。</p>
<p>土地利用整備計画（抜粋）</p>	<p>短期 （5年以内）</p> <p>1)21世紀の森公園周辺エリア          ■スポーツゾーンの整備推進          サッカー・ラグビー場の整備をはじめとして、<u>スポーツコンベンションの場の充実に向けた整備を進めるとともに、スポーツ交流拠点施設の整備による機能強化を進めます。</u>また、総合運動公園化の要望もあることから、武道施設建設候補地の一つとして検討を進めます。</p> <p>2)名護漁港周辺エリア          ■市内の回遊手段の充実に向けた取組          2020年度（令和2年度）に引き続き、本市内を結ぶコミュニティバスの実証実験を実施し、その成果を踏まえ、本格運行に繋がります。</p> <p>長期 （11年以降）</p> <p>1)21世紀の森公園周辺エリア          ■名護湾沿岸の新たな滞在・観光拠点          市役所庁舎・市民会館の建物又は跡地活用の検討をもとに、21世紀の森公園と連携した本市の新たな顔となるレクリエーション機能の整備を進めます。</p> <p>■21世紀の森体育館の更新検討          更新時期の近づく21世紀の森体育館について、更新の検討に着手します。</p> <p>2)名護漁港周辺エリア          ■交通結節機能の充実・物産拠点の整備          引き続き、名護漁港周辺エリアが、やんばるの生活・観光拠点となるよう、中心市街地等と連携した施設整備を進めます。</p>

○沖縄県スポーツコンベンション誘致戦略（平成27年3月）

目的	沖縄県全体としてのミッション ～スポーツコンベンションの拡大発展による地域活性化～
理念	「スポーツによる新たな経済効果と地域活性を産み出す」
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ウェルカムポリシー「沖縄ならではのおもてなし」の合意形成</li> <li>■継続的な誘致活動と接点の構築</li> <li>■スポーツコンベンションに資する情報の集約と発信</li> <li>■<b>スポーツコンベンション受入環境の整備</b></li> </ul>
今後の取組案（抜粋）	<p style="text-align: center;">受入に関するアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①情報集約と共有（市町村・競技ごとの課題解決） <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村及び競技団体の連絡会議の設置</li> <li>・スポーツコミッション沖縄による県外の先進的な事例の紹介や、県内の各機関で培った受入ノウハウ共有</li> <li>・沖縄県における市町村、競技団体の個別事例課題の共有及び課題に応じた支援メニューの検討</li> <li>・競技施設を有する市町村と宿泊施設を有する市町村との連携によるコンベンション誘致・受入の推進（広域連合化）や、各市町村における誘致強化競技の整理</li> </ul> </li> <li>②県内広報（県民一体となった受入意識の醸成） <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村等によるアスリートと触れ合う機会や大会に参加する機会づくり</li> </ul> </li> <li>③人材育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村や競技団体、民間企業を対象とした研修・セミナーの実施</li> <li>・<b>各市町村でのスポーツコミッション設立支援</b></li> <li>・スポーツボランティアの育成やスポーツ指導員の活用</li> </ul> </li> <li>④受入環境整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村等による施設及び競技ごとに必要なトレーニング器具の整備</li> <li>・県や市町村等による維持・管理等の継続的なシステムづくりの検討</li> <li>・<b>スポーツコミッション沖縄による競技間及び市町村間のスポーツコンベンション受入を踏まえた施設利用調整の仕組みづくり</b></li> </ul> </li> </ul>
	<p style="text-align: center;">誘致に関するアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥スポーツコンベンション主催者との接点づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・キーパーソン人材とのパイプづくり</li> </ul> </li> <li>⑦情報発信（プロモーション） <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツコミッション沖縄によるスポーツコンベンションに係る市町村・団体・支援メニュー等の集約</li> </ul> </li> <li>⑨<b>各種支援メニューの整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業を通じた、支援メニューの検討</li> <li>・沖縄県における支援メニューの整備</li> <li>・<b>市町村における支援メニューの整備</b></li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;支援基準の設定&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①経済的効果、②知名度の向上、③競技力の向上</li> </ul>

○北部テーマパーク事業

<p>概要</p>	<p>北部テーマパーク事業は、<u>名護市と今帰仁村にまたがるオリオン嵐山ゴルフ倶楽部が建設予定地となっており、既存のゴルフ場を改修し、自然を活用したテーマパークを再整備する計画。</u></p> <p>令和2年10月に今帰仁村・名護市と株式会社ジャパンエンターテイメントにて包括連携協定を締結。今後は、包括連携協定に基づき、「観光振興・地域活性化」や「交通対策」、「教育・こども育成」、「雇用創出・女性活躍」、「安心・安全」などの分野で連携し、住民サービスの向上と地域の成長、将来的にはやんばるの課題解決につながる取組みに発展させていく。<u>開業時期は2020年代半ばを予定している。</u></p>
<p>参考</p>	<p>■包括連携協定締結（市HPより）</p>  <p>The screenshot shows the Nago City Official Web Site with a navigation menu including 'お知らせ' (Notice), '名護市概要' (Overview), '救急・消防・防災' (Emergency, Fire, Disaster), 'まちづくり' (Town Planning), and 'アクセス' (Access). A search bar and several buttons like '各施設紹介' (Introduction of facilities) are visible. The main content area features a green banner with the headline: '(株) ジャパンエンターテイメントと北部テーマパーク事業に関する包括連携協定を締結しました！' (We have concluded an inclusive cooperation agreement with Japan Entertainment regarding the Northern Theme Park project!). Below the banner, the text states that on October 30, 2020, an agreement was signed with Japan Entertainment, and future cooperation will focus on tourism, education, employment, and safety. It also mentions that the project involves renovating the Orion Arisawa Golf Course and redeveloping it into a theme park, with an opening planned for the second half of the 2020s.</p>



○21世紀の森公園における関連事業

<p>サッカー場 ・ ラグビー場</p>	<p>名護21世紀の森公園内のサッカー・ラグビー場を、スポーツキャンプ、大会等にも対応可能な北部地域の核施設として機能強化するとしており、便益施設と管理棟を整備予定している。</p>
<p>Park-PFI</p>	<p>名護湾の魅力を活かしたまちづくりを進めるため、令和3年3月に策定した名護湾沿岸基本計画において、21世紀の森公園周辺エリアは、「誰もが“健幸”になれる、海と陸のスポーツ&amp;レクリエーションエリア」として位置づけられ、市民の健康づくりやレクリエーションの場としての魅力向上、スポーツコンベンションの場としての機能強化推進を目指している。</p> <p>本市が直営管理する本公園のうち、本基本計画でゾーニングしたレクリエーションゾーン・海のアクティビティゾーンにおいては、P-PFI(公募設置管理制度)を見据えた官民連携による公園整備を目指し、本年度マーケットサウンディングを実施している。</p> <div data-bbox="384 701 1430 1182" data-label="Image"> </div> <p>図 マーケットサウンディング対象エリア</p>



## 6. 県内施設調査結果

○宜野湾市 いこいの市民パーク

調査日：2023年1月19日

### 【スケートボードパークの概要】

質問	主な回答
①施設概要	・ スケート場：1,200 m <sup>2</sup>
②競技者レベルに分けた使い分けの有無	・ 中級初級がフェンスで区別されている。
③夜間利用の有無、設備（照明／防犯カメラなど）、配慮している点など	・ 利用時間：9：00～日没まで（ライトがついたら終了） ・ 屋外施設の場合、雨降り時の利用中止だけでなく、雨降り後のケアまで運営的に難しいため、乾くまで使用禁止にしている。
④イベント等の実施状況（定期教室等も含む）、イベント規模（参加者数、観覧者数など）	・ ムラサキスポーツがイベントを実施することがあり、貸し切り状態になるが、占有料等の支払いではなく、利用者として利用予約をして実施している。同様に、月3回の講習会を実施している。
⑤新型コロナウイルス感染症対策（備品の設置など）	・ 新型コロナ対策で、公園管理事務所に利用届を出してもらっている。
⑥パーク内の設置物（飲料/食料の自動販売機、ごみ箱、防犯カメラなど）	・ ベンチはあるが、屋根はない。
⑦駐車場、駐輪場の有無	・ 公園の駐車場有り。

### 【設備について】

質問	主な回答
①設備配置の工夫点（管理事務所や駐車場の配置等）	・ フェンスは2.5～3 m程度としており、公園は子どもの利用があるため、他の施設との間に安全エリア、フェンスは必要。ボールの飛び出しの防止にもなる。

### 【維持管理・運営】

質問	主な回答
①維持管理の方式（外部委託であればその方式など） ex) 指定管理、業務委託	・ 指定管理方式（共同企業体はごろも PM パートナーズ）
②騒音、振動対策	・ スケートボードは日没までの利用であるため、だいたい19時までとなっており、騒音の苦情はない。 （バスケットは20時までの利用で、ドリブルの音が大きく、苦情がある。）
③事故・ケガの対策（使用ルールの周知、同意書、スポーツ保険・傷害保険加入など）	・ 怪我等の大きなトラブルはない。 ・ 利用のルール有り。

【その他】

質問	主な回答
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は10代～50代、外国人も多い。</li> <li>・他のスポーツとの親和性がある。</li> <li>・コンクリートが剥がれており、軽微な修繕は管理運営者で補修している。</li> </ul>



○奥武山公園・沖縄県立武道館 クライミング  
調査日：2023年1月19日

【クライミング施設の概要】

質問	主な回答
①施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リードクライミング：H：12m W：6m</li> <li>・ボルダリング：H：4m 傾斜：90°、100°、120°</li> </ul>
②競技者レベルに分けた使い分けの有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リードクライミングは有資格者（県の山岳協会発行）のみの利用としている。始めての人には山岳協会を紹介している。</li> </ul>
③夜間利用の有無、設備（照明／防犯カメラなど）、配慮している点など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・照明は運営者で設置したものがある。</li> </ul>
④イベント等の実施状況（定期教室等も含む）、イベント規模（参加者数、観覧者数など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主事業で体験会等は実施している。</li> <li>・週1で山岳協会の講習会有一些ある。（夜間）</li> </ul>
⑤バリアフリーへの対応や景観上の配慮など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルダリング施設を利用するまで、施設内の移動では段差等有り。</li> </ul>
⑥新型コロナウイルス感染症対策（備品の設置など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒、検温等有り。</li> </ul>
⑦駐車場、駐輪場の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の駐車場有り。</li> </ul>

【開園までの流れ】

質問	主な回答
①施設配置案、採用するセクション検討の際に考慮した点（素材、難易度など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設は武道館に後付けで設置。県からの要請により設置した。山岳協会から要望が出されて検討されたかもしれない。</li> <li>・コース設定等は山岳協会に依頼している。</li> </ul>

【設備について】

質問	主な回答
①必要な設備（大会開催を想定した映像・音響設備、Wi-Fi等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルダリングの競技自体がBGM等をかけて行うものではないため、音響設備はない。</li> <li>・基本的に静かな中で集中して実施する競技である。そのため、暑さなど集中力を阻害する要因は好ましくなく、屋外であるが、テント等を自前で準備している。</li> <li>・雨に濡れるとボルトが錆びやすく、マットも非常に高温になるため、屋根がある方がよい。</li> </ul>
②設備配置の工夫点（管理事務所や駐車場の配置等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試合時は所見での競技となるため、都度コース変更を実施するため、競技者の控室が必要である。</li> </ul>

【維持管理・運営】

質問	主な回答
①維持管理の方式（外部委託であればその方式など） ex) 指定管理、業務委託	・ 指定管理方式
②体制（その中でも連盟等競技団体の関わりの有無）	・ 山岳協会に都度アドバイス等を得ている。
③維持管理運営費（可能であれば内訳も） ex) 賃料、保守修繕費、水道光熱費、保険料、消耗品費	・ 利用者自体はそれほど多くなく、他の施設利用による収入の方が多い。 ・ リードもボルトも専門の点検業者が県内にいないため、県外の業者に委託しており、宿泊費用も負担し、3日程度で高額である。
④主要な収入源（利用料金収入、自主事業収入など）	・ 利用料金（子ども90円/回、大人160円/回） ・ シャワールーム等の利用は利用料金に含めている。
⑤施設利用料金以外の収入源の有無 ex) ギアレタル、グッズ販売、飲食	・ 室内履きのシューズなら専用のものでなくてもOKで、貸出もしている。
⑥施設点検の頻度	・ 日常は、山岳協会の方が見て、緩んでいる箇所等の指摘をしてもらう。 ・ メンテナンスとして、定期的にコース変更が望まれる。このため、山岳協会に都度アドバイスをもらう。
⑦事故・ケガの対策（使用ルールの周知、同意書、スポーツ保険・傷害保険加入など）	・ クライミングは、クライマーとビレイヤーのペアで実施するため、一人で実施することはない。 ・ 利用者責任のもと利用してもらっており、大きな懸念事案はない。 ・ 高校生以下は保護者同伴としている。（怪我した時に対応できることが条件としている。）
⑧事故・ケガが発生した場合の責任の所在（自己責任、管理者責任の範疇等）	—

【ツーリズムについて】

質問	主な回答
①本公園における各種大会、合宿の開催状況（規模、時期など）	・ クライミングは、県大会、国体も当該施設で実施している。今のところ競技人口が多くないので、裏の駐車スペースで十分実施できる。

【その他】

質問	主な回答
①現在問題になっている事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨天時は滑る等があり、不向きである。雨降り後はマットをふくなど、対応が必要。</li> </ul>
②その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備は平成 24 年。</li> <li>利用状況としては、学童の子供たち等団体利用がある。土日の利用が多く、親子連れが多い。令和 3 年で 1350 人程度（延べ）。</li> <li>ボルダリングは初めての人に、簡単なレクチャーを実施して後は自由に利用してもらっている。</li> </ul>



○南風原町スケートパーク（花・水・緑の大回廊公園）

調査日：2023年1月19日

【スケートボードパークの概要】

質問	主な回答
①施設概要	・スケートボード場：673.92 m <sup>2</sup>
②競技者レベルに分けた使い分けの有無	・初級者が利用する部分有り。
③夜間利用の有無、設備（照明／防犯カメラなど）、配慮している点など	・利用時間（13：00～21：00）
④新型コロナウイルス感染症対策（備品の設置など）	・コロナ時は人数制限を設けていた。
⑤駐車場、駐輪場の有無	・駐車場有り。

【開園までの流れ】

質問	主な回答
①施設配置案、採用するセクション検討の際に考慮した点（素材、難易度など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリートの方がやりやすいこともあるが、劣化もするので一長一短である。</li> <li>・コンクリートの場合、雨により、表面が削られて、滑らかでなくなると怪我もする。</li> <li>・セクションであれば、セクションで設計が実施されていて、後は配置のバランスの問題となる。</li> <li>・コンクリートの場合は、当初の設計からプロスケーターが入る必要がある。</li> <li>・滑走距離と高さのバランス等はプロスケーターによる検討が必要。</li> </ul>
②利用時間、利用料金の決定方法、保護者および同伴者の料金の扱い（利用者数としてカウントしているか）	・利用時間を22：00までとすると仕事終わりの利用者も利用しやすい。

【設備について】

質問	主な回答
①必要な設備（大会開催を想定した映像・音響設備、Wi-Fi等）	・大会を実施するならば、音響、照明、Wi-Fi等があるとよい。また、クラブハウスのようなシャワールームや更衣室があるとよい。現状はトイレで着替えている。
②設備配置の工夫点（管理事務所や駐車場の配置等）	・管理事務所は各パークの中央部にあった方がよい。運営者の目が行き届く、無断利用を防いだり、けが人の有無等が確認したりしやすい。

【維持管理・運営】

質問	主な回答
①維持管理運営費 (可能であれば内訳も) ex) 賃料、保守修繕費、水道 光熱費、保険料、消耗品費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の施設整備の際に、メンテナンス計画もあると運営しやすい。</li> <li>・経費な修繕は運営者で実施。大きな修繕が必要な場合は市と相談して行うことになっている。</li> </ul>
②施設点検の頻度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常点検は、週2回で管理者が実施。</li> <li>・着地地点など、同一箇所では負荷がかかる頻度が多いため、傷みやすい。</li> <li>・最新の施設では、そういう部分だけコンクリートではなく、衝撃を吸収できる材質で整備しているところもある。</li> </ul>
③騒音、振動対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・騒音の苦情はない。</li> </ul>
④事故・ケガの対策 (使用ルールの周知、同意書、スポーツ保険・傷害保険加入など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前は登録して保険加入をしていたが、発行までに時間がかかるので、怪我は自己責任として、即時登録利用としている。</li> <li>・子どもの夜間利用は保護者同伴としている。</li> </ul>
⑤事故・ケガが発生した場合の責任の所在 (自己責任、管理者責任の範疇等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己責任の範疇としている。</li> </ul>

【ツーリズムについて】

質問	主な回答
④イベント時の配慮事項 (交通渋滞への対応など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合施設としての注意点として、フットサル場でブラインドサッカーを実施している日とスケートボードの大会などは重複しないようにしている。</li> <li>・複数の競技が近接する場合はイベント開催などに配慮が必要。</li> </ul>

【その他】

質問	主な回答
③その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間で延べ3,000人～4,000人の利用がある。</li> <li>・複合施設とする場合は、大会の際など、他の種目の一般利用がしにくい場合もある。(駐車場の不足等)</li> <li>・親和性があるもの、競技種を絞ることも必要かもしれない。</li> <li>・複合施設とする場合、各種目で施設メンテナンスや運営に関するノウハウ等、事業者の専門性が異なることもある。</li> </ul>








## 7. 県外視察先概要

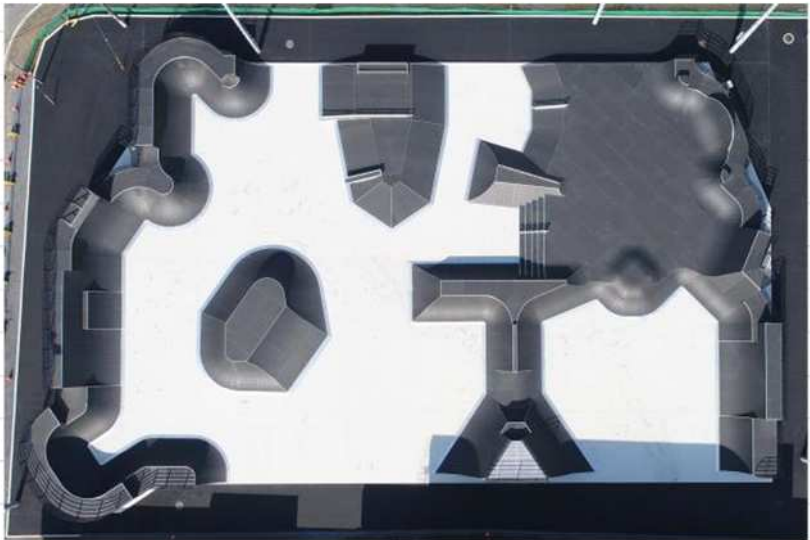
2/20（月） 視察1日目	
公園名	渋谷区立宮下公園
所在地	東京都渋谷区渋谷1-26-5
概要	南北2街区に分かれていた従来の渋谷区宮下公園を「立体都市公園制度」に基づき、地上4階建ての「MIYASHITA PARK」屋上部分に再整備された渋谷区立宮下公園。従来から渋谷ストリートの象徴として親しまれてきたスケート場・ボルダリングウォールに加え多目的運動施設、約1,000㎡の芝生ひろばも整備し、開放感ある空間となっている。
施設面積	全体面積1.27ha（スケート場480㎡）
施設内容	フルコンクリートパーク。スネーク型のボウルとアールのみのセクション構成。タイトで角度もきつ目な造りで、全体的に難易度は高めの上級者向けの環境です。 アール、ボウル
3×3コート有無	無
その他運動施設	ボルダリングウォール、サンドコート
その他施設	カフェ、ショップ
形態	屋外パーク
対応種目	スケートボード、インラインスケート
運営体制	宮下公園パートナーズ
管理部署	渋谷区立宮下公園パークセンター
連絡先	Tel：03-6712-5291 メールフォーム： <a href="https://www.seibu-la.co.jp/park/miyashita-park/contact/">https://www.seibu-la.co.jp/park/miyashita-park/contact/</a>
料金	通常：一般500円/2時間 （渋谷区民）小中学生240円/2時間 時間超過の場合：一般250円/1時間 小中学生120円/1時間
営業時間	9:00～22:00（最終受付21:30）
HP	<a href="https://www.seibu-la.co.jp/park/miyashita-park/">https://www.seibu-la.co.jp/park/miyashita-park/</a>
園内MAP	
視察ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フルコンクリートパーク</li> <li>・スネーク型のボウルとアールのみセクション構成</li> <li>・公園内には、ボルダリングやビーチバレーなどができるエリアがあるほか、スターバックスコヒーがあるなど、人を集めるための工夫がされているなどデザイン性の高い公園</li> </ul>

2/20 (月) 視察1日目	
公園名	夢の島スケートボードパーク
所在地	東京都江東区夢の島1-1
概要	コンクリートベースのパークとなり、きれいで滑らかな路面と、パーチカルランプなども含む14基もの本格的なセクションを備えた充実のパークとなっている。 初心者エリアと中級者エリアに分けられており、幅広いレベルのユーザーが楽しめる構成となっている。
施設面積	敷地面積2,400㎡ (初級エリア650㎡、中級エリア1,450㎡)
施設内容	初心者エリアには、ケヤキセクション、マニュアルパッド、ロングバンク、コーナーバンクの4基のセクションを設置。 中級エリアには、パーチカルランプ、ミニランプ、バンクヒップ、2基のフラットレール、ハンドレール付きステアセクション、レッジマニュアルパッド、こぶセクション、レール付きバンクtoバンク、アールヒップの10基のセクションを設置。 パークの全体的なセクションの難易度は「全般向け」レベル。  ボックス、マニュアル台、カーブ、レッジ、ステア、アール、バンク、フラットレール、ダウンレール、ピラミッド、ランプ、パーチカル、コブ
3×3コート有無	無
その他運動施設	無
その他施設	無
形態	屋外パーク
対応種目	スケートボード
運営体制	江東スポーツ施設運営パートナーズ
管理部署	
連絡先	Tel : 080-7008-9761
料金	1回：一般450円、小・中学生150円 回数券 (11枚綴り)：一般4,500円、小・中学生1,500円 団体利用料金 (9:00~13:00)：37,950円
営業時間	通年：9:00~20:00
HP	<a href="https://www.di-ksp.jp/facility/yumenoshima_s">https://www.di-ksp.jp/facility/yumenoshima_s</a>
園内MAP	<p>The map shows the layout of the park with various sections numbered 1 through 12. It includes a large central area for softball (軟式野球) and several smaller areas for youth baseball (少年野球). There are also icons for parking (P), bicycle parking (バイク置き場), and other amenities. The map is color-coded to show different levels of difficulty and user areas.</p>
視察ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>フルコンクリートパーク</li> <li>初級者、中級者用のエリア分け</li> </ul>

2/20 (月) 視察1日目

公園名	リポビタン for Sports SKY GARDEN by H.L.N.A												
所在地	東京都江東区青海1-1-10 お台場ダイバーシティ東京プラザ7F												
概要	ダイバーシティ東京の屋上に誕生した屋外スケートパーク。 パークは、600㎡ほどのエリアが確保され、種類豊富に多数のセクションが設置されている。セクションも路面も全面が白色にペイントされ、見た目にもおしゃれなパークデザインが特徴となっている。												
施設面積	1,209.65㎡												
施設内容	ボックスやバンク、アール、マニュアルパッド、ランプなどの定番セクションのほかに、初心者も使いやすい低いカーブ&ギャップセクションも設けられている。 また、大きなステージで、ステア、ダウンレール、レッジが3方向に向けて広がっている。 パークの全体的なセクションの難易度は「中級～上級者向け」レベル。  ボックス、マニュアル台、カーブ、レッジ、ステア、アール、バンク、フラットレール、ダウンレール、バンクtoバンク、ピラミッド、ランプ												
3×3コート有無	無												
その他運動施設	無												
その他施設	カフェ												
形態	屋外パーク												
対応種目	スケートボード												
運営体制	H.L.N.A (株式会社HUGE LEVER NEXT AGE)												
管理部署													
連絡先	Tel : 03-5579-6991 (店舗直通)												
料金	大人：¥420/時間 (16才以上)、3時間利用時¥1,260→¥1,050 中人：¥210/時間 (13才～15才)、3時間利用時¥630→¥530 小人：無料 (12才以下) 保護者・同伴者：無料(パーク内入場不可) ※3時間以上の超過は、大人：¥420・中人：¥210/1時間												
営業時間	11:00～21:00												
HP	<a href="https://hlna.jp/skygarden/">https://hlna.jp/skygarden/</a>												
園内MAP	 <p>The map shows the layout of the skate park on the 7th floor. Key areas include:         <ul style="list-style-type: none"> <li><b>HLNA FIELD</b> (スケートボードパーク / スキージャンプ・ストリート・パーク)</li> <li><b>ラウンドワンスタジアム ROUND1 STADIUM</b></li> <li><b>THE GUN DAM BASE TOKYO</b></li> <li><b>Wahoo</b> (カフェ)</li> <li><b>7F</b> (7階) and <b>8F</b> (8階) markers.</li> </ul> </p> <p><b>サービス・カルチャー・その他</b></p> <table border="1"> <tr> <td>スケートパーク</td> <td>HLNA FIELD (スクーター・ボードパーク)</td> <td>03-5579-6991</td> </tr> <tr> <td>車のメンテナンス</td> <td>ラウンドワンスタジアム (車検・オイル交換・タイヤ交換・洗車)</td> <td>03-3527-3161</td> </tr> <tr> <td>カフェ</td> <td>THE GUN DAM BASE TOKYO</td> <td>03-6426-0780</td> </tr> <tr> <td>レストラン&amp;カフェ</td> <td>HLNA FIELD (4Fのジャンプ・パーク)</td> <td>03-6457-1858</td> </tr> </table> <p>※利用いただけません。 ※エスカレーター、エレベーターの停止時間は、乗降時により異なります。※フロアガイドの掲載の停止時間は10:00～21:00のご利用です。</p>	スケートパーク	HLNA FIELD (スクーター・ボードパーク)	03-5579-6991	車のメンテナンス	ラウンドワンスタジアム (車検・オイル交換・タイヤ交換・洗車)	03-3527-3161	カフェ	THE GUN DAM BASE TOKYO	03-6426-0780	レストラン&カフェ	HLNA FIELD (4Fのジャンプ・パーク)	03-6457-1858
スケートパーク	HLNA FIELD (スクーター・ボードパーク)	03-5579-6991											
車のメンテナンス	ラウンドワンスタジアム (車検・オイル交換・タイヤ交換・洗車)	03-3527-3161											
カフェ	THE GUN DAM BASE TOKYO	03-6426-0780											
レストラン&カフェ	HLNA FIELD (4Fのジャンプ・パーク)	03-6457-1858											
視察ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設の屋上を活用したスケートパーク</li> <li>・白色にペイントされたデザインの工夫</li> </ul>												



2/21 (火) 視察2日目	
公園名	境町アーバンスポーツパーク
所在地	茨城県猿島郡境町上小橋560-3
概要	日本初となる世界大会レベルの常設アーバンスポーツ会場。 日本初、360度どの方向からでも進入できるジャンプ台を始め、多数のセクションを設置。 アメリカ・リッチライト社のSkatelite製サーフェースを使用しており、滑りがよく速乾性のため、雨天後でもすぐに競技が可能。
施設面積	縦55m×横35m 延べ1,888㎡
施設内容	広大な敷地にありとあらゆる種類のアイテムが配置され、無数のライン取りが可能。 アイテムはどれもビッグサイズで、スキルが求められるが、上級者であればダイナミックなライディングが可能。 パークの全体的なセクションの難易度は「中級～上級者向け」レベル。  ボックス、カーブ、レッジ、ステア、アール、バンク、ダウンレール、バンクtoバンク、モヒカン、ピラミッド、スパイン、ボウル、コブ
3×3コート有無	無
その他運動施設	無
その他施設	クラブハウス
形態	屋外パーク
対応種目	スケートボード、インラインスケート、BMX、スクーター等
運営体制	ABCプランニング株式会社
管理部署	
連絡先	Tel : 0280-87-5506 Email : sakai-urbansportspark@abcplanning.jp
料金	昼間9:00～17:00 : 一般2,200円、高校生以下1,650円 夜間18:00～21:00 : 一般2,750円、高校生以下2,200円 全日9:00～21:00 : 一般4,950円、高校生以下3,850円
営業時間	9:00～21:00
HP	<a href="https://www.sakai-sports.com/urbansportspark">https://www.sakai-sports.com/urbansportspark</a>
園内MAP	
視察ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界大会レベルのセクション</li> <li>・アメリカ・リッチライト社のSkatelite製サーフェース</li> </ul>

2/21 (火) 視察2日目

公園名	ムラサキパークかさま
所在地	茨城県笠間市笠間2345 ムラサキパークかさま
概要	『笠間芸術の森公園 あそびの杜』の中に誕生した屋外スケートパーク。 屋外、屋内に滑走エリアが設けられたパークで、総面積4,600㎡もの広大な敷地を有し、日本一とも言える規模となる超大型パークとなっている。 国際規模の大会やイベントを開催できる高水準のスケートパーク。
施設面積	パーク面積17,800㎡ (スケート広場4,600㎡)
施設内容	「フラット&ビギナーゾーン」、「ストリートゾーン」、「パークゾーン」「屋内ゾーン」、「ミニボウルゾーン」と5つものエリアがあり、自分のレベルや好きなジャンルを選んで楽しむことができ、初心者から熟練者までが存分に楽しめる充実の環境が整備されている。 ボックス、マニュアル台、カーブ、レッジ、ステア、アール、バンク、フラットレール、ダウンレール、バンクtoバンク、モヒカン、ピラミッド、ランプ、ボウル、コブ、テーブル
3×3コート有無	無
その他運動施設	無
その他施設	ショップ
形態	屋外パーク、屋内パーク
対応種目	スケートボード、インラインスケート、BMX、ストライダー等
運営体制	株式会社ムラサキスポーツ
管理部署	ムラサキパークかさま管理棟
連絡先	Tel : 0296-71-9911
料金	平日 : 一般700円、高校生以下500円 土日祝 : 一般1,100円、高校生以下850円 ※月額、年パス有
営業時間	平日 : 12:00~21:00 土 : 10:30~21:00 日祝 : 10:30~20:00
HP	<a href="https://www.murasaki.co.jp/brand/ridelifemag-murasaki-sports/shop_key/murasaki-park-kasama/38342">https://www.murasaki.co.jp/brand/ridelifemag-murasaki-sports/shop_key/murasaki-park-kasama/38342</a>
園内MAP	
視察ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内パーク</li> <li>・フラット、ビギナーゾーン</li> <li>・広大な敷地で日本一ともいえる規模のパーク</li> </ul>

## 2/22 (水) 視察3日目

公園名	MISSION PARKOUR PARK TOKYO
所在地	東京都江戸川区松江2-27-15
概要	国内最大規模のトレーニングスペース。 江戸川の古い鉄工所をフルリノベーションした大型135坪の施設。ピットやトランポリンなど初心者から競技者まで幅広いレベルに応じた練習を想定した総合型パルクールパークになっている。
施設面積	135坪
施設内容	パルクール専用を用意された多数のオブスタクルス（障害物）、天井に向かってそり上がる壁、3mの高台から飛び込める巨大スポンジピットに海外規格のトランポリン、跳ねるタンブリングフロアまでが完全完備。 反り上がる壁、ソフトヴォルトボックス、レールキット、3m飛び込み台、エバーマット、スポンジピット、トランポリン(トランポリンウォール)、タンブリングフロア(鏡付き)、チアタンブリングマット、キャットリープウォール、チックタック忍者ウォール、跳び箱、ウレタンマット、ラシェパーク、クリフハンガーウォール、斜め壁、ラダーパイプ、アクションマット
3×3コート有無	無
その他運動施設	無
その他施設	無
形態	屋内パーク
対応種目	パルクール、アクロバット
運営体制	株式会社PKM
管理部署	
連絡先	Tel : 03-5879-2291 Email : info@missionparkourpark.com
料金	レッスン：一般料金4,000円、回数券4回12,000円、回数券8回20,000円 初回体験イベント：1,000円 オープンジム（個人解放）：月～土（3時間）3,000円、日（2時間）3,000円
営業時間	9:00～21:00
HP	<a href="https://missionparkourpark.com/">https://missionparkourpark.com/</a>
園内MAP	
視察ポイント	・パルクール専用を用意された多数のオブスタクルス（障害物）等



2/22 (水) 視察3日目	
公園名	横浜B-COURT
所在地	横浜市都筑区東山田町305
概要	3x3プロバスケットボールチーム「BEEFMAN.EXE」のホームコートでもあり、イベントやスクール、一般貸出も行うマルチな屋外コートとなっている。
施設面積	屋外コート1面
施設内容	3x3(3人制バスケットボール)に対応したコート(横15m×縦11m)×2面と、5人制のバスケットボールにも対応したフルコート(横15m×縦28m)となっている。
	A面、B面
3×3コート有無	有
その他運動施設	無
その他施設	無
形態	屋外コート
対応種目	バスケットボール
運営体制	株式会社JYU-KEN 本社
管理部署	
連絡先	Tel : 045-227-1185 Email : info@beefman-3x3.com
料金	平日 (10:00~17:00) : 3,000円/1時間 平日 (17:00~21:00) : 3,600円/1時間 土日 (10:00~17:00) : 3,600円/1時間 土日 (17:00~21:00) : 4,200円/1時間
営業時間	10:00~21:00
HP	<a href="http://beefman-3x3.com/court">http://beefman-3x3.com/court</a>
園内MAP	
視察ポイント	3x3に対応したマルチコート

## 8. 県外視察ヒアリング事項

### 先進事例視察ヒアリング（〇〇）

#### 【ヒアリングの目的】

名護市では、スケートボード、BMX、3X3等のアーバンスポーツが楽しめる公園（アーバンスポーツパーク）の整備を進めています。

アーバンスポーツパークの整備にあたり、課題となる事項に対して先進的な取組を実施している関係団体を対象にヒアリングを実施させていただきたいと考えております。

つきましては、以下の項目のうち、可能な範囲で構いませんのでご回答いただけますと幸いです。  
(添付資料やURL等を回答としていただいても問題ございません。)

#### 1. スケートボードパークの概要

① 施設概要 ※可能であれば図面の提供をお願いします
② 競技者レベルに分けた使い分けの有無
③ 夜間利用の有無、設備（照明/防犯カメラなど）、配慮している点など
④ イベント等の実施状況（定期教室等も含む）、イベント規模（参加者数、観覧者数など）
⑤ バリアフリーへの対応や景観上の配慮など
⑥ 新型コロナウイルス感染症対策（備品の設置など）
⑦ パーク内の設置物（飲料/食料の自動販売機、ゴミ箱、防犯カメラなど）
⑧ 駐車場、駐輪場の有無

#### 2. 開園までの流れ

①施設配置案、採用するセクション検討の際に考慮した点（素材、難易度など）
②利用者等のニーズ反映状況（反映している場合どのようにニーズ調査を実施したか）
③地元との調整状況（地元からの反対がなかったか、どのように合意形成したか）
④利用時間、利用料金の決定方法、保護者および同伴者の料金の扱い（利用者数としてカウントしているか）
⑤SNS等での情報発信方法など利用促進に向けた取組状況 (SNS配信、チラシ配布などの頻度、必要な広告費など)
⑥地域活動やまちづくりとの連携など (料金減免、地域清掃への参加など)



### 3. 設備について

①必要な設備（大会開催を想定した映像・音響設備、Wi-Fi等）
②設備配置の工夫点（管理事務所や駐車場の配置等）

### 4. 維持管理・運営

①維持管理の方式（外部委託であればその方式など） ex) 指定管理、業務委託
②体制（その中でも連盟等競技団体の関わりの有無）
③維持管理運営費（可能であれば内訳も） ex) 賃料、保守修繕費、水道光熱費、保険料、消耗品費
④主要な収入源（利用料金収入、自主事業収入など）
⑤施設利用料金以外の収入源の有無 ex) ギアレンタル、グッズ販売、飲食
⑥施設点検の頻度
⑦騒音、振動対策
⑧事故・ケガの対策（使用ルールの周知、同意書、スポーツ保険・傷害保険加入など）
⑨事故・ケガが発生した場合の責任の所在（自己責任、管理者責任の範疇等）

### 5. ツーリズムについて

①本公園における各種大会、合宿の開催状況 （規模、時期など）
②宿泊施設との連携（大会や合宿の際の宿泊施設の確保等について）
③イベント会場としての利用状況（スポーツイベントに関わらず本公園で実施されているイベント等があれば）
④イベント時の配慮事項（交通渋滞への対応など）

### 6. その他

①現在利用者から要望のある事項
②現在問題になっている事項
③その他

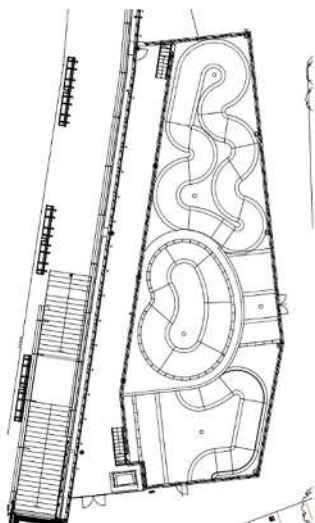
## 9. 県外施設調査結果

○宮下公園

調査日：2023年2月20日

### 【スケートボードパークの概要】

質問	主な回答
①施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケート場：480 m<sup>2</sup> 1面</li> <li>・設置場所：屋外（ナイター設備完備）</li> <li>・ボルダリングウォールは高さ 4m、幅 5m</li> </ul>
②競技者レベルに分けた使い分けの有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初心者向けのフラットエリアの設定</li> <li>・その他、ランプ、プール、スネークエリアは各自のレベルに応じてご利用いただいている。</li> </ul>
③夜間利用の有無、設備（照明／防犯カメラなど）、配慮している点など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時間：9：00～22：00</li> <li>・ナイター設備完備している。</li> <li>・防犯カメラ 2箇所設置している。</li> <li>・雨天時、路面が濡れている場合は、安全確保の為、利用を中止している。</li> </ul>
④イベント等の実施状況（定期教室等も含む）、イベント規模（参加者数、観覧者数など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週日曜日：9：00～11：00</li> <li>スケートスクール実施「MIYASHITA PARK SKATEBOARD SCHOOL」</li> </ul>
⑤バリアフリーへの対応や景観上の配慮など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段を使わず利用できるフラットエリアの設置や、壁ではなく金網フェンスを設置することで、利用者も見学者も圧迫感が感じられないよう配慮した。</li> </ul>
⑥新型コロナウイルス感染症対策（備品の設置など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設利用受付時に体調確認、検温、アルコール消毒の実施。</li> <li>・緊急事態宣言時にスポーツ施設の同時利用人数の制限や、営業時間の短縮を実施。</li> </ul>
⑦パーク内の設置物（飲料/食料の自動販売機、ごみ箱、防犯カメラなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯カメラを2箇所設置。</li> <li>・スケート場外に自販機を設置。</li> </ul>
⑧駐車場、駐輪場の有無	—



【開園までの流れ】

質問	主な回答
①施設配置案、採用するセクション検討の際に考慮した点（素材、難易度など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>各セクションなどの配置や形状については、従前からの利用者でもあった4～5名の有識者（スケートボード経験者、スケートボードショップ店長など）を含めた検討会議があり、現在の形で採用した。</li> <li>起伏等の設定で近隣のパークとの差別化を図った。</li> </ul>
②利用者等のニーズ反映状況（反映している場合どのようにニーズ調査を実施したか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上</li> </ul>
③地元との調整状況（地元からの反対がなかったか、どのように合意形成したか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケートボードによる道路上の滑走が多いため、地域からも反対の意見は出ていたが、従前にあったスケート場の利用も少なくはないため、設置実現に向けた地域の説明会議を行い、事業者を含め、丁寧に合意が得られるよう説明を行った。</li> </ul>
④利用時間、利用料金の決定方法、保護者および同伴者の料金の扱い（利用者数としてカウントしているか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>従前料金をベースとし、周辺のスポーツ施設の利用料金等を参考に条例改正を行い、議会で承認を得た。</li> </ul>
⑤SNS等での情報発信方法など利用促進に向けた取組状況（SNS配信、チラシ配布などの頻度、必要な広告費など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者が作成するHPや商業施設内にあるショップとのコラボ企画を行って利用促進を行っている。</li> </ul>
⑥地域活動やまちづくりとの連携など（料金減免、地域清掃への参加など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業施設のスケートショップとスケートスクールを開催している。</li> </ul>

【設備について】

質問	主な回答
①必要な設備（大会開催を想定した映像・音響設備、Wi-Fi等）	—
②設備配置の工夫点（管理事務所や駐車場の配置等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間照明の設置。</li> <li>防犯カメラの設置。</li> </ul>

【維持管理・運営】

質問	主な回答
①維持管理の方式（外部委託であればその方式など） ex) 指定管理、業務委託	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者による管理を行っている。</li> </ul>
②体制（その中でも連盟等競技団体の関わりの有無）	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者による運営をしており、団体との関わりはない。</li> </ul>
③維持管理運営費（可能であれば内訳も） ex) 賃料、保守修繕費、水道光熱費、保険料、消耗品費	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮下公園の指定管理料金に含まれている。</li> <li>令和3年度 13.7千万円</li> <li>令和4年度 13.5千万円</li> </ul>

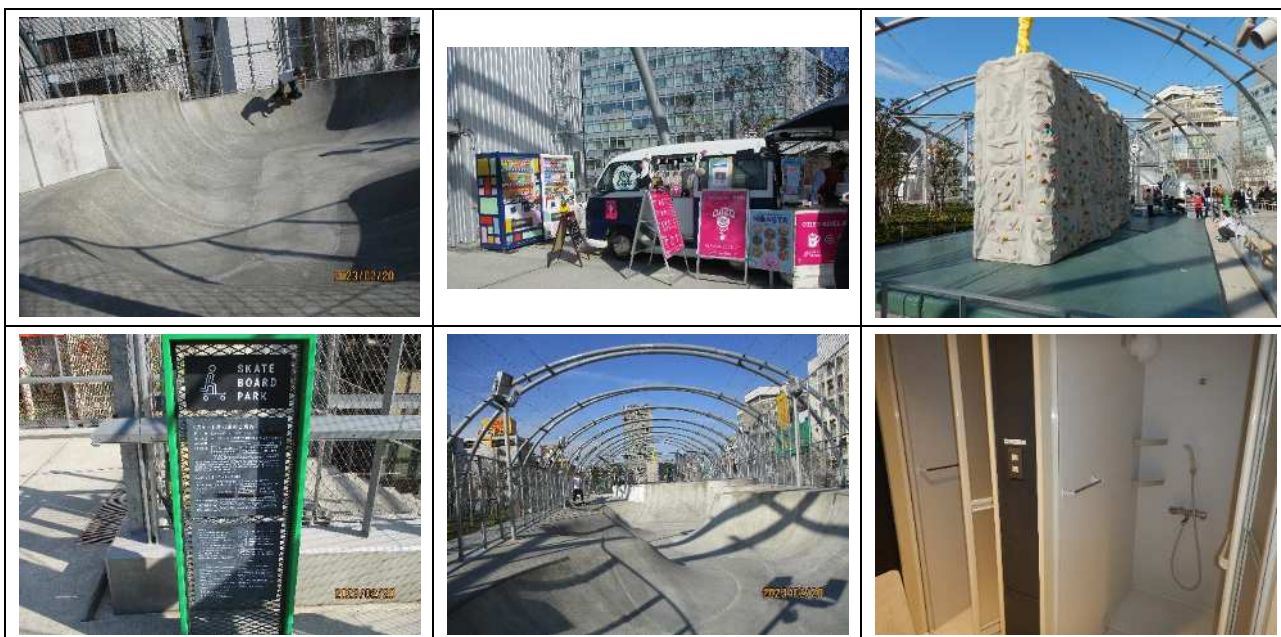
④主要な収入源（利用料金収入、自主事業収入など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設の利用料金、イベントでの占用利用料となる。</li> <li>・自動販売機やロッカーの利用料。</li> </ul>
⑤施設利用料金以外の収入源の有無 ex) ギアレンタル、グッズ販売、飲食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロテクターのレンタルを用意。</li> </ul>
⑥施設点検の頻度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日営業前、終了後にスタッフによる点検を実施。（ボルダリングでは、ホールドの確認）</li> <li>・管理基準がない点が難儀である。</li> <li>・ボルダリングのコースは年3回ショップの方を呼んで変更している。</li> </ul>
⑦騒音、振動対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し。</li> </ul>
⑧事故・ケガの対策（使用ルールの周知、同意書、スポーツ保険・傷害保険加入など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子、担架を備えている。</li> <li>・「申込書 兼 利用誓約書」有り。</li> <li>・施設利用時はスタッフが1人以上常駐することとしている。</li> <li>・各セクションに出口を設け、搬送しやすいよう工夫している。</li> </ul>
⑨事故・ケガが発生した場合の責任の所在（自己責任、管理者責任の範疇等）	—

#### 【ツーリズムについて】

質問	主な回答
①本公園における各種大会、合宿の開催状況（規模、時期など）	—
②宿泊施設との連携（大会や合宿の際の宿泊施設の確保等について）	—
③イベント会場としての利用状況（スポーツイベントに関わらず本公園で実施されているイベント等があれば）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケートスクール</li> <li>・音楽イベント</li> <li>・マルシェ</li> <li>・キッチンカー</li> <li>・制作発表</li> </ul>
④イベント時の配慮事項（交通渋滞への対応など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の公園利用者の妨げにならないこと。</li> <li>・商業施設、ホテル利用者の妨げにならないこと。</li> <li>・コロナ対策の徹底。</li> </ul>

#### 【その他】

質問	主な回答
①現在利用者から要望のある事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日陰をつくってほしいという要望はあるが、つくと風が強くなってしまう。</li> </ul>
②現在問題になっている事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント開催時における騒音問題。</li> <li>・スポーツ施設の利用ルール（飲食、喫煙禁止等）。</li> </ul>
③その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井不動産が30年の定期借地。</li> <li>・雨天時、ボルダリングのマットは野ざらし。</li> </ul>



○H.L.N.A スケートボードパーク  
調査日：2023年2月20日

【スケートボードパークの概要】

質問	主な回答
①施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーク面積は約 600 m<sup>2</sup>程度。</li> </ul>
②競技者レベルに分けた使い分けの有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初級者から上級者まで対応できるパークである。</li> </ul>
③夜間利用の有無、設備（照明／防犯カメラなど）、配慮している点など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間利用有り、夜間料金の変更無し。</li> <li>・防犯カメラを付けている。（照明とは別）</li> </ul>
④イベント等の実施状況（定期教室等も含む）、イベント規模（参加者数、観覧者数など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールを毎日 3 回程度実施しており、曜日ごとにクラス分けをしている。</li> <li>・12:30～14:00、15:30～17:00、17:30～19:00</li> <li>・月謝、単発どちらも有り。</li> </ul>
⑤バリアフリーへの対応や景観上の配慮など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段に手すりを設置。</li> <li>・ダイバーシティ内なので、大幅に設計は変えられない。</li> </ul>
⑥新型コロナウイルス感染症対策（備品の設置など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受付にパーテーションを設ける。</li> <li>・消毒の実施。</li> </ul>
⑦パーク内の設置物（飲料/食料の自動販売機、ごみ箱、防犯カメラなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲み物の持ち込みは OK としているが、食べ物は不可。</li> </ul>
⑧駐車場、駐輪場の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティの駐車場有り。（利用者は車と公共交通半々での利用）</li> </ul>

【開園までの流れ】

質問	主な回答
①施設配置案、採用するセクション検討の際に考慮した点（素材、難易度など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セクションは鉄板のものが多い。</li> <li>・継ぎ目やゆがみは定期的に修繕している。（業者に委託）</li> </ul>
②利用者等のニーズ反映状況（反映している場合どのようにニーズ調査を実施したか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールをメインに実施するパークという考えでつくった。</li> </ul>
③地元との調整状況（地元からの反対がなかったか、どのように合意形成したか）	—
④利用時間、利用料金の決定方法、保護者および同伴者の料金の扱い（利用者数としてカウントしているか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティの営業時間と同じとしている。</li> <li>・屋上なので消防法に則って利用する。</li> </ul>
⑤SNS等での情報発信方法など利用促進に向けた取組状況（SNS配信、チラシ配布などの頻度、必要な広告費など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページとインスタグラムで発信。</li> </ul>
⑥地域活動やまちづくりとの連携など（料金減免、地域清掃への参加など）	—

【設備について】

質問	主な回答
①必要な設備（大会開催を想定した映像・音響設備、Wi-Fi等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント時はカメラマンを呼ぶことがある。</li> <li>・音響設備はある。</li> <li>・Wi-Fiは設置していない。</li> </ul>
②設備配置の工夫点（管理事務所や駐車場の配置等）	—

【維持管理・運営】

質問	主な回答
①維持管理の方式（外部委託であればその方式など） ex) 指定管理、業務委託	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主事業</li> </ul>
②体制（その中でも連盟等競技団体の関わりの有無）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連盟との協働等は特に無し。</li> <li>・過去ネーミングライツを実施していたことがある。</li> </ul>
③維持管理運営費（可能であれば内訳も） ex) 賃料、保守修繕費、水道光熱費、保険料、消耗品費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補修メンテナンス費はあまりかかっていない。</li> </ul>
④主要な収入源（利用料金収入、自主事業収入など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最もウェイトが高いものはスクール。</li> <li>・6割がスクール、3割が場所の貸し出し、1割が一般利用の収入源。</li> </ul>

⑤施設利用料金以外の収入源の有無 ex) ギアレンタル、グッズ販売、飲食	・道具レンタルも行っているが、収入にはあまりならない。
⑥施設点検の頻度	・毎日朝と帰りに実施。 ・点検マニュアルは独自に作成。
⑦騒音、振動対策	・問題ない。
⑧事故・ケガの対策（使用ルールの周知、同意書、スポーツ保険・傷害保険加入など）	・救急車を呼ぶ等の対応は行う。 ・ダイバーシティ内の救護室の活用も可能である。
⑨事故・ケガが発生した場合の責任の所在（自己責任、管理者責任の範疇等）	・自己責任としている。 ・保険の義務付けはない。

### 【ツーリズムについて】

質問	主な回答
①本公園における各種大会、合宿の開催状況（規模、時期など）	・大会はあまりないが、スクール生に向けて大会の実施は有る。
②宿泊施設との連携（大会や合宿の際の宿泊施設の確保等について）	—
③イベント会場としての利用状況（スポーツイベントに関わらず本公園で実施されているイベント等があれば）	—
④イベント時の配慮事項（交通渋滞への対応など）	—

### 【その他】

質問	主な回答
①現在利用者から要望のある事項	—
②現在問題になっている事項	・暑さ対策。屋上、鉄板ということもあり暑い。
③その他	・運営について、やれる場所があればどこでもやりたい。

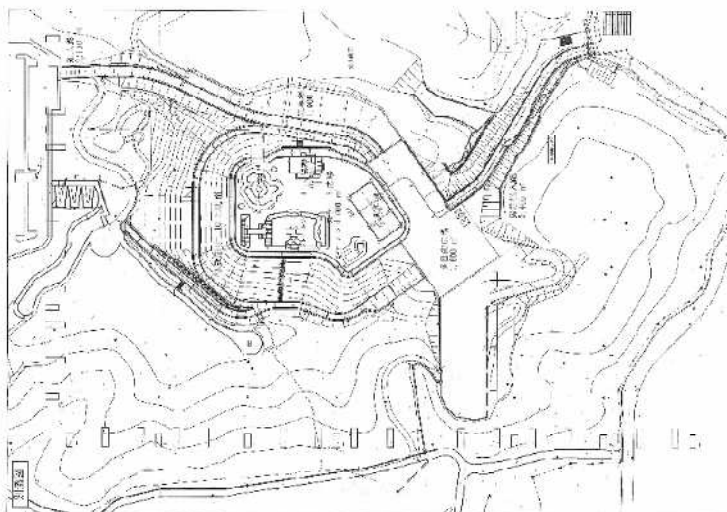


○ムラサキパークかさま

調査日：2023年2月21日

【スケートボードパークの概要】

質問	主な回答
①施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設全体 25,200 m<sup>2</sup> 内訳（スケート広場 4,600 m<sup>2</sup>、多目的広場 2,600 m<sup>2</sup>、休憩広場（芝生法面） 10,600 m<sup>2</sup>、進入路 2,100 m<sup>2</sup>、駐車場 1,900 m<sup>2</sup>、緊急搬入路 3,400 m<sup>2</sup>）</li> <li>国際大会が開催できる規模のパークであるため、県外からの利用者も多い。</li> </ul>
②競技者レベルに分けた使い分けの有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>初級者は平場を利用し、上級者がボールを利用する。ボールに入るために必要な技術レベルを周知しており、両者が混在することはない。</li> <li>ストリートゾーンは3名程度の同時滑走が可能。</li> </ul>
③夜間利用の有無、設備（照明／防犯カメラなど）、配慮している点など	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツカメラ無し</li> <li>防犯カメラは8基（パーク内、管理棟、駐車場等）を運営者で設置。</li> </ul>
④イベント等の実施状況（定期教室等も含む）、イベント規模（参加者数、観覧者数など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験会やスクール事業は、運営者の自主事業として開催。</li> </ul>
⑤バリアフリーへの対応や景観上の配慮など	<ul style="list-style-type: none"> <li>県営都市公園内であり、県のバリアフリー基準に基づき公園自体も設計されているため、配慮されている。パークへの動線もスロープがある。</li> </ul>
⑥新型コロナウイルス感染症対策（備品の設置など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>入場時の検温、消毒等、通常の実策を実施。</li> <li>感染拡大ピーク時は、閉鎖したこともある。</li> </ul>
⑦パーク内の設置物（飲料/食料の自動販売機、ゴミ箱、防犯カメラなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自販機等の設置、物販は運営者の自主事業で実施。</li> <li>飲料用のゴミ箱は設置しているが、基本は利用者による持ち帰り。</li> </ul>
⑧駐車場、駐輪場の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場はパーク専用で33台を整備、その他身体障害者用スペースを管理棟付近に設置。</li> <li>大会・イベント時は、公園内の駐車場も活用できるため、駐車可能台数は十分。</li> </ul>



【開園までの流れ】

質問	主な回答
<p>①施設配置案、採用するセクション検討の際に考慮した点（素材、難易度など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討段階時では、オールコンクリートのパーク、パークとストリートと一緒に整備されている事例が少なく、あえてそのような設置を検討した。</li> <li>・県が基本設計を実施しており、その段階から日本スケートボード協会、景観計画の委員会メンバー等、専門家を交えて検討してきた。</li> <li>・パーク周辺は、法面を活かして芝生をはり、観覧者が自由に見られるように工夫した。また、都市公園の中の配置として、遊び場からも見て、関心が持ってもらえるようにしている。</li> <li>・設計前から候補者として事業者公募を実施し、設計段階から運営者からアドバイスをもらって計画、さらに公募で実施した。事前の現地説明へは5社が参加、参加表明は1社。</li> <li>・国際大会が開催できるよう、左右対称にセクションを配置するパークとした。</li> <li>・整備は地元業者に発注している。SSHS工法を採用。</li> </ul>
<p>②利用者等のニーズ反映状況（反映している場合どのようにニーズ調査を実施したか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズというよりは、行政主導で推進した。近隣では水戸市に事例があり参考にした。</li> <li>・ニーズ調査の実施無し。</li> </ul>
<p>③地元との調整状況（地元からの反対がなかったか、どのように合意形成したか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元からの反対は特に無い。</li> <li>・市の全員協議会等で報告はしており、事前に理解いただくようにしていた。</li> </ul>
<p>④利用時間、利用料金の決定方法、保護者および同伴者の料金の扱い（利用者数としてカウントしているか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーク利用者のみ有料、観覧者は無料。</li> <li>・イベント開催時は占有料として別途料金。</li> <li>・料金設定は、民間施設も含めて他事例を参考に設定。</li> </ul>
<p>⑤SNS等での情報発信方法など利用促進に向けた取組状況（SNS配信、チラシ配布などの頻度、必要な広告費など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営業者のホームページ、SNSでPRの実施。</li> <li>・発信内容は、滑走面の状況をタイムリーに配信している。また、体験会やイベント開催に関する内容を配信。</li> <li>・市は他の公共施設と同様にHPにおける施設紹介、広報等での特集による紹介等を実施。</li> </ul>
<p>⑥地域活動やまちづくりとの連携など（料金減免、地域清掃への参加など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間スポーツコミッションと連携し、スケボー商品、地場産の陶器と関連づけたグッズを作成するなどを実施。</li> <li>・笠間市は『スケートボードの「聖地」』を掲げている。</li> <li>・周辺住民の割引、圏央地域の周辺市町の住民も年パス等の割引を実施。</li> <li>・芸術の森公園の広場は子ども、工芸の丘で中高年がターゲット層となっていたが、地域振興としても中間の年齢層を誘引するため、スケボーパークを計画した。</li> </ul>

【設備について】

質問	主な回答
①必要な設備（大会開催を想定した映像・音響設備、Wi-Fi等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Wi-Fiは遊び場を含めて市が3基を設置、市のfree Wi-Fiが使用できる。管理棟のWi-Fiは運営者整備。</li> <li>・音響スピーカーは運営者設置。</li> </ul>
②設備配置の工夫点（管理事務所や駐車場の配置等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーク内の管理をしやすくするため、動線は必ず駐車場から管理棟を通過してパークに入れるようにしている。</li> </ul>

【維持管理・運営】

質問	主な回答
①維持管理の方式（外部委託であればその方式など ex) 指定管理、業務委託	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県から笠間市が設置管理許可を受け、指定管理者制度を活用。</li> <li>・指定管理料無し、運営者の独立採算で実施。整備が県・市。</li> <li>・造成等基盤は県、基本的なパーク整備（照明、フェンス、管理棟等）は市。スピーカー等追加設置は運営者。</li> <li>・Park-PFIの初期の整備であり、事例が少なかった。また、整備を民間にお願いすることは厳しかった。</li> <li>・整備することより、どのように運営してもらえるかが重要だと認識している。</li> </ul>
②体制（その中でも連盟等競技団体の関わりの有無）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会とのやり取りも運営者にお願いしている。</li> <li>・コンセプトは、誰でも楽しめる、地域貢献、選手育成。</li> </ul>
③維持管理運営費（可能であれば内訳も） ex) 賃料、保守修繕費、水道光熱費、保険料、消耗品費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20万円以上の修繕は市と協議。</li> <li>・軽微な修繕は運営者の予算で実施。</li> </ul>
④主要な収入源（利用料金収入、自主事業収入など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入内訳（利用料6割、スクール2割、物販2割）</li> </ul>
⑤施設利用料金以外の収入源の有無 ex) ギアレンタル、グッズ販売、飲食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食無し。</li> </ul>
⑥施設点検の頻度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常点検は毎日（クラックの確認等）</li> <li>・管理基準のようなものは市で準備しておらず、滑走面の確認等は運営者が専門であり、任せている。</li> </ul>
⑦騒音、振動対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園内であり、周辺に民家はない。</li> <li>・騒音検査は実施済で騒音レベルではない。</li> </ul>
⑧事故・ケガの対策（使用ルールの周知、同意書、スポーツ保険・傷害保険加入など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての利用者には説明を実施。</li> <li>・ヘルメット着用義務有り。</li> <li>・全国市長会の保険加入（施設瑕疵分）、運営者も保険加入（施設の保険、イベント時の保険）</li> </ul>
⑨事故・ケガが発生した場合の責任の所在（自己責任、管理者責任の範疇等）	—

【ツーリズムについて】

質問	主な回答
①本公園における各種大会、合宿の開催状況（規模、時期など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回 スケートボード選手権（R3、12月）（笠間スポーツコミッションがサブイベントを主催）</li> <li>・日本オープン開催予定</li> <li>・県知事杯</li> </ul>
②宿泊施設との連携（大会や合宿の際の宿泊施設の確保等について）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は宿泊施設が少ない市外へ流れているため課題。</li> <li>・スポーツコミッションが宿泊施設を紹介するなどは実施。</li> </ul>
③イベント会場としての利用状況（スポーツイベントに関わらず本公園で実施されているイベント等があれば）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園内では笠間の焼きイベント等が実施されている。</li> <li>・パークのイベント時には、キッチンカーが広場に来て楽しんでもらえるようにしている。</li> </ul>
④イベント時の配慮事項（交通渋滞への対応など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋滞等は生じていない。</li> </ul>

【その他】

質問	主な回答
①現在利用者から要望のある事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食と休憩場所の要望があるが、土日やイベント時はキッチンカーで賄っている。</li> </ul>
②現在問題になっている事項	—
③その他	—

写真



○境町アーバンスポーツパーク  
調査日：2023年2月21日

【スポーツパーク（BMX）の概要】

質問	主な回答
①施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ HURRICANE 社監修によるパーク。</li> <li>・ 国際大会の開催が可能な施設。</li> <li>・ 鉄製フレームの上に、スケートライトを採用し、コーティングはグリップ力を高くしている。スケートライトは雨でも速乾性がよい。特にランプ上にはスケートライトがよいと思われる。</li> </ul>
②競技者レベルに分けた使い分けの有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 混雑時はコーン等でゾーンの棲み分けを実施。</li> <li>・ 平場を広く確保することで、初級者に対応している。初級者から上級者まで利用できる施設。</li> <li>・ 多種目でも譲り合って利用している。</li> </ul>
③夜間利用の有無、設備（照明／防犯カメラなど）、配慮している点など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 照明は MOSCO 社製を採用。外側に照明が漏れない。照害がなく、夜の方が滑走しやすい。太陽光は目に入り、見えなくなる瞬間がある。</li> <li>・ カメラの設置無し。</li> </ul>
④イベント等の実施状況（定期教室等も含む）、イベント規模（参加者数、観覧者数など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験会、スクールはほぼ毎日実施している。インラインスケートが多い。今年度は5月からで300人が利用。</li> <li>・ 利用者自体は2,000人/年間（上級者が多い）</li> <li>・ ストライダー パークイベントの実施。</li> </ul>
⑤バリアフリーへの対応や景観上の配慮など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バリアフリー対応はなく、施設に段差等がある。</li> <li>・ 苦情はないが、大会やイベント前は地域住民にお知らせしている。</li> </ul>
⑥新型コロナウイルス感染症対策（備品の設置など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ庁やJFBFのガイドラインに則り、対策を実施している。</li> <li>・ 必要な場合は人数制限も行う。</li> <li>・ 備品は検温、消毒等通常のもの。</li> </ul>
⑦パーク内の設置物（飲料/食料の自動販売機、ごみ箱、防犯カメラなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自販機設置有り。</li> <li>・ 飲料用のごみ箱は設置しているが、基本は利用者による持ち帰り。</li> <li>・ 今後各種ショップの整備を予定している。</li> </ul>
⑧駐車場、駐輪場の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐車場は44台分を整備。大会やイベント時は必要に応じて、JAや町有地を活用して駐車スペースを確保している。通常の駐車場はイベント時にキッチンカーを置くなどして利用している。</li> <li>・ 駐輪場は10～20台。バイク利用も増えている。</li> <li>・ FISEの際は駐車場も課題。</li> </ul>

【開園までの流れ】

質問	主な回答
①施設配置案、採用するセッション検討の際に考慮した点（素材、難易度など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備は公募型プロポーザルにより発注した。設計・建築は HURRICANE 社監修によるもの。公募要件に FISE の国際大会が実施できる設計が可能であること等を入れた。</li> <li>・地元建設業者を元請けとなり、HURRICANE 社に発注した。</li> <li>・町が公共施設アドバイザーを入れており、概算は把握できていた。</li> <li>・大会開催を想定する場合は、シャワールームが最低 4 基必要であることなど設計段階から運営者が入っている。</li> </ul>
②利用者等のニーズ反映状況（反映している場合どのようにニーズ調査を実施したか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者ニーズというより、国際大会の開催に照準を絞り整備した。</li> </ul>
③地元との調整状況（地元からの反対がなかったか、どのように合意形成したか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元からの反対は特に無い。</li> </ul>
④利用時間、利用料金の決定方法、保護者および同伴者の料金の扱い（利用者数としてカウントしているか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーク利用者のみ有料、観覧者は無料。</li> <li>・子供の利用者で助けが必要な場合は、保護者に入っただけだが、その際はリストバンド等を付けてもらっている。</li> <li>・料金設定は、近隣の公共施設の事例を参考にしたり、JFBF と協議したりして設定。</li> <li>・シャワー利用は無料。</li> </ul>
⑤SNS 等での情報発信方法など利用促進に向けた取組状況（SNS 配信、チラシ配布などの頻度、必要な広告費など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS で情報発信しており、発信内容は、滑走面の状況、体験会やイベント開催に関する内容を配信。予約も受け付けている。</li> </ul>
⑥地域活動やまちづくりとの連携など（料金減免、地域清掃への参加など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理料はないため、減免無し。</li> <li>・地域おこし協力隊とも連携して運営している。施設利用を目的に町内移住者もいる。</li> </ul>

【設備について】

質問	主な回答
①必要な設備（大会開催を想定した映像・音響設備、Wi-Fi 等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理棟に free Wi-Fi 有り。</li> <li>・映像・音響設備は大会主催者が持ち込む。</li> <li>・徴収するのは施設の占有料のみで、大会開催等は町、主催者、運営者が協力して実施している。</li> </ul>
②設備配置の工夫点（管理事務所や駐車場の配置等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャワールーム、更衣室を設置している。</li> </ul>

【維持管理・運営】

質問	主な回答
①維持管理の方式（外部委託であればその方式など） ex) 指定管理、業務委託	・ 指定管理料無し、運営者の独立採算で実施。整備が県・市。
②体制（その中でも連盟等競技団体の関わりの有無）	—
③維持管理運営費（可能であれば内訳も） ex) 賃料、保守修繕費、水道光熱費、保険料、消耗品費	・ 利用料は売上の2割程度。スケボーパークのみでは事業採算が厳しく、他の施設（テニスコート、ホッケーフィールド等）の合宿利用と合わせて採算がとれる。
④主要な収入源（利用料金収入、自主事業収入など）	—
⑤施設利用料金以外の収入源の有無 ex) ギアレンタル、グッズ販売、飲食	・ 物販有り
⑥施設点検の頻度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常点検は毎日、定期点検は年に2回実施。</li> <li>・ 日常点検は運営者でマニュアルを作成している。</li> <li>・ 10年後を目安に大規模修繕については町と協議。</li> <li>・ 管理基準のようなものは市で準備しておらず、滑走面の確認等は運営者が専門であり、任せている。</li> </ul>
⑦騒音、振動対策	・ 近接する民家がない。民家がある側に資料館があり、騒音が軽減される。苦情はほとんどない。
⑧事故・ケガの対策（使用ルールの周知、同意書、スポーツ保険・傷害保険加入など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めての利用者には説明を実施。誓約書有り。</li> <li>・ ヘルメット着用義務有り。</li> <li>・ ケガ人が発生した場合のスタッフ対応マニュアルを準備している。</li> <li>・ スポーツファシリティーズ保険に加入。加入者は町で、支払いを運営者としている。</li> </ul>
⑨事故・ケガが発生した場合の責任の所在（自己責任、管理者責任の範疇等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己責任ではあるが、スポーツ施設の運営において、完璧な対策はないと考えている。</li> <li>・ プロの選手の利用も多く、ケガは自己責任が基本。</li> </ul>

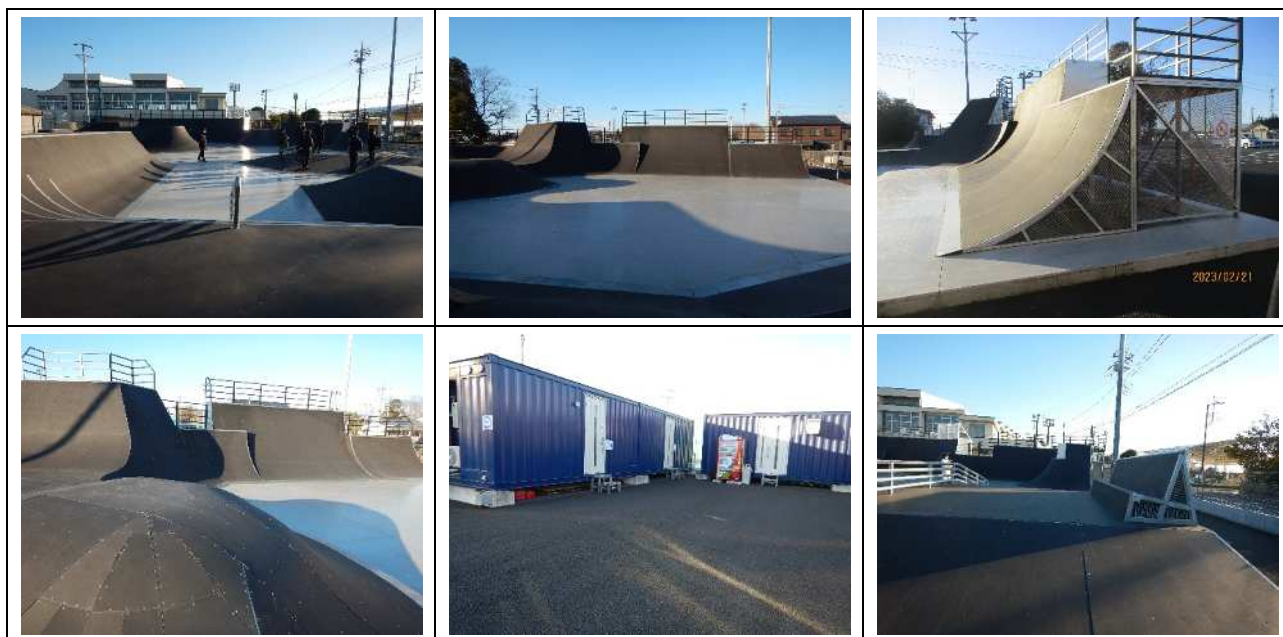


【ツーリズムについて】

質問	主な回答
①本公園における各種大会、合宿の開催状況（規模、時期など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JFBFの合宿が雨で中止となった。</li> <li>・大会・合宿を誘致するため、東京五輪の有明アーバンスポーツパークを移設し、全天候型施設として整備を予定している。</li> </ul>
②宿泊施設との連携（大会や合宿の際の宿泊施設の確保等について）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合宿の誘致活動は指定管理業務に含まれている。</li> <li>・町でパークホテル境を整備した。また、近隣の宿泊施設を紹介もしている。</li> </ul>
③イベント会場としての利用状況（スポーツイベントに関わらず本公園で実施されているイベント等があれば）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナビ Japan Cup が開催され、3日間で1500人が来場。</li> <li>・ローラーフリースタイル全日本選手権</li> </ul>
④イベント時の配慮事項（交通渋滞への対応など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会時等は多少混雑するが、事前に近隣住人に説明している。</li> <li>・道路封鎖等で対策している。警察へは町から使用許可をもらっている。</li> </ul>

【その他】

質問	主な回答
①現在利用者から要望のある事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全天候型の要望が多い。</li> <li>・暑さ対策として、整備予定の全天候型施設はサマーシールドテントを採用している。テント内は外部に比べて-7°になる。また、アイスバスも導入している。</li> </ul>
②現在問題になっている事項	—
③その他	—



【パルクールパークの概要】

質問	主な回答
①施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現施設は国内最大級。管理会社挟んだ賃貸で整備。</li> <li>・ 施設の必要規模はカルチャーイベントを実施する規模とするかスポーツパルクールとして実施する規模かで変わってくるが、体操 FIG 基準ではセットだけで 30～40m×10m。世界選手権が行われるような有明などはもう少し大きく、50m×20m。イベント等での実施は 15m×15m。</li> <li>・ 現施設にシャワールームはない。あるとよいと思うが、1 基整備しても仕方なく、多く入れることも現実的ではない。</li> <li>・ 更衣室は男女別 3 名程度が利用できる広さのもの有り。LGBTQ 対応の更衣室はないが、利用者はいる。</li> </ul>
②競技者レベルに分けた使い分けの有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初級者と上級者は混在するより、同一のセクションを同時に使用するより、ゾーニングで区分した方がよい。上級者向けだと段差が大きく高さも高いため、ソフト的に安全対策を行う視点においても区分する方がよい。</li> <li>・ 現状利用者の半数が小学生。中高生、20 代、30 代、40 代が各 1 割程度、50 代が数%利用有り。</li> <li>・ イギリス、デンマークはパルクールダンスでリハビリとして活用されており、その場合は公園等でもできる。</li> </ul>
③夜間利用の有無、設備（照明／防犯カメラなど）、配慮している点など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レッスン は 21 時まで。バス利用、近隣への配慮を含めて時間を設定している。</li> <li>・ 所属アスリートには 24 時間開放しており、深夜も練習したりしており、選手強化には効果がある、(去年日本選手権 1 位、FIGW 杯で 2 位の結果を残している。)</li> <li>・ 現状カメラ設置はないが、必要だと思っている。</li> </ul>
④イベント等の実施状況（定期教室等も含む）、イベント規模（参加者数、観覧者数など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大会、カルチャーイベント、ワークショップ開催等も実施している。</li> <li>・ イベント時の来場者（参加者・観客あわせて）は 100 人ほどになるものもある。</li> <li>・ 大会イベントの場合は、観覧も入場料を徴収している。</li> <li>・ 親子向け体験会、子供向けのワークショップイベントを実施。その場合の保護者同行は無料。</li> </ul>
⑤バリアフリーへの対応や景観上の配慮など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バリアフリー対応無し。</li> <li>・ 聴覚障害の方は手話通訳を介してレッスン参加も実績有り。</li> </ul>
⑥新型コロナウイルス感染症対策（備品の設置など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日、使用箇所の消毒をしている。スタッフ 3 人で 30 分を要する。</li> <li>・ 検温、消毒、レッスン中も距離を保つように促し。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レッスン中もマスク着用。子供には途中外で休憩挟む。</li> </ul>
⑦パーク内の設置物（飲料/食料の自動販売機、ゴミ箱、防犯カメラなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自販機、ゴミ箱、音響有り。</li> <li>・必要備品はチョーク。（レールがある場合は必須。）</li> <li>・パルクール専用シューズはない。</li> <li>・靴が必須になるのは中級者以上。</li> <li>・初心者は裸足、靴下で始められるが、屋内シューズを持参してもらっている。</li> </ul>
⑧駐車場、駐輪場の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場無し。スタジオ利用者の駐車スペース、駐輪スペース有り。</li> </ul>

### 【開園までの流れ】

質問	主な回答
①施設配置案、採用するセッション検討の際に考慮した点（素材、難易度など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オブスタクルスは大小を組み合わせて利用する。</li> <li>・タンブリングエリアは下にクッション素材が入れている。</li> <li>・距離の長いパイプは中に鉄芯を入れるなどして強度をあげている。</li> <li>・競技としては、スピードとフリースタイルに対応。</li> </ul>
②利用者等のニーズ反映状況（反映している場合どのようにニーズ調査を実施したか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者というよりは、プロの視点で、海外のパークも参考にしながら造作した。</li> <li>・子供向けの需要が予想より増えてきたため、子供向けのソフトなオブスタクルスを追加するなどして対応している。</li> <li>・</li> </ul>
③地元との調整状況（地元からの反対がなかったか、どのように合意形成したか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の調整は必要だったが、業界では認知されていたため、見守っていただいている。</li> <li>・施工中は工事音で苦情が一回あった。</li> </ul>
④利用時間、利用料金の決定方法、保護者および同伴者の料金の扱い（利用者数としてカウントしているか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント利用だけでなく、通常のレッスン利用料も運営上は重要である。</li> <li>・同伴保護者は利用料無し。</li> <li>・利用料を払った人はエリア内に入ることができる。同伴者はエリア外で見る。</li> </ul>
⑤SNS等での情報発信方法など利用促進に向けた取組状況（SNS配信、チラシ配布などの頻度、必要な広告費など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSによる情報発信は力を入れている。主にインスタ。</li> <li>・所属アスリートが練習場所として発信もしている。</li> <li>・大会、イベントの告知も実施。</li> <li>・利用者自身でSNSにアップしてもらっており、施設デザインも魅力があることが拡散にもつながる。</li> <li>・利用者には写真撮影は許可している。ただし、他の利用者には配慮をお願いしている。</li> <li>・SNS配信は従業員で実施。顔出しができない場合は教えてもらうようにしている。</li> </ul>
⑥地域活動やまちづくりとの連携など（料金減免、地域清掃への参加など）	—

【設備について】

質問	主な回答
①必要な設備（大会開催を想定した映像・音響設備、Wi-Fi等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・照明は明るい方がよい。天井が近すぎて照明が眩しいことがある。</li> <li>・屋外で照明有りの夜間利用も考えられる。現在は海外にしかない。</li> <li>・海外のパークは夕方に閉鎖。</li> <li>・明るさというより、夜露、雨により濡れること、夕方の明るさは人によっては見にくい場合もある。</li> <li>・イベントとしては、DJ、MC等が入るため、音響は必須。映像はあるとよりよい。</li> <li>・国内競技会はキー局と連携して実施する。</li> </ul>
②設備配置の工夫点（管理事務所や駐車場の配置等）	—

【維持管理・運営】

質問	主な回答
①連盟等競技団体の関わりの有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織としては日本体操協会（JGA）にパルクール委員会が設置されている。現在は小規模な組織。</li> </ul>
②維持管理の方式（外部委託であればその方式など） ex) 指定管理、業務委託	—
③体制（その中でも連盟等競技団体の関わりの有無）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のアーバンスポーツとの連携は必要だと思っている。</li> </ul>
④維持管理運営費（可能であれば内訳も） ex) 賃料、保守修繕費、水道光熱費、保険料、消耗品費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設としてボルト等を使用していないため、締め直す等はなく、マットの破れ、剥げ等の補修、スポンジ（ピットキューブ等）の入れ替え（部分的に）が主となる。</li> <li>・開設して2年程度で修繕が必要となっている。</li> <li>・保守料1,200千円/年間で厳しい。</li> <li>・光熱費100千円/月はかかり、冷暖房は足りないイメージ。施設として空調効率が悪い。</li> </ul>
⑤主要な収入源（利用料金収入、自主事業収入など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レッスン料収入が7~8割を占めている。物販は一部。</li> <li>・スタジオレンタル料は別途設定している。昼間の時間はスタジオレンタル利用が多く、テレビやYouTube撮影場所としての利用ニーズがある。</li> <li>・コロナ後はYouTube撮影利用が多い。</li> </ul>
⑥施設点検の頻度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ常駐しているため、常時点検している状況。</li> </ul>
⑦騒音、振動対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着地音は大きい。タンブリングエリアは下に板が入っていることもあり、音が鳴る。夏やコロナによる換気のため、窓を開けると周囲に音が漏れる。深夜利用はマットを追加する等で対応。</li> <li>・音響設備は設置の向き等で周囲に配慮した。</li> <li>・振動はあるが、周囲への影響があるほどではない。</li> </ul>

⑧安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールブック有り。</li> <li>・ケガは自己責任が基本だが、スタッフが常駐し、指示は守ってもらう。</li> <li>・危ない技を止めるというよりは、危険な環境を避けるように声がけする。柔らかいマットでの捻挫もある。</li> </ul>
⑨事故・ケガの対策（使用ルールの周知、同意書、スポーツ保険・傷害保険加入など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての利用者には説明を実施。誓約書有り。</li> <li>・18 歳未満は保護者同伴を要請し、緊急連絡先等も把握する。</li> <li>・施設として保険加入有り、利用者の怪我等に適用する場合もある。</li> </ul>
⑩事故・ケガが発生した場合の責任の所在（自己責任、管理者責任の範疇等）	—

### 【ツーリズムについて】

質問	主な回答
①本施設における各種大会、合宿の開催状況（規模、時期など）	・大会が開催できるような大規模な施設が整備されれば、名護市での大会、遠征先等の可能性は考えられる。土地柄もよい。
②宿泊施設との連携（大会や合宿の際の宿泊施設の確保等について）	・国内競技連盟（NF）として強化合宿のようなものは実施されていない。予算もないと思われる。
③イベント会場としての利用状況（スポーツイベントに関わらず本公園で実施されているイベント等があれば）	・全国規模の大会自体が多くはなく、民間の大会がいくつかある他、JGA のものがある。
④イベント時の配慮事項（交通渋滞への対応など）	—

### 【その他】

質問	主な回答
①現在利用者から要望のある事項	—
②現在問題になっている事項	・連盟は体操協会が主導で、カルチャーとしての発展が課題。
③その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケートボードのように、器具を買って乗ってみる、という競技ではないため、施設を整備したら、教室、レッスンも併せて運営する必要がある。</li> <li>・管理・運営で参入する場合は施設設計段階から参入できた方がよい。スタッフ研修、安全管理等のノウハウを持っている。フランチャイズ店舗有り。収支構造についても検討が必要であり、ツーリズムを目的にしてレッスンを入れるか入れないか、レッスンを入れるのであれば、レッスンに適した施設整備が必要である。</li> <li>・有明のコースデザインは国際競技連盟（IF）がパークールの元となる ADD 創設者の集団のシャルルピエ</li> </ul>

ールを引っ張ってきた。NF 国内セットの管理、発注。造作は IF が実施。ビルダーは現地にいないことが多い。NF が地方団体と連携していくような動きが今はない。体操連盟は県連があるが、全国的にパークールが入っていないが、東京都連だけは入っている。アーバンスポーツ競技会のようなものは東京都ではあり、FISE との連携があると思われる。



## 10. 市民アンケート結果報告資料

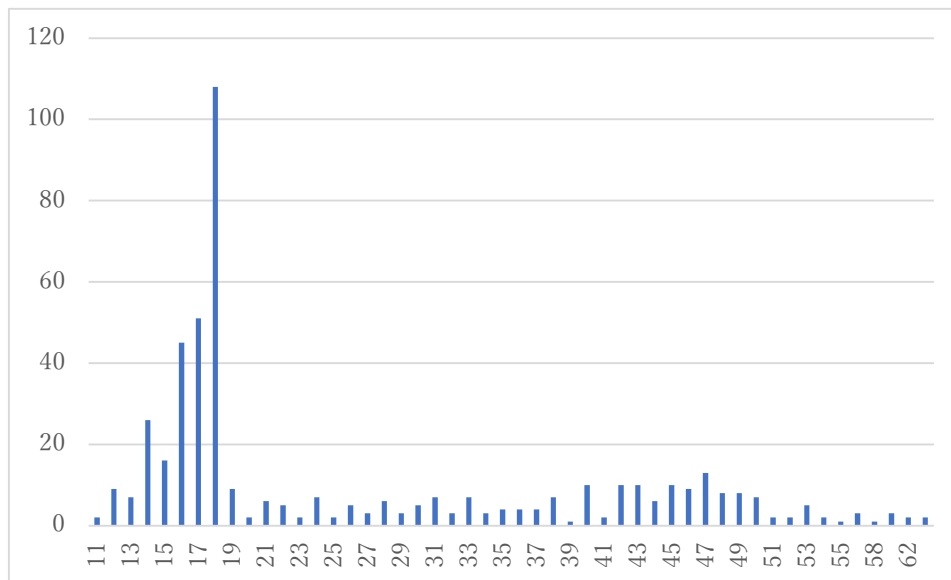
### 1. アンケート回答数

475 件の回答が得られた。

### 2. 設問結果

問1. あなたの年齢を教えてください。

- 主に10代から多くの回答が得られた。

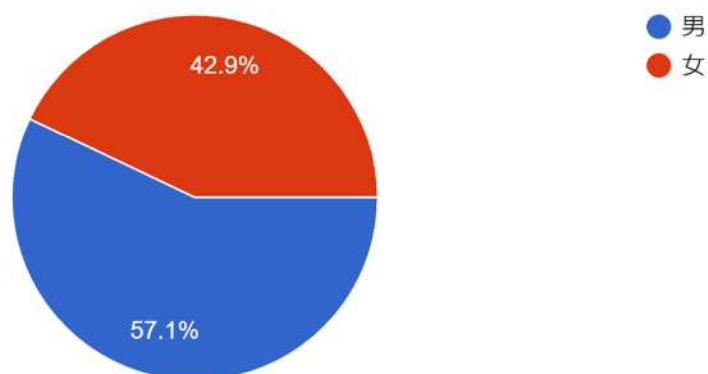


問2. あなたの年齢を教えてください。

- 男女ともから回答が得られた。

問2. あなたの性別を教えてください

473 件の回答

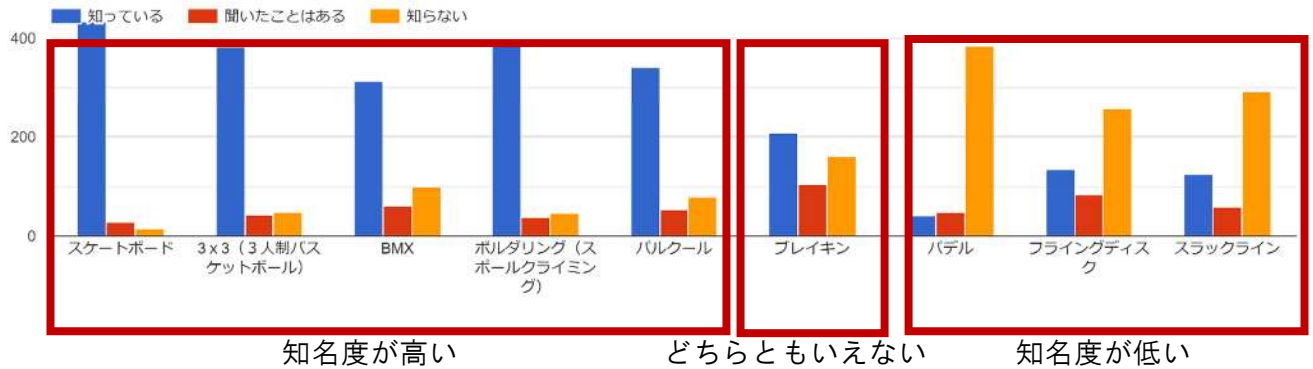




問3. あなたは以下のアーバンスポーツについて知っていますか。

- 知名度についておおよそ以下の3つに分類できると考える。

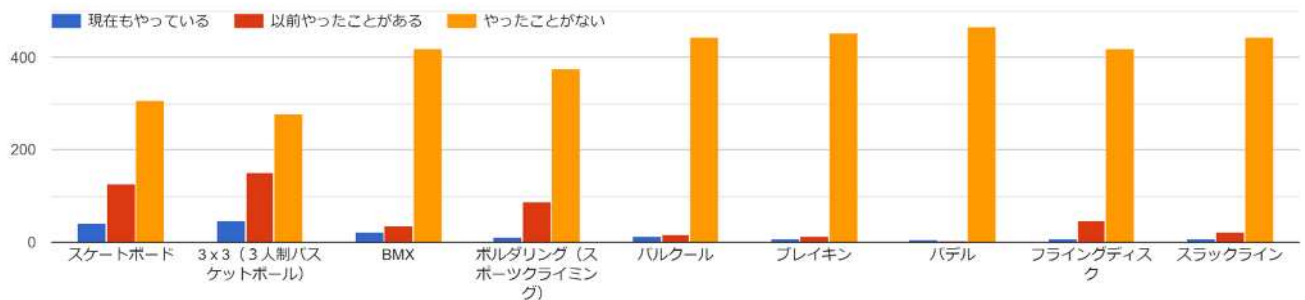
問3. あなたは以下のアーバンスポーツについて知っていますか。



問4. あなたは以下のアーバンスポーツをやったことがありますか。

- 「スケートボード」「3x3」の競技人口が多いことがわかる。

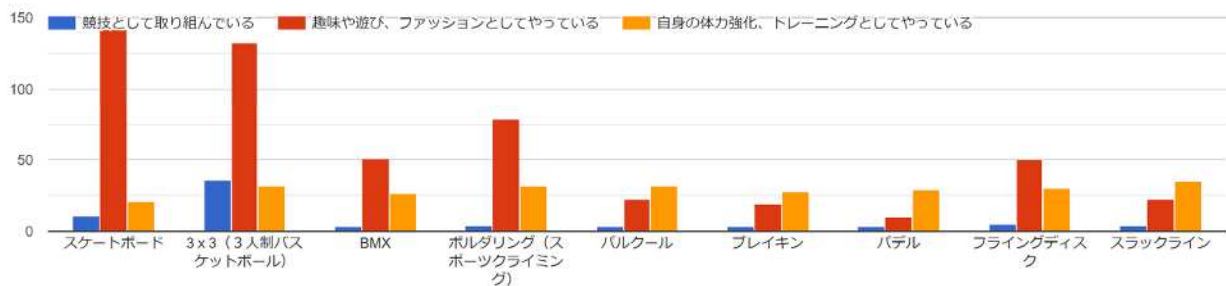
問4. あなたは以下のアーバンスポーツをやったことがありますか。



問5. やっている目的をすべて教えてください。

- 殆どの種目で「趣味や遊び、ファッションとしてやっている」人口が多いことがわかる。

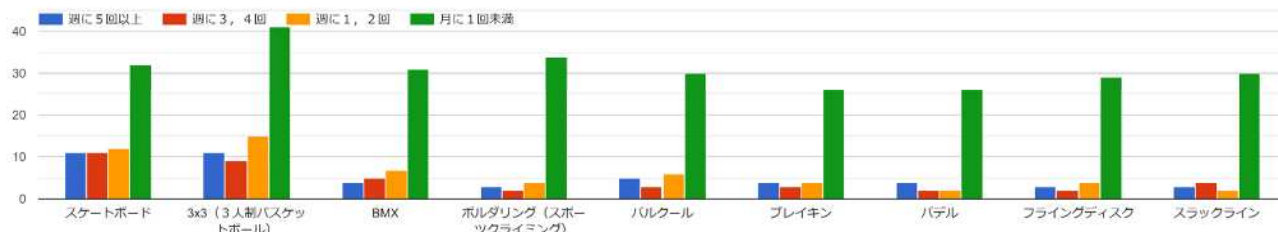
問5. 「問4」で「現在もやっている」「以前やったことがある」と答えた種目について、やっている目的をすべて教えてください。



問6. どの程度の頻度で行っていますか。

- 「スケートボード」「BMX」について、週に5回以上行っている人が一定いることが確認できる。

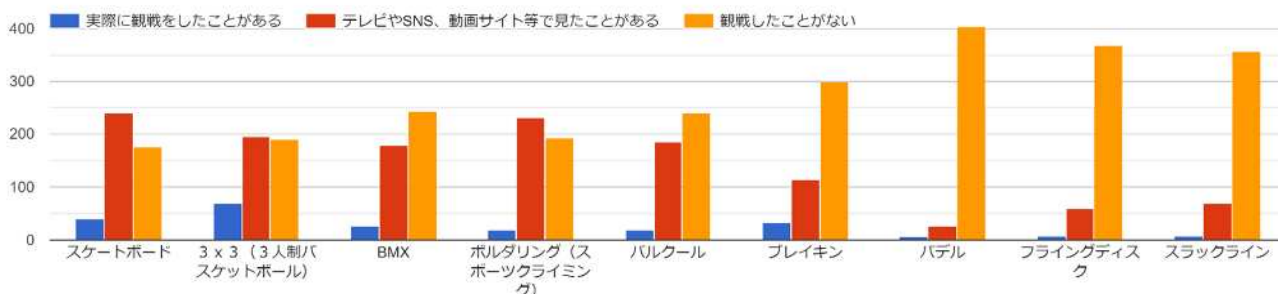
問6. 「問4」で「現在もやっている」と答えた種目について、どの程度の頻度で行っていますか。



問7. あなたは以下のアーバンスポーツを観戦したことがありますか。

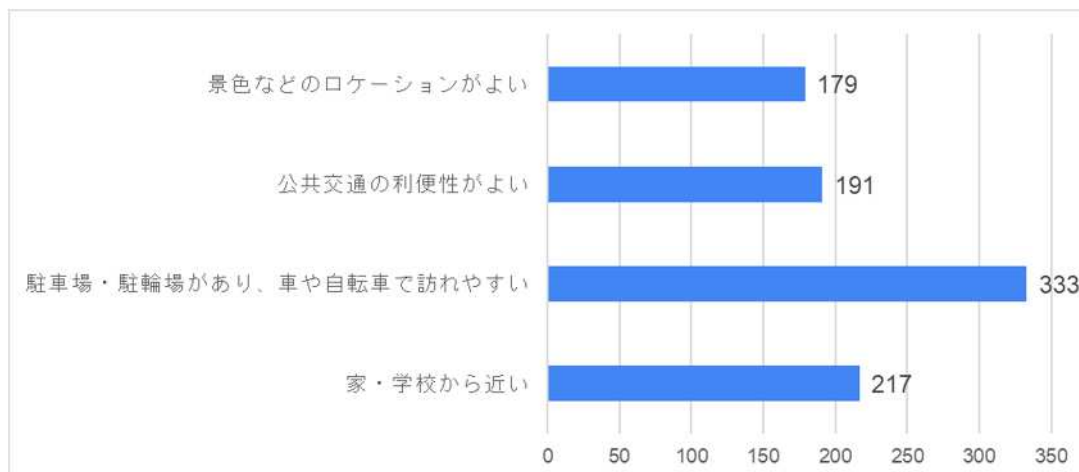
- 「パデル」「フライングディスク」「スラックライン」は観戦したことがある人が少ないことがわかる。
- 「スケートボード」「BMX」「ブレイキン」について、実際に観戦したことがある人は同数であるのに対し、テレビ等での観戦経験に大きく差が生まれている。オリンピックの中継等が要因として考えられる。

問7. あなたは以下のアーバンスポーツを観戦したことがありますか。



問8. アーバンスポーツパークの立地について、望ましいものはどれですか。

- 車や自転車で訪れやすい立地が最も望まれる。

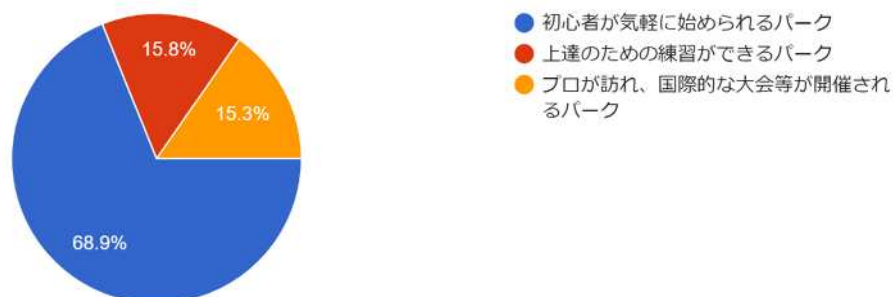


問9. どのようなアーバンスポーツパークが望ましいと思いますか。

- 初心者が気軽に始められるパークが最も望まれていることがわかる。

問9. あなたは以下のうち、どのようなアーバン...。最も当てはまるものをひとつ選んでください。

463 件の回答



問10. アーバンスポーツパークを利用する（いずれかの種目を行う・観戦する）場合、好ましい環境は以下のうちどちらですか。

- 初心者が気軽に始められるパークが最も望まれていることがわかる。

問10. あなたがアーバンスポーツパークを利用...場合、好ましい環境は以下のうちどちらですか。

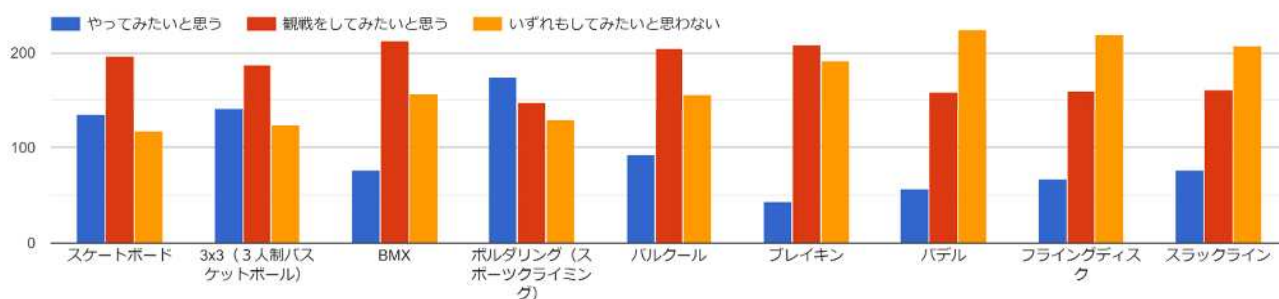
460 件の回答



問11. 今後、名護市でアーバンスポーツパークの整備が行われた場合、以下のアーバンスポーツについて、やってみたいもしくは観戦してみたいと思いますか。

- 「スケートボード」「3x3」「スポーツクライミング」は、ニーズが高いと考えられる。
- 上記に次いで、「BMX」「パルクール」が比較的高い。
- 「ブレイキン」はやってみたいという声は少ないものの、観戦をしてみたいひとは多い。
- 「パデル」「フライングディスク」「スラックライン」はニーズが比較的低いことがわかる。

問11. 今後、名護市でアーバンスポーツパークの整備が行われた場合...ーツについて、やってみたいもしくは観戦してみたいと思いますか。



問12. その他、アーバンスポーツに関する取り組み等について、ご意見やお気づきの点等がございましたら、下記にご記入ください。

管理面についての言及（治安、騒音等）
若者がたむろする場所ではなく、みんなマナーを持って使いやすい環境整備を望む。安全管理の面が心配ではある。
ある程度危険なスポーツなので救護体制や施設管理について検討をお願いします。
安全確保とかも大事。変なたまり場にならないようにするなど…
競技によっては大きな怪我をする恐れがあるので、利用に関する年齢制限や利用条件の設定、及びそれをきちんと管理できる体制を整えてほしい。
若い人が集まるようになると思うので、喜ばしいことだが、未成年利用者の安全面や治安や環境にも配慮してほしい。
騒音や公共物の破損等、治安に関することも整備に伴ってくる問題であると思うので、それについて議論を継続してほしい。
大会を開催すれば自然とやりたい人が増えてくると思う。施設は有料でいいのできれいに整備されていることが望ましい。マナー違反には厳しく注意を。大人の中にはアーバンスポーツに否定的な人もいる。来たときよりも美しく。他のスポーツ同様にルールを守らせて下さい。
都市型スポーツのため、決められた施設外で、ルールを守らず競技を行う方も少なからず発生すると思うので、マナーや事故の危険性の周知を徹底してほしい。
夜はうるさくなりそうだから、夜になったら閉鎖してほしいです。

<b>導入機能についての要望</b>
雨の日も多いので屋内施設は絶対必要です。それでも天気の良い日は屋外でプレイできるよう施設は両方必要だと思います。
若年者向けが、メインになりいいのですが、親子で来ても、くつろげる空間などもほしい、駐車場も、もう少し広げてほしいです！
ヘルメットやサポーターの貸し出しがあったら気軽にスケボーなどやってみたいと思う。
<b>種目についての要望</b>
バレーボールもしたいですお願いします。バレーボールは沖縄でも競技人口がとても多いのでバレーボールができる施設を作るともっと利用する人が増えて、もっと盛り上がると思うのでお願いします
プレイキンだけでなくストリートダンス全般に取り組んでほしい。
リップスティック、ジェイボードなどできるトラックみたいなものもあるといい。
宜野湾のあらは公園のような3x3ができるバスケットボールコートがあるとよい。
<b>賛成・期待する意見</b>
スケートボードがいちばん期待したい。やっている層が幅広く、名護に今後日本を代表していくような選手も集まりだしているの、ツールドのように、名護市の発展に繋がるとみている。
バスケの3×3以外あまり興味がなかったが、初心者でも気軽に組み合わせて、見に行けるなら、どんどん見に行き知りたい！と思う。
若者が集い活気溢れる施設にしてもらいたい。
取り組みについて賛成いたします。 国際大会行われるのが理想ですが、をれに合わせて近郊も利便性が高まるとよいと思います。
また子供たちが体験しやすいようなイベントやスクールがあると地域が活性化すると思う。 近郊の利便性とは、まだ名護は通過点になるような雰囲気があるので 漁港始め海沿いをもうすこし楽しめると良いと思う。
アーバンではないがまだ同じようなものがない、アスレチックプール（浮き輪のアスレチックはホテルによくあるので海外のような大型プールウォータースライダー波のプールサーフィン体験できるプールなどがあると沖縄にないので楽しめる。 漁港では釣りや漁師体験 食育など教育型の体験など、
早く作って欲しい
名護市に早く施設ができることを願っています。
面白そう
北谷のアラハビーチみたいな感じができたら凄いいい！
<b>ソフト事業についての言及意見</b>
アニメや漫画など関連するものが結構あるので、(SK∞など沖縄を舞台にした作品等) 影響を与えやすい媒体とコラボして、流行らせて欲しい。
まずは、アーバンスポーツについて「知る」機会が必要であると考えます。 具体的には、公共施設等でアーバンスポーツの教室を定期的を開講したり、商業施設等でアーバンスポーツの体験イベントを実施したりするなどです。 認知度が低く、スポーツそのものについて知らない人も多いと思いますので、上記のような気軽にアーバンスポーツに触れられる機会を通して、さらなる認知度の向上と魅力の発見に繋げることができると期待しています。
施設整備の前に、アーバンスポーツの一部は多少危険性も伴うと思います。一般にも浸透していないことや安全に普及していくためにも、市民体験講座や指導者養成など、ソフト事業から展開してほしい。
初めやすいように、初心者クラスを定期的を開催して欲しい。
初心者向けの指導等があるといいな。

景観についての言及意見
アートなどがあればスケボーや BMX の雰囲気も出るしフオトスポットにもなるから壁画などがあれば良さそう！ グラフィティアート等
アメリカのように、町と若者達が融合するような施設になると良い。景観の一部にこの施設があるような。
こどもの利用についての言及意見
子供達の遊び場を増やしてほしいです。子供達は成長、吸収が早いのでプロの技を間地かで見せた方がいいと思います。
施設利用は子供たちが主体になるかと思しますので、有料化の必要性も含めて子供たちが利用しやすい施設整備と運用にしてもらいたいです。
利用料金についての言及意見
入場料を無料にする
無料で入れる施設がいい
無料で利用できる施設がいい
立地についての言及意見
内陸につくって欲しい(海沿いではなく)
その他要望について
大会等を定期的に開催し、ただ楽しむだけではなく、練習の場として使用できたら、目標を持って継続的な利用が見込めるのでは。反面、初心者や遊びの場として利用しやすい環境にもなってほしい。(誰でも始められる場所) 場所を分ける、時間を分ける等。
気軽にできることもいいけど、それぞれに経験者、指導者をつけることも必要だと考える。
健常者だけでなく障害のある(発達、肢体)者でも誰でも気軽に参加できる施設・指導者を置いてほしいと思います。
初心者でも入りやすい所がいいとおもう
上達したい人や初心者が楽しめるコース設定するなどの工夫や管理する団体が必要だと思います。ボルタリングについては、屋内の方が機材の劣化を防ぐことができると思います。安全面の確保も含め、より多くの人を楽しめる施設づくりをしてほしい 場所を整備するだけではなく、その競技を推進するためのクラブや教室など競技団体の設立も併せて行うべきと考えます。スケートボードや BMX は上級者にはセクションが必要ですが、初心者用に平坦な場所を広く取る必要があります。また、サーフィンにはワンハンドビーチクリーンという考え方があります。パークの管理を競技団体に委託することで、パークの美化につながると考えます。他市町村では高架下に整備している事例もあるので、名護東道路や沖縄自動車道の高架下も検討してください。期待してます、頑張ってください。
新しいスポーツをするのは楽しい。名護にももっとスポーツ施設が増えて欲しいと思う。主に学生の需要はあると思う。夜間も開けていてくれるとなお良い。
中、南部では大分前からアーバンスポーツのスクールなどもあります。北部でも環境を整えて(土地も中南部より広く取れるのでは?)子供達が気軽に始められるパークの整備をお願いします。
その他
アーバンスポーツの施設が出来ても人目がきになってやりにくい方とか多いと残念に思います
ルールが認知されていないと思う。
気軽にできるスポーツだと思う
本当に市場性があるのでしょうか？

